

科 目 名	臨床栄養学 I				
担 当 教 員 名	中村 育子				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	食品衛生：科目B
実務経験及び授業内容	病院管理栄養士として臨床経験のある教員が臨床現場での管理栄養士としての役割を指導する科目				
学習到達目標	臨床栄養管理における管理栄養士の役割を学ぶ。 1 臨床における管理栄養士の役割について理解する。 2 管理栄養士が実践する臨床栄養管理について説明できる。 3 各疾患における「栄養代謝の特徴」を理解し、栄養食事療法について説明できる。				
授業の概要	傷病者に対する療養のために必要な「栄養の指導」および「栄養ケア」など、臨床栄養学の基本について学ぶ。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス / 臨床栄養学とは 2 臨床における管理栄養士の役割 3 傷病者に対する栄養管理とは 4 臨床における栄養管理の実際 5 疾病別栄養食事療法① ナトリウムコントロール食 6 疾病別栄養食事療法② ナトリウムコントロールと食事療法の実際 7 疾病別栄養食事療法③ エネルギーコントロール食 8 疾病別栄養食事療法④ エネルギーコントロールと食事療法の実際 9 疾病別栄養食事療法⑤ 易消化食 10 疾病別栄養食事療法⑥ 易消化食と食事療法の実際 11 疾病別栄養食事療法⑦ 脂質コントロール食 12 疾病別栄養食事療法⑧ 脂質コントロールと食事療法の実際 13 疾病別栄養食事療法⑨ たんぱく質コントロール食 14 疾病別栄養食事療法⑩ たんぱく質コントロールと食事療法の実際 15 臨床における栄養ケアの実際 				
授業の留意点	<p>【準備学習（予習・復習）等の内容と分量】</p> <p>各授業前に、1～2時間程度の準備学習を要する。 各授業終了後に、1～2時間程度の復習を要する。</p> <p>【その他の留意点】</p> <p>臨床栄養学では、解剖生理学、基礎栄養学、食品学など専門基礎・専門科目のすべての教科と関連している。従って、1年次に学んだ教科については十分に復習した上で、授業に臨むこと。 講義形態は、対面または遠隔とする。</p>				
学生に対する評価	<p>【定期試験 65 点、課題 10 点、ミニテスト 20 点、受講参加態度 5 点】</p> <p>詳細な評価基準は開講時に提示する。</p>				
教科書（購入必須）	<ol style="list-style-type: none"> 1 佐藤和人他「エッセンシャル臨床栄養学」医歯薬出版 2 日本糖尿病学会編「糖尿病治療ガイド」文光堂 				
参考書（購入任意）	開講時に参考文献等を提示する。				

科 目 名	公衆栄養学 I				
担 当 教 員 名	笠井 寛和				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	食品衛生：科目 B
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	道立保健所及び道本庁の管理栄養士として行政経験を持つ教員が、公衆栄養の概念、健康・栄養問題の現状と課題及び栄養政策について、指導する科目				
学 習 到 達 目 標	人間の食生活は、社会水準・社会環境などさまざまな影響を受けて生まれ、食に関わる行動が地域の健康水準を規定している。地域や集団における人間の栄養・食生活を自然的・社会的・経済的・歴史的角度から問題点を取り上げ、それらを左右している要因について多角的視点から理解し、公衆栄養学の概念について学習し、我が国及び諸外国の健康・栄養の現状、課題に対応した栄養政策について説明できる。				
授 業 の 概 要	国際、国、都道府県、市町村の各レベルにおける住民の健康・栄養問題、それらの問題を予防・改善するための公衆栄養プログラムの計画、実施、評価について、それまで学習してきた職域やライフステージ等の視点と組み合わせて検討できることを学ぶ。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 公衆栄養の概念 1 公衆栄養の概念 2 公衆栄養の概念 2 公衆栄養活動 3 健康・栄養問題の現状と課題 1 健康状態の変化 4 健康・栄養問題の現状と課題 2 食事の変化 5 健康・栄養問題の現状と課題 3 食生活の変化 6 健康・栄養問題の現状と課題 4 食環境の変化 7 健康・栄養問題の現状と課題 5 諸外国の健康・栄養問題の現状 8 栄養政策 1 わが国の公衆栄養活動と関連法規 9 栄養政策 2 公衆栄養活動と組織・人材育成 10 栄養政策 3 国民健康・栄養調査 11 栄養政策 4 実施に関する指針、ツール 1 12 栄養政策 5 実施に関する指針、ツール 2 13 栄養政策 6 実施に関する指針、ツール 2 14 栄養政策 7 わが国の健康増進基本方針と地方計画 15 栄養政策 8 諸外国の健康・栄養政策 				
授 業 の 留 意 点	公衆栄養学では、自然、社会、経済、文化的要因に関する情報を収集・分析し、それらを総合的に評価・推進する能力を養うことから、報道等に接し国内外の動向をつかんでおくこと。講義形態は、対面または遠隔とする。				
学 生 対 する 評 価	ノート (30 点)、レポート (20 点)、試験 (50 点) で評価する。				
教 科 書 (購 入 必 須)	公衆栄養学 改訂第 7 版 (編集吉池信男/林宏一、南江堂)				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	公衆栄養学Ⅱ			
担当教員名	笠井 寛和			
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件
実務経験及び授業内容	道立保健所及び道本庁の管理栄養士として行政経験を持つ教員が、栄養疫学、公衆栄養マネジメント及び公衆栄養プログラムについて、指導する科目			
学習到達目標	公衆栄養学Ⅰをふまえ、地域や住民の生活の質の向上ならびに健康状態の改善をねらった公衆栄養プログラムをすすめるための食生活・栄養アセスメントに基づく事業計画の作成、実施、評価について、各方法論の基本を説明できる。また、アセスメントと評価に必要な栄養疫学の基本的知識と技術を説明できる。さらに、これらを効果的に進めるために重要とされる住民参加、地域の資源の活用、コミュニケーション管理などについて学習し、国内外の事例を通して国、都道府県、市町村などにおける公衆栄養マネジメントを説明できる。			
授業の概要	総論として理解した公衆栄養マネジメントの計画、実施、評価について具体的な手順や方法を学習し、理解を深める。特に、アセスメントと評価については、理論と実践を結びつける方法やその具体的スキルを公衆栄養学Ⅱと公衆栄養学実習の両学習を通して習得する。			
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 栄養疫学1 栄養疫学の概要 2 栄養疫学2 栄養疫学の指標 3 栄養疫学3 栄養疫学の方法 4 栄養疫学4 栄養疫学のための食事調査法 5 栄養疫学5 食事摂取量の測定方法 6 栄養疫学6 食事摂取量の評価方法 7 公衆栄養マネジメント1 公衆栄養マネジメントの概念とプロセス 8 公衆栄養マネジメント2 公衆栄養アセスメント 9 公衆栄養マネジメント3 公衆栄養プログラムの目標設定 10 公衆栄養マネジメント4 公衆栄養プログラムの計画 11 公衆栄養マネジメント5 公衆栄養プログラムの実施 12 公衆栄養マネジメント6 公衆栄養プログラムの評価 13 公衆栄養プログラムの展開1 地域特性に応じたプログラムの展開 14 公衆栄養プログラムの展開2 食環境づくりのためのプログラムの展開 15 公衆栄養プログラムの展開3 地域集団の特性別プログラムの展開 			
授業の留意点	公衆栄養学Ⅱでは、公衆栄養プログラム立案の方法論と関連する理論を、公衆栄養学実習ではそれらをふまえた実習を行っていく。 講義形態は、対面または遠隔とする。			
学生に対する評価	ノート（30点）、レポート（20点）、試験（50点）で評価する。			
教科書（購入必須）	公衆栄養学 改訂第7版（編集吉池信男／林宏一、南江堂）			
参考書（購入任意）				

科 目 名	給食経営管理論実習Ⅱ				
担 当 教 員 名	沼口 晶子				
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容	特定給食施設において、施設の管理栄養士の指導のもと給食業務を行うために必要な給食サービス提供に関する知識及び技術を学ぶ。				
学習到達目標	給食業務を行うために必要な、食事の計画や調理を含めた給食サービス提供に関する知識および技術を修得する。				
授業の概要	<p>学外の特定給食施設において、学内の講義、実習で学んだ知識や技術をもとに給食運営の実務について学ぶ。</p> <p>特定給食施設における管理栄養士の専門性、給食の運営において実際に起こる事柄に対する問題解決法などを実践的に学ぶ。</p>				
授業の計画	<p>以下の内容を中心に、各実習施設の実習プログラムに基づいて実施される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 実習施設の組織・運営について 2 特定給食施設の目的、役割、特性について 3 給食経営管理システムについて <ol style="list-style-type: none"> 1) 栄養・食事管理、経営管理について 2) 食材管理、調理作業管理について 3) 衛生管理、安全管理、品質管理について 4) 施設、設備管理について 5) 原価管理について 6) 栄養教育について 4 実習課題への取り組み 				
授業の留意点	<p>学外実習は、実習施設の指導者・職員・施設利用者の方々に様々な協力をいただくことによって成り立っている。</p> <p>事前準備を確実にし、積極的な姿勢で実習に臨むこと。</p>				
学生に対する評価	実習施設指導者からの評価（50点）および事前事後の取り組み状況（50点）により評価する。				
教科書（購入必須）					
参考書（購入任意）	松崎政三・名倉秀子『全施設における臨地実習マニュアル（給食経営管理・給食の運営）』建帛社				

科 目 名	臨床栄養学臨地実習 I				
担 当 教 員 名	中村育子・氏家志乃				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容	医療施設において管理栄養士の指導のもと、実践活動について学ぶ。				
学習到達目標	I 医療における管理栄養士の役割を理解する。 1. 対象者の療養生活を支援する管理栄養士の役割と機能について説明できる。 II 医療施設における栄養過程の展開および食事療養に必要な基本的知識、技術を理解する。 1. 対象者の特性に応じた栄養過程の展開を理解する。 2. 入院時食事療養の実際を説明できる。 III 管理栄養士を目指す学生として、自覚と責任を行動で示すことができる。				
授業の概要	1. 医療施設において、管理栄養士の実践活動について学ぶ。 2. 患者、家族や多職種との関係を円滑に進めることの重要性について学ぶ。 3. 実習での経験を通して、適切な栄養ケアの実施に必要な専門的知識および技術の統合・発展を図る。				
授業の計画	実習方法 臨床栄養学臨地実習 I プログラムに沿って、各実習施設において、実習指導者の指示のもと実施する。				
授業の留意点	3 年前期までの学習を統合する重要な実習です。管理栄養士としての自己課題を明確にし、実習に臨むこと。 また、臨地実習は事前の準備が重要です。既習の各科目を単に振り返るのではなく、栄養ケアへ活かすことを考えながら準備をすること。				
学生に対する評価	実習指導者からの評価および事前・事後の取り組み、実習内容をもとに実習目標の達成度を総合的に評価する。 【事前学習 30 点、実習状況 40 点、事後学習 30 点】				
教科書 (購入必須)	別途、指示する。				
参考書 (購入任意)					

科 目 名	臨床栄養学臨地実習Ⅱ				
担 当 教 員 名	中村育子・氏家志乃				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容	臨床栄養学臨地実習Ⅰを踏まえ、医療施設において管理栄養士の指導のもと、実践活動について学ぶ。				
学習到達目標	臨床栄養学領域で習得した知識・技術・態度の統合・発展をはかり、医療現場で実践されている栄養管理について理解する。 1. 医療における管理栄養士の専門性について理解し説明できる。 2. 栄養ケアマネジメントの実際を理解する。 3. 傷病者に対する栄養学的課題を抽出し、栄養ケアプランが作成できる。 4. チーム医療、NSTの実際を理解し、患者および医療スタッフと適切なコミュニケーションがとれる。				
授業の概要	三年次の臨床栄養学臨地実習Ⅰを踏まえ、臨床現場におけるより実践的な知識・スキルを学び取る。 臨地実習の事前学習に十分な時間をかけ準備する。 自主研究テーマを設定し、テーマに特化した学びを深める。				
授業の計画	実習方法 実習施設での実習プログラムに基づき、実習指導者の指導のもとに実施される。				
授業の留意点	臨床領域の管理栄養士を目指す学生向けのプログラムである。 三年次までに学んだ知識・スキルを統合し実践的に学習する。 実習に向けての目標を明確化し、主体的な取り組みを期待する。				
学生に対する評価	【事前・事後の取り組み 50点、実習状況 50点】 詳細については授業の際に説明する。				
教科書 (購入必須)	特に指定しない。				
参考書 (購入任意)					

科 目 名	公衆栄養学実習				
担 当 教 員 名	笠井 寛和				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容	道立保健所及び道本庁の管理栄養士として行政経験を持つ教員が、地域における公衆栄養アセスメント及び公衆栄養プログラムについて、指導する科目				
学習到達目標	公衆栄養学Ⅰ及び公衆栄養学Ⅱで習得した知識と技術を実践的に活用できる力の形成をねらいとする。地域において、住民主体でQOLを高める公衆栄養プログラムの特徴や役割を説明できる。また、国民健康・栄養調査や北海道健康増進計画、名寄市健康増進計画など既存の資料を活用しながらグループで学習し、方策決定と連携のあり方について総合的に公衆栄養学マネジメントの理解を深め、管理栄養士の役割を説明できる。				
授業の概要	総論として理解した公衆栄養プログラムの計画、実施、評価について具体的な手順や方法を学習し、理解を深める。特に、アセスメントと計画策定については、理論と実践を結びつける方法やその具体的スキルを習得する。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 地域における公衆栄養プログラムの対象及び関連する機関の役割と連携 2 地域における公衆栄養プログラム 1 3 公衆栄養学臨地実習報告会 1 4 公衆栄養学臨地実習報告会 2 5 地域における公衆栄養プログラム 2 6 地域における公衆栄養プログラム 3 7 地域における公衆栄養プログラム 4 8 地域における公衆栄養プログラム 5 9 地域における公衆栄養プログラム 6 10 栄養・食生活支援と食を通じた社会環境の整備 11 公衆栄養アセスメント 1 12 公衆栄養アセスメント 2 13 公衆栄養プログラムの計画策定 14 公衆栄養プログラムの実施 15 公衆栄養プログラムの評価 				
授業の留意点	小グループで学習するので、各自積極的な姿勢で臨むこと。 実習形態は対面とする。				
学生に対する評価	各授業における作成資料（50点）、地域における公衆栄養プログラムへの取組状況（50点）で評価する。				
教科書（購入必須）	公衆栄養学実習 第二版～事例から学ぶ公衆栄養プログラムの展開～（手嶋哲子・田中久子編集、同文書院）				
参考書（購入任意）					

科 目 名	公衆栄養学臨地実習				
担 当 教 員 名	笠井 寛和				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単 位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必 修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	道立保健所及び市町村保健センターにおいて、専門職指導者のもと、地域における公衆栄養アセスメント及び公衆栄養プログラムについて学び、行政機関における管理栄養士の役割について指導する科目				
学 習 到 達 目 標	保健所または保健センターなどにおいて、地域における QOL の向上や生活習慣の改善を考えた健康づくりの推進や公衆栄養活動を理解し、管理栄養士の役割および業務について実習できる。また、健康づくり・栄養・食生活情報を収集・分析し、総合的な評価・判定について実習できる。さらに、地域の特性をふまえた事業内容や方法の実際、地域住民に応じた公衆栄養プログラムの作成・実施・評価および総合的なマネジメントに必要な事項の実際を実習できる。				
授 業 の 概 要	実習先での学習を中心に、事前の書類作成、自らの課題設定、地域についての学習、実習終了後のふりかえりと自己評価を行う。				
授 業 の 計 画	各実習施設での実習プログラムに沿って、実習指導者の指示のもと実施				
授 業 の 留 意 点	実習先では、対象の視点に立った支援とは何かについて考え、他職種との連携や社会人としての責任ある行動をとることについて理解を深める。				
学 生 対 する 評 価	臨地実習に関わる書類作成（20 点）及び臨地実習先の評価（80 点）で評価する。 実習形態は、対面とする。				
教 科 書 (購 入 必 須)	<ul style="list-style-type: none"> ・公衆栄養学 改訂第7版（編集吉池信男／林宏一、南江堂） ・公衆栄養学実習 第二版～事例から学ぶ公衆栄養学プログラムの展開～（手嶋哲子、田中久子編集、同文書院） 				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	総合演習Ⅱ				
担 当 教 員 名	栄養学科教員				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必修選択	必修	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容	道立保健所及び道本庁の管理栄養士として行政経験を持つ教員が、公衆栄養学臨地実習実施に向けた課題作成、事後評価及び報告会により、公衆栄養アセスメント及び公衆栄養プログラムについて、指導する科目				
学習到達目標	公衆栄養学、臨床栄養学、栄養教育論、給食経営管理論、応用栄養学などで学んだ知識と理論をふまえ、臨地実習及び学内演習をとおして、地域住民の栄養状態の把握、栄養改善活動の効果判定、傷病者の栄養状態の評価および給食の提供、栄養教育、栄養管理を行うための実践的能力を身につける。				
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 公衆栄養学臨地実習の準備及び課題作成、事後評価、報告会をふまえて、地域住民の栄養管理、栄養改善活動について理解を深める。 2 前年度に実施した臨床栄養学臨地実習を振り返り、医療機関における管理栄養士の役割について理解を深める。 3 専門基礎・専門各科目を振り返り、管理栄養士各業務について理解を深める。 				
授業の計画	<p>1-15 公衆栄養分野</p> <p>16-22 臨床栄養分野</p> <p>23-30 専門基礎・専門分野</p>				
授業の留意点	専門基礎分野科目、専門分野科目で学んだ内容を管理栄養士業務との関連を考慮しながら十分に復習すること。授業には積極的な姿勢で取り組むこと。 演習形態は対面とする。				
学生に対する評価	課題取組（70点）、報告書（30点）により総合的に評価する。				
教科書（購入必須）	<ul style="list-style-type: none"> ・公衆栄養学 改訂第7版（編集吉池信男／林宏一、南江堂） ・公衆栄養学実習 第二版～事例から学ぶ公衆栄養学プログラムの展開～（手嶋哲子、田中久子編集、同文書院） 他 				
参考書（購入任意）					

科目名	栄養教諭論				
担当教員名	黒河 あおい				
学年配当	3年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	前期	必修選択	教職(栄養)：必修	資格要件	教職(栄養)：必修
実務経験及び授業内容	栄養教諭として食に関する指導・給食管理の経験を持つ教員が、栄養教諭の職務である「学校給食の管理」および「食に関する指導」について理解を深め、栄養教諭としての基礎的な知識を修得させる科目				
学習到達目標	栄養教諭の職務である学校給食の管理および食に関する指導について基礎的な知識を修得し、理解を深める。				
授業の概要	<p>①学校給食および食に関する指導の対象となる児童生徒の成長・発達、生活状況などについて確認する。</p> <p>②学校給食および食に関する指導にかかわる法制を理解する。</p> <p>③食に関する指導と各教科および給食業務のかかわりについて学ぶ。</p> <p>④教材となる献立作成が「食に関する指導の全体計画」に結びつき指導案の作成に繋がることを理解する。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 栄養教諭の現状、児童生徒の成長、発達 2 児童生徒の生活状況 3 学校給食、食に関する指導の歴史 4 学校給食、食に関する指導にかかわる法令 5 「食に関する指導」(1)－全体計画 ①必要性 ②作成手順 ③留意点 6 「食に関する指導」(2)－指導計画・成果・評価 7 「食に関する指導」(3)－①給食の時間 ②発達段階に応じた内容 8 「食に関する指導」(4)－教科「総合的な学習の時間」「特別活動」 9 「食に関する指導」(5)－教科「家庭科、技術・家庭科」「体育科、保健体育科」 10 「食に関する指導」(6)－教科「道徳」「生活科」 11 「食に関する指導」(7)－個別栄養相談指導 家庭・地域との連携 12 給食管理における栄養教諭の役割(1)献立作成、食品構成 13 給食管理における栄養教諭の役割(2)学校給食摂取標準 14 給食管理における栄養教諭の役割(3)衛生管理 15 給食管理における栄養教諭の役割(4)施設設備 				
授業の留意点	栄養教諭は栄養士職と教育職を兼ね備える職種であり、全ての基本は「給食管理」であることを認識して授業に臨んでほしい。				
学生に対する評価	小テスト(20点)、レポート(20点)、試験(60点)により総合的に評価する。				
教科書(購入必須)	『栄養教諭論－理論と実際－4訂版』 金田雅代編著 建帛社 『食に関する指導の手引-第Ⅱ二次改訂版-i』 文部科学省 東山書房 『小学校学習指導要領(平成29年3月告示)』 文部科学省 東京書籍 『中学校学習指導要領(平成29年3月告示)』 文部科学省 東山書房 『小学校学習指導要領解説 総則編(平成29年7月)』 文部科学省 東洋館出版社 『中学校学習指導要領解説 総則編(平成29年7月)』 文部科学省 ぎょうせい 『小学校学習指導要領解説 家庭編(平成29年7月)』 文部科学省 東洋館出版社 『中学校学習指導要領解説				
参考書(購入任意)					

科 目 名	食生活・食文化論				
担 当 教 員 名	黒河 あおい				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講 義
開 講 時 期	後 期	必 修 選 択	教 職 (栄 養) : 必 修	資 格 要 件	教 職 (栄 養) : 必 修
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	栄養教諭として食に関する指導・給食管理の経験を持つ教員が、小中学生の生活環境に適した食教育の実践および学校給食の教育効果を引き出すために、食生活の変遷や現状について理解を深め、食文化に関する知識を修得させる科目				
学 習 到 達 目 標	小中学生の生活環境に適した食教育の実践および学校給食の教育的効果を引き出すために、食生活の変遷や現状について理解を深め、食文化に関する知識を修得する。				
授 業 の 概 要	前半は既存資料をもとに食生活の変遷と現状および児童生徒の栄養・食生活状況を把握し、家庭の食事や学校給食の変遷を確認する。後半は日本における食文化を概観し、地域の食文化の礎となる地場産物について演習を通して学習する。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 日本における食生活の変遷 2 日本における食生活の現状 3 全国調査にみる児童生徒の栄養・食生活状況 4 地域における児童生徒の栄養・食生活状況 5 家庭食の変遷 6 学校給食の変遷 7 日本の食文化 8 地域の食文化 9 地場産物と食に関する指導 10 地場産物と学校給食①北海道の地場産物 11 地場産物と学校給食②出身地別の地場産物 12 演習①関心のある地域の地場産物を調べる 13 演習②給食における地場産物の活用を考える 14 演習③食に関する指導における地場産物の活用を考える 15 演習④地場産物についての発表、レポート提出 				
授 業 の 留 意 点	食および地域について広く関心をもって授業に臨んでほしい。				
学 生 に 対 する 評 価	発表内容 (30 点)、試験 (70 点) により総合的に評価する。				
教 科 書 (購 入 必 須)	金田雅代編著『栄養教諭論－理論と実際－3訂』建帛社、2009年 文部科学省『食に関する指導の手引－第二次改訂版－』東山書房、2019年 文部科学省『小学校学習指導要領〈平成20年3月告示〉』東京書籍、2008年 文部科学省『中学校学習指導要領〈平成20年3月告示〉』東京書籍、2008年				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	食教育指導論				
担当教員名	黒河 あおい				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	教職(栄養)：必修	資 格 要 件	教職(栄養)：必修
実務経験及び授業内容	栄養教諭として食に関する指導・給食管理の経験を持つ教員が、小中学生の生活環境に適した食教育の実践および学校給食の教育効果を引き出すために、食生活の変遷や現状について理解を深め、食文化に関する知識を修得させる科目				
学習到達目標	食に関する指導の目標および必要性を理解し、食に関する指導に係る全体計画の作成・教科等との関連および個別的な相談指導等、学校内における様々な場面での指導、さらに家庭・地域との連携、調整の重要性を広く横断的に見る力を養う。 学習指導案の作成・発表・模擬授業などの演習を通し、栄養教諭としての指導法・技法等を修得する。				
授業の概要	栄養教諭として各自のテーマをもつことができるように知識を凝集していき、各自のテーマに対して広い視野から問題を把握し、指導計画案を作成・実行・評価することを学ぶ。 学校給食を「生きた教材」として活用する食に関する指導についての理解を深めるために、現役栄養教諭に実際の職務についての講義をしていただき、栄養教育実習先を想定して学校給食を教材とした「食に関する指導」の指導案作成・模擬授業などを行う。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス：「食教育指導論」で何を学ぶか、学校における食育の推進の必要性、食に関する指導の目標・必要性 2 食に関する指導に係る全体計画の作成、各教科等における食に関する指導の展開 3 学校給食を生きた教材とした食育の推進、学校・家庭・地域が連携した食育の推進 4 個別的な相談指導の進め方、学校における食育の推進の評価 5 食に関する指導の教育理論と技術 6 教材研究、指導案づくり 7 食に関する指導と学校給食の管理を一体のものとして行う職務の実際 8 給食時間における食に関する指導の指導案づくり 9 給食における食に関する指導の模擬授業 (1) 発表会 (前半グループ) 10 給食における食に関する指導の模擬授業 (2) 発表会 (後半グループ) 11 栄養教諭の職務の実際 (1) 学校における職務内容 12 栄養教諭の職務の実際 (2) 調理場における職務内容 13 給食を教材として活用する授業の指導案作成 (1) 教科目標と会に関する指導 14 給食を教材として活用する授業の指導案作成 (2) 15 まとめ 				
授業の留意点	栄養教育実習で実施する研究授業につながる科目であり課題が多い科目であるが積極的に取り組んでほしい。				
学生に対する評価	提出物提出状況 (30 点)、試験 (70 点) により総合的に行う。				
教科書 (購入必須)	文部科学省『食に関する指導の手引-第二次改訂版-』(東山書房) 文部科学省『小学校学習指導要領』(東京書籍)				
参考書 (購入任意)					

科 目 名	栄養教育実習事前事後指導				
担 当 教 員 名	黒河 あおい				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単 位	開 講 形 態	演 習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	教職(栄養)：必修	資 格 要 件	教職(栄養)：必修
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	栄養教諭としての経験を持つ教員が、事前指導では、栄養教育実習の意義や目的を理解し実習に必要な知識や技術を確実なものにできるように指導し、事後指導では、自分の課題を明確化し、今後さらに修得する必要がある知識・技術、コミュニケーション能力などについて明らかにできるように指導する科目				
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・事前指導では、栄養教育実習の意義や目的を理解し、実習に必要な知識や技術を確実なものにする。 ・事後指導では、自分の課題を明確化し、今後さらに修得する必要がある知識・技術、コミュニケーション能力などについて明らかにする。 				
授 業 の 概 要	<p>事前指導では、栄養教育実習の意義や目的を理解し、実習心得を確認する。 また、児童・生徒についての食に関する課題を明確にし、実習日誌や実習報告書の作成方法等を通じ実習効果を高める方法を学ぶ。 実習校での研究授業の準備を行う。</p> <p>事後指導では、実習の問題点を整理し、実習内容および研究課題などをまとめ、報告会で発表する。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 栄養教育実習の意義、目的、内容 2 栄養教育実習のための準備と心得 3-6 模擬授業 7-8 栄養教育実習報告会 				
授 業 の 留 意 点	<p>栄養教諭の職務は、食に関する指導と学校給食の管理を一体的に展開することであるため、学校給食の管理についての復習をしてから授業に臨んでほしい。</p> <p>また、栄養教育実習の意味を十分に理解し、その準備に真剣に取り組み、実習後には課題を明確化して将来につなげてほしい。</p>				
学 生 に 対 す る 評 価	提出物（50点）、模擬授業（50点）の内容などから総合的に評価する。				
教 科 書 (購 入 必 須)	<p>栄養教育実習日誌（担当教員作成） 教育実習の手引き（第6版）学術図書出版社 教職課程で使用したすべてのテキストを参考書として使用する。</p>				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	臨床治療学 I			
担 当 教 員 名	長谷部佳子・南山祥子・中谷美紀子・鈴木捷允			
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件
実務経験及び授業内容	看護師としての経験を有する教員が、病院など医療の現場で求められる病態生理・検査・治療などの医学的専門知識に関して、看護師の視点も踏まえながら教授する科目			
学習到達目標	本講義では、器官系統別[消化器系、呼吸器系、循環器系、腎・泌尿器系、血液・造血器系、脳神経系、骨関節筋肉系、免疫系、内分泌・代謝系]の高頻度に見られる疾患について、その原因・病態・診断のための検査・治療について理解し、ケアにつなげるための基礎的知識を学ぶことを目標とする。			
授業の概要	健康障害をもつ患者を看護するためには、健康障害についてアセスメントを行うことが必要である。すなわち、健康障害を引き起こしている疾患を理解し、その疾患が患者の身体的、精神的、社会的側面にどのような影響を与えているかを分析・判断することが看護職には求められている。ここでは器官系統別[消化器系、呼吸器系、循環器系、腎・泌尿器系、血液・造血器系、脳神経系、骨関節筋肉系、免疫系、内分泌・代謝系]の疾患についてその原因・病態・診断のための検査・治療について学ぶ。治療は、内科的治療法と外科的治療法について学ぶ。			
授業の計画	1-6 消化器疾患（主に食道がん、胃がん、大腸がん、イレウス、クローン病、胃・十二指腸潰瘍、膵炎、肝炎、食道静脈瘤、肝がん、肝硬変）の原因・病態・診断のための検査・治療 7-10 呼吸器疾患（主に肺がん、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、呼吸不全）の原因・病態・診断のための検査・治療 11-14 循環器疾患（主に虚血性心疾患、心不全、大血管疾患、末梢血管疾患）の原因・病態・診断のための検査・治療 15-17 腎・泌尿器疾患（主に腎不全、腎腫瘍、膀胱がん、前立腺がん、前立腺肥大症）の原因・病態・診断のための検査・治療 18 血液・造血器疾患（主に白血病、悪性リンパ腫、再生不良性貧血）の原因・病態・診断のための検査・治療 19-22 脳神経疾患（主に脳血管障害、頭部外傷、脳腫瘍、神経難病）の原因・病態・診断のための検査・治療 23-26 骨関節筋肉疾患（主に骨折、椎間板ヘルニア、脊髄損傷、変形性関節症）の原因・病態・診断のための検査・治療 27-28 内分泌・代謝疾患（主に糖尿病、高脂血症、高尿酸血症）の原因・病態・診断のための検査・治療 29-30 免疫疾患（主に関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、強皮症、AIDS）の原因・病態・診断のための検査・治療			
授業の留意点	すでに履修済みの人体形態学、人体機能学を復習しておくことが望ましい。			
学生に対する評価	<試験の採点と再試験について> 1) 循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、脳神経疾患、骨関節筋肉疾患、腎・泌尿器疾患、内分泌・代謝疾患、血液・造血器疾患、免疫疾患の9つの領域を3つのグループ分けて3回の試験を行う。各グループは100点満点とし、1つのグループで60点未満の場合はそのグループの領域分が再試となる。 再試験となった場合は、再試験の点数が60点以上でも「60点」として計算される。 小テストの点数は、領域①では循環器10点、呼吸器10点、領域③では消化器15点満点で換算する。 2) 「臨床治療学 I」の成績評価は、300点満点で判定（3つの試験の合計点）。最終成績評価は、100点に換算する。 例：270～300点⇒秀、240～269点⇒優、210～239点⇒良、180～209点⇒可、180点未満⇒不可 1つのグループでも再試験となった場合は、合格しても最終評価は「可」となる。			
教科書（購入必須）	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [2] 呼吸器、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [3] 循環器、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [4] 血液・造血器、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [5] 消化器、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [6] 内分泌・代謝、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [7] 脳神経、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [8] 腎・泌尿器、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [10] 運動器、医学書			
参考書（購入任意）				

科 目 名	生涯発達論			
担 当 教 員 名	結城佳子			
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件
実務経験及び授業内容	看護師等として出生から看取りまでの心のケア実践経験を有する教員が、対人援助において必須である生涯発達に関する基本的知識と考え方を指導する科目			
学習到達目標	生涯発達とは、胎生期から死に至る人の生涯において、より適切な適応のあり方を期待する包括的な概念である。保健・医療・福祉、教育等の領域で対象者を支援しようとするとき、生涯発達についての理解は不可欠である。生涯発達についての基本的考え方、人の生涯発達とその過程における危機的状況について理解することを目標とする。			
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生涯発達とは何か、基本的理解のための解説を行う。 2. E.H.エリクソンの生涯発達理論にそって、各発達段階にある人々のありよう、達成すべき発達課題について解説する。 3. 発達課題への取り組みにおいて、危機的な状況にある人々等のありようを解説する。 4. 人を理解する上で生涯発達への視点がなぜ必要なのか、多様化・複雑化する社会の中での課題を考える。 			
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 生涯発達とは 発達段階と発達課題 2 生涯発達の基本的理解 E.H.エリクソンの考え方を中心に 3 胎生期から乳児期前期 信頼 対 不信 4 乳児期後期 信頼 対 不信 5 幼児期前期 自律性 対 恥・疑惑 6 幼児期後期 積極性 対 罪悪感 7 学童期 勤勉性 対 劣等感 8 中間まとめ 子どもという存在と重要他者 9 思春期・青年期 同一性 対 拡散（1） 思春期・青年期のからだところの変化 10 思春期・青年期 同一性 対 拡散（2） アイデンティティとその危機 11 思春期・青年期 同一性 対 拡散（3） 成年期へ 12 成年前期 親密性 対 孤独感 13 成年期 生成継承性 対 停滞 14 成熟期 統合 対 絶望 15 まとめ 人が生きるということ 			
授業の留意点	積極的に授業へ参加することを期待する。自ら考える姿勢が望ましい。授業の進行状況等によって講義内容を変更することがある。			
学生に対する評価	筆記試験（100点）			
教科書（購入必須）	テキストは使用せず、資料を配布する。			
参考書（購入任意）	必要時指示する。			

科 目 名	人間関係論				
担 当 教 員 名	結城 佳子				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容	看護師等として多様な場面での心のケア実践経験を有する教員が、対人援助の基盤となる人間関係に関する基本的知識と考え方を指導する科目				
学習到達目標	看護の担い手は、対人援助専門職として対象者との間に援助的人間関係を構築し、維持することが求められる。人の発達、成長、成熟に深く関わる人間関係の基礎的理論を学び、自己理解・他者理解を通じて、看護実践の基礎となる人間関係について理解を深めることを目標とする。				
授業の概要	ほぼ毎回の授業で講義とともに小課題、ワークなどに取り組み、体験を通して人間関係について理解を深める。小課題、ワークの内容によっては、グループワークを行うこともある。各回の授業での体験や学びを授業時間内に小レポートにまとめ、提出する。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション/人間関係の基礎① 人間関係の基本的視点 2 人間関係の基礎② 自己理解 3 人間関係の基礎③ 他者理解 4 自己と他者のコミュニケーション① 話す/聴く 5 自己と他者のコミュニケーション② 観る/感じる 6 人間関係の生涯発達① 乳幼児期～学童期 7 人間関係の生涯発達② 思春期・青年期～老年期 8 人間関係の諸相① 家庭 9 人間関係の諸相② 学校/職場 10 集団の人間関係① 支配と権威 11 集団の人間関係② 親和と同調 12 集団の人間関係③ 攻撃と敵対 13 集団の人間関係④ 援助と協調 14 対人援助における人間関係① 医療チームにおける人間関係 15 対人援助における人間関係② 患者一看護師関係 				
授業の留意点	主体的に授業に参加し、感じ、考え、学ぶ姿勢を求める。授業の進行状況、時事問題によって講義内容を変更することがある。				
学生に対する評価	講義各回で提出する小レポート 30 点、レポート課題 70 点、合計 100 点とし、以下の 5 段階で評価する。 S : 素点 90 点以上、A : 素点 80～89 点、B : 素点 70～79 点、C : 素点 60～69 点、D : 素点 59 点以下 C 以上の評価について単位を認定する。D 評価の者は課題再提出とし、同様に評価する。 なお、学習の進行状況によりレポート課題を課することがある。その場合の評価も同様に行う。				
教科書 (購入必須)	服部祥子『人を育む人間関係論』医学書院				
参考書 (購入任意)	必要時、指示する。				

科 目 名	看護学概論				
担 当 教 員 名	畑瀬 智恵美				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	看護師として臨床経験を持つ教員が、看護の本質、看護学の学問特性、職業的看護の歴史的経緯・法的基礎、社会のニーズと看護の機能など、実践学を成立させる基本的要素について教授する科目				
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護とは何かについて説明できる。 2. 看護学の構成要素である看護、人間、健康、環境の概念および概念間の関連性について説明できる。 3. 看護理論の複数のキーワードについて説明できる。 4. 保健医療福祉分野における看護の役割について説明できる。 5. 看護における倫理の重要性について説明できる。 				
授 業 の 概 要	看護の本質、看護学の学問特性、職業的看護の歴史的経緯・法的基礎、社会のニーズと看護の機能など、実践学を成立させる基本的要素について理解する。そのために中心的な看護概念を把握し、主な看護理論を学ぶ。また、近年の保健医療福祉分野における看護職の役割と機能を理解する。さらに、看護の対象者である人間を理解するための倫理的態度やケアリングを学び、看護職としての看護観の確立に努める。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、看護の変遷ー看護の原点、看護の語源 2 看護の変遷ー看護の歴史 3 「看護覚え書」からナイチンゲールの述べる看護について グループでまとめる 4 看護学の主要概念 看護、人間 5 看護学の主要概念 看護、人間 6 看護学の主要概念 健康、環境 7 ナイチンゲール「看護覚え書」講読の発表 8 看護理論の変遷と概要 9 看護理論の講読（グループワーク） 10 職業的看護の発展 11 看護の役割と機能 12 看護制度と政策、看護サービス 13 看護における倫理・法 14 看護理論の講読（グループワーク） 発表資料作成 15 看護理論の講読（グループ発表） 				
授 業 の 留 意 点	看護に関するさまざまな文献を読むなど積極的に学習し、「看護とは何か」について、主体的に考えていきましょう。また、グループワークの際は協力し合いきましょう。 事前課題に示したものは、授業までにまとめましょう。 授業で配布した資料やグループでまとめた資料は、ファイリングしてください。				
学 生 に 対 する 評 価	定期試験 80点と提出物 20点の合計点で評価します。尚、試験 6割（48点）以上、提出物 6割（12点）以上を取得した場合に合格となります。 以上、試験、提出物のすべての合格により単位は認定されます。				
教 科 書 (購入必須)	<ol style="list-style-type: none"> ①茂野香おる代表：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[1] 看護学概論、第 16 版、医学書院 ②フローレンス・ナイチンゲール著『看護覚え書』（改訳第 7 版）現代社 ③ヘンダーソン.V（湯楨ます・小玉香津子訳）：看護の基本となるもの、日本看護協会出版会 				
参 考 書 (購入任意)	・城ヶ端初子編：新訂版 実践に生かす看護理論 19、サイオ出版				

科 目 名	看護技術論				
担 当 教 員 名	畑瀬 智恵美				
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	看護師として臨床経験を持つ教員が、看護の対象となる人々へ安全で、安楽な、そして自立を促すことを目指した目的意識的な行為である看護技術の特徴について教授する科目				
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護技術の特徴について説明することができる。 2. 看護技術における安全性・安楽性・自立支援について説明することができる。 3. 科学的根拠に基づいた看護を展開する技術について説明することができる。 4. 看護の専門性と看護技術の発展について説明することができる。 5. 看護技術の修得過程における課題を述べるることができる。 				
授 業 の 概 要	看護の対象となる人々へ安全で、安楽な、そして自立を促すことを目指した目的意識的な行為である看護技術の特徴について理解する。看護技術は、科学的根拠に基づいて、個別性を重視して実践されること、看護技術の修得過程における課題について考察していく。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 看護技術の特徴 2 看護技術の特徴：サイエンスでありアートであるという意味について 3 看護技術の要素：安全性、安楽性、自立支援 4 看護技術の要素：グループワーク 5 看護技術の要素：グループワークの発表 6 看護技術と看護過程 7 看護技術と看護理論 8 看護の専門性と看護技術の発展 				
授 業 の 留 意 点	授業で提示した参考資料は熟読しましょう。 授業で配布した資料やグループでまとめた資料は、ファイリングしてください。 グループワークでは、メンバーの考えをきいて、学習を深めてください。				
学 生 に 対 す る 評 価	定期試験 80 点と提出物 20 点の合計点で評価します。尚、試験 6 割 (48 点) 以上、提出物 6 割 (12 点) 以上を取得した場合に合格となります。 以上、試験、提出物のすべての合格により単位は認定されます。				
教 科 書 (購 入 必 須)	深井喜代子編：基礎看護技術 I、メヂカルフレンド社				
参 考 書 (購 入 任 意)	授業中に提示する。				

科 目 名	看護共通技術 I				
担 当 教 員 名	鈴木朋子・齋藤千秋				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演 習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	看護師として臨床経験を持つ教員が、看護実践に必要な感染予防技術、安全管理技術、安楽促進技術を教授する科目				
学 習 到 達 目 標	<p>1. 看護実践の基本となる感染予防技術、安全管理技術、安楽促進技術について、科学的根拠を踏まえて説明することができる。</p> <p>2. 看護実践に共通する感染予防技術、安楽促進技術に関する基本的な看護技術を実施できる。</p>				
授 業 の 概 要	看護実践に必要な感染予防技術、安全管理技術、安楽促進技術を学ぶ。				
授 業 の 計 画	<p>1 オリエンテーション、感染予防技術</p> <p>2 感染予防技術</p> <p>3 感染予防技術【演習】手洗い、個人防護用具の装着①</p> <p>4 感染予防技術・スタンダードプリコーション（認定看護師）</p> <p>5 安楽促進技術</p> <p>6 安楽促進技術</p> <p>7-8 安楽促進技術【演習】ボディメカニクスの基本、安楽な体位、体位変換</p> <p>9 安楽促進技術【演習】温電法、冷電法</p> <p>10-11 病院見学</p> <p>12-13 感染予防技術【演習】消毒、滅菌、個人防護用具の装着②</p> <p>14-15 安全管理技術（ヒューマンエラー、看護事故の構造、看護事故防止対策）</p>				
授 業 の 留 意 点	<p>この科目は、講義、事前学習、演習、事後学習で構成されています。したがって、講義を受けた上で、事前学習、演習に臨み、事後学習として、リフレクションを行ってください。</p> <p>学生個々が主体的な練習を繰り返して看護技術を修得していく必要があります。</p> <p>授業で配布した資料や自己学習したものは、ファイリングしてください。</p> <p>看護技術演習は、実習室を病室・療養の場として設定していますので、主体的な参加とともに、援助にふさわしい言葉づかいや身だしなみを整えることも学び、少しずつ看護職者に近づいていきましょう。</p>				
学 生 に 対 す る 評 価	<p>定期試験 80 点と提出物 20 点の合計点で評価します。なお、試験 6 割（48 点）以上、提出物 6 割（12 点）以上を取得した場合に合格となります。</p> <p>以上、試験、提出物のすべての合格により単位は認定されます。</p>				
教 科 書 (購 入 必 須)	<p>①深井喜代子編：基礎看護技術 I、メヂカルフレンド社</p> <p>②任和子・井川順子・秋山智弥編：基礎・臨床看護技術、第 2 版、医学書院</p>				
参 考 書 (購 入 任 意)	<p>・吉田みつ子・本庄恵子監修：写真でわかる基礎看護技術、インターメディカ</p>				

科 目 名	看護共通技術Ⅱ				
担 当 教 員 名	齋藤千秋・鈴木朋子				
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	看護師として臨床経験を持つ教員が、看護実践に必要なコミュニケーション技術、看護過程の展開技術、終末期における援助を教授する科目				
学 習 到 達 目 標	1. コミュニケーションの基礎知識を理解し、看護場面における効果的なコミュニケーション技法について説明できる。 2. 紙上事例を用いて、科学的根拠を基に、対象者のニーズや看護上の問題を明らかにし、一連の問題解決型思考プロセスを展開できる。 3. 死の看取りにおける技術の目的、留意点、方法について説明できる。				
授 業 の 概 要	看護実践に必要なコミュニケーション技術、看護過程の展開技術、終末期における援助を学ぶ。				
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション、コミュニケーション技術 2-4 コミュニケーション技術（面接のロールプレイ） 5 看護過程の展開技術、ゴードンの11の機能的健康パターン 6 アセスメント（パターン1） 7 アセスメント（パターン2・3） 8 アセスメント（パターン4・5） 9 アセスメント（パターン6・7・8） 10 アセスメント（パターン9・10・11） 11 看護問題の明確化、全体像 12 看護計画立案 13 実施・評価、看護記録 14 死の看取りの技術（悲嘆へのケア） 15 死の看取りの技術（死後のケア）				
授 業 の 留 意 点	提示された課題について個人学習をして授業に臨みましょう。 また、グループワークなどを通して、自分自身の考えを深めていけるようにしましょう。				
学 生 対 する 評 価	定期試験70点と看護過程レポート20点および提出物10点の合計点で評価します。尚、試験6割（42点）以上、看護過程レポート6割（12点）以上、提出物6割（6点）以上を取得した場合に合格となります。 以上、試験、看護過程レポート、提出物のすべての合格により単位は認定されます。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	①渡邊トシ子編：ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく実践看護アセスメント、第3版、ヌーベルヒロカワ ②深井喜代子編：基礎看護技術Ⅰ、メヂカルフレンド社 ③任和子・井川順子・秋山智弥編：基礎・臨床看護技術、第2版、医学書院				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）					

科目名	基礎看護技術 I				
担当教員名	齋藤千秋・畑瀬智恵美・岩田直美				
学年配当	1年	単位数	1単位	開講形態	演習
開講時期	前期	必修選択	必修	資格要件	
実務経験及び授業内容	看護師として臨床経験を持つ教員が、基本的な生活援助技術である環境調整、活動と休息、栄養と食生活の根拠を考えるとともに、その技術が提供される対象の臨床経過を考慮した援助方法を考え実践できるための基盤を教授する科目				
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護における環境調整の意義およびその援助方法について説明できる。 2. 人間にとっての活動と休息の意義とアセスメントの視点およびその援助方法について説明できる。 3. 人間にとっての栄養と食事の意義とアセスメントの視点およびその援助方法について説明できる。 4. 環境調整、活動と休息、栄養と食事に関する基本的な看護技術を実施できる。 				
授業の概要	看護の目的を達成させるための看護技術は、専門職としての能力の中核を成す。本講義においては、基本的な生活援助技術である環境調整、活動と休息、栄養と食生活の根拠を考えるとともに、その技術が提供される対象の臨床経過を考慮した援助方法を考え実践できるための基盤を学習する。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、環境調整技術 2 環境調整技術 3 活動・休息援助技術 4 活動・休息援助技術・廃用症候群の予防（認定看護師） 5-6 環境調整技術【演習】ベッドメイキング 7 食生活と栄養摂取の技術 8-9 食生活と栄養摂取の技術【演習】食事の援助・口腔ケア 10-11 技術試験（ベッドメイキング） 12-13 環境調整技術【演習】リネン交換 14-15 活動・休息援助技術【演習】車椅子・ストレッチャーの移乗・移送 				
授業の留意点	<p>この科目は講義、事前学習、演習、事後学習で構成されています。したがって講義を受けた上で、事前学習を個々に行い、演習に臨み、事後学習としてリフレクションを行ってください。</p> <p>学生個々が主体的な学習を繰り返して、看護技術を修得していく必要があります。自己学習として、看護技術項目に対して看護技術実践ノート（目的、実施内容・手順、根拠、留意点他）を作成して、演習に臨んで下さい。</p> <p>授業で配布した資料や自己学習したものは、ファイリングしてください。</p> <p>看護技術演習は、実習室を病室・療養の場として設定していますので、主体的な参加とともに、援助にふさわしい言葉づかいや身だしなみを整えることも学び、少しずつ看護職者に近づいていきましょう。</p>				
学生に対する評価	定期試験 60 点、技術試験 20 点、と提出物 20 点の合計点で評価します。尚、試験 6 割（36 点）以上、技術試験 6 割（12 点）以上、提出物 6 割（12 点）以上を取得した場合に合格となります。以上、試験、提出物のすべての合格により単位は認定されます。				
教科書（購入必須）	<ol style="list-style-type: none"> ①深井喜代子編：基礎看護技術 I、メヂカルフレンド社 ②深井喜代子編：基礎看護技術 II、メヂカルフレンド社 ③任和子・井川順子・秋山智弥編：基礎・臨床看護技術、第 2 版、医学書院 				
参考書（購入任意）	・吉田みつ子・本庄恵子監修：写真でわかる基礎看護技術、インターメディアカ				

科 目 名	基礎看護技術Ⅱ				
担 当 教 員 名	齋藤千秋・鈴木朋子				
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容	看護師として臨床経験を持つ教員が、基本的な生活援助技術である排泄、清潔の根拠を考えるとともに、その技術が提供される対象の臨床経過を考慮した援助方法を考え実践できるための基盤を教授する科目				
学習到達目標	<p>1. 人間にとっての清潔・衣生活の意義とアセスメントの視点およびその援助方法について説明できる。</p> <p>2. 人間にとっての排泄の意義とアセスメントの視点およびその援助方法について説明できる。</p> <p>3. 清潔、排泄に関する基本的な看護技術を実施できる。</p>				
授業の概要	看護の目的を達成させるための看護技術は、専門職としての能力の中核を成す。本講義においては、基本的な生活援助技術である排泄、清潔の根拠を考えるとともに、その技術が提供される対象の臨床経過を考慮した援助方法を考え実践できるための基盤を学習する。				
授業の計画	<p>1 オリエンテーション、清潔・衣生活の援助技術</p> <p>2-3 清潔・衣生活の援助技術【演習】足浴</p> <p>4 清潔・衣生活の援助技術</p> <p>5-6 清潔・衣生活の援助技術【演習】全身清拭・寝衣交換</p> <p>7-8 清潔・衣生活の援助技術【演習】洗髪</p> <p>9 排泄援助技術</p> <p>10 技術試験</p> <p>11-12 排泄援助技術【演習】ベッド上の排泄介助・おむつ交換・陰部洗浄</p> <p>13 排泄援助技術</p> <p>14-15 排泄援助技術【演習】導尿・浣腸</p>				
授業の留意点	<p>この科目は講義、事前学習、演習、事後学習で構成されています。したがって講義を受けた上で、事前学習を個々に行い、演習に臨み、事後学習としてリフレクションを行ってください。</p> <p>学生個々が主体的な学習を繰り返して、看護技術を修得していく必要があります。自己学習として、看護技術項目に対して看護技術実践ノート（目的、実施内容・手順、根拠、留意点他）を作成して、演習に臨んで下さい。</p> <p>授業で配布した資料や自己学習したものは、ファイリングしてください。</p> <p>看護技術演習は、実習室を病室・療養の場として設定していますので、主体的な参加とともに、援助にふさわしい言葉づかいや身だしなみを整えることも学び、少しずつ看護職者に近づいていきましょう。</p>				
学生に対する評価	定期試験 70 点、技術試験 20 点、提出物 10 点の合計点で評価します。尚、試験 6 割（42 点）以上、技術試験 6 割（12 点）以上、提出物 6 割（6 点）以上を取得した場合に合格となります。以上、試験、提出物のすべての合格により単位は認定されます。				
教科書（購入必須）	<p>①深井喜代子編：基礎看護技術Ⅰ、メヂカルフレンド社</p> <p>②深井喜代子編：基礎看護技術Ⅱ、メヂカルフレンド社</p> <p>③任和子・井川順子・秋山智弥編：基礎・臨床看護技術、第2版、医学書院</p>				
参考書（購入任意）	・吉田みつ子・本庄恵子監修：写真でわかる基礎看護技術、インターメディカ				

科 目 名	基礎看護技術Ⅲ				
担 当 教 員 名	鈴木朋子・齋藤千秋・岩田直美				
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容	看護師として臨床経験を持つ教員が、検査、診療を受ける看護の対象に、必要な基本的知識と援助技術、支援・相談的技術を教授する科目				
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 診療に伴う援助技術における看護師の役割を説明できる。 2. 栄養、呼吸・循環、創傷管理 に関する看護技術について、安全・安楽を配慮した援助方法について説明できる。 3. 栄養、呼吸・循環、創傷管理 に関する看護技術を安全・安楽で確実に実施できる。 4. 紙上事例を用いて、看護過程を展開することができる。 				
授業の概要	検査、診療を受ける看護の対象に、必要な基本的知識と援助技術、支援・相談的技術を講義・演習により修得する。基礎看護学実習Ⅱでの実践に向け、基本的な援助技術の科学的根拠を考えると共に、その技術が提供される対象の臨床経過を考慮した援助方法を考え、実践できる基盤を学習する。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、栄養摂取の援助技術 2-3 栄養摂取の援助技術 【演習】 経鼻胃チューブ経管栄養法 4 栄養摂取の援助技術・摂食嚥下障害看護 (認定看護師) 5 呼吸・循環を整える技術 6 呼吸・循環を整える技術 7-8 呼吸・循環を整える技術 【演習】酸素吸入、気道内加湿法、口腔内・鼻腔内吸引、弾性ストッキング 9 創傷管理技術 10 創傷管理技術 【演習】創傷処置、包帯法 11 創傷管理技術・褥瘡予防のためのケア (認定看護師) 12-15 看護過程演習(事例検討) 				
授業の留意点	<p>この科目は講義、事前学習、演習、事後学習で構成されています。したがって講義を受けた上で、事前学習を個々に行い、演習に臨み、事後学習としてリフレクションを行ってください。</p> <p>学生個々が主体的な練習を繰り返して、看護技術を修得していく必要があります。自己学習として、看護技術項目に対して、看護技術実践ノート(目的、実施内容・手順、根拠、留意点他)を作成して、演習に臨んでください。</p> <p>授業で配布した資料や自己学習したものは、ファイリングしてください。</p> <p>看護技術演習は、実習室を病室・療養の場として設定していますので、主体的な参加とともに、援助にふさわしい言葉づかいや身だしなみを整えることも学び、少しずつ看護職者に近づいていきましょう。</p> <p>事例検討では、提示された課題について個人学習をして授業に臨み、グループワークなどを通して学びを深めましょう。</p>				
学生に対する評価	<p>定期試験 70 点、看護過程レポート 20 点、提出物 10 点の合計点で評価します。尚、試験 6 割 (42 点) 以上、看護過程レポート 6 割 (12 点) 以上、提出物 6 割 (6 点) 以上を取得した場合に合格となります。</p> <p>以上、試験、看護過程レポート、提出物のすべての合格により単位は認定されます。</p>				
教科書(購入必須)	<ol style="list-style-type: none"> ①深井喜代子編：基礎看護技術Ⅱ、メヂカルフレンド社 ②任和子・井川順子・秋山智弥編：基礎・臨床看護技術、医学書院 				
参考書(購入任意)	<ul style="list-style-type: none"> ・本庄恵子・吉田みつ子監修：写真でわかる臨床看護技術Ⅰ、インターメディカ ・高木永子監修：看護過程に沿った対象看護、第4版、学研 ・松尾ミヨ子・志自岐康子・城生弘美編：ヘルスアセスメント、メディカ出版 				

科目名	基礎看護技術Ⅳ				
担当教員名	鈴木朋子・畑瀬智恵美・岩田直美				
学年配当	2年	単位数	1単位	開講形態	演習
開講時期	後期	必修選択	必修	資格要件	
実務経験及び授業内容	看護師として臨床経験を持つ教員が、検査、診療を受ける看護の対象に、身体侵襲の大きい援助技術を教授する科目				
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生命の危機状態と救命救急処置の意義および看護師の役割を説明できる。 2. 救命救急処置を確実に実施できる。 3. 検査の基本的な知識および看護師の役割と検査時の看護における留意事項について説明できる。 4. 血液検査の静脈血採血の基本的な知識を踏まえ、安全で確実に実施できる。 5. 与薬に関する基本的な知識および看護師の役割、留意事項について説明できる。 6. 注射法の基本的な知識を踏まえ、安全で確実に実施できる。 7. 輸血法に関する基本的な知識および留意事項について説明できる。 				
授業の概要	検査、診療を受ける看護の対象に、身体侵襲の大きい援助技術を講義・演習により修得する。基本的な援助技術の科学的根拠を考えると共に、その技術が提供される対象の臨床経過を考慮した援助方法を考え、実践できる基盤を学習する。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、救命救急処置 2 救命救急処置 【演習】 (名寄消防署救急隊員) 3 検査・治療に関わる技術 (検体の採取と扱い方、尿・便検査 他) 4 検査・治療に関わる技術 (血液検査、血液検体の取り扱い) 5-6 検査・治療に関わる技術 【演習】 静脈血採血 7 与薬の技術 (薬理作用、薬物療法、経口与薬) 8 与薬の技術 (外用薬の与薬法) 9 与薬の技術 (皮下・皮内・筋肉内注射) 10 与薬の技術 【演習】 注射器・注射針の取り扱い、薬剤の準備 11-12 与薬の技術 【演習】 皮下・筋肉内注射 13 与薬の技術 (静脈内注射・点滴静脈注射、輸血療法) 14-15 与薬の技術 【演習】 静脈内注射・点滴静脈注射 				
授業の留意点	<p>この科目は、講義、事前学習、演習、事後学習で構成されています。したがって、講義を受けた上で、事前学習、演習に臨み、事後学習として、リフレクションを行ってください。</p> <p>学生個々が主体的な練習を繰り返して、看護技術を修得していく必要があります。</p> <p>授業で配布した資料や自己学習したものは、ファイリングしてください。</p> <p>看護技術演習は、実習室を病室・療養の場として設定していますので、主体的な参加とともに、援助にふさわしい言葉づかいや身だしなみを整えることも学び、少しずつ看護職者に近づいていきましょう。</p>				
学生に対する評価	<p>定期試験 90 点と提出物 10 点の合計点で評価します。尚、試験 6 割 (54 点) 以上、提出物 6 割 (6 点) 以上を取得した場合に合格となります。</p> <p>以上、試験、提出物のすべての合格により単位は認定されます。</p>				
教科書 (購入必須)	<ol style="list-style-type: none"> ①深井喜代子編：基礎看護技術Ⅱ、メヂカルフレンド社 ②任和子・井川順子・秋山智弥編：基礎・臨床看護技術、医学書院 				
参考書 (購入任意)	<ul style="list-style-type: none"> ・本庄恵子・吉田みつ子監修：写真でわかる臨床看護技術Ⅰ、インターメディアカ ・高木永子監修：看護過程に沿った対象看護、第4版、学研 ・松尾ミヨ子・志自岐康子・城生弘美編：ヘルスアセスメント、メディカ出版 				

科目名	ヘルスアセスメント				
担当教員名	畑瀬智恵美・岩田直美				
学年配当	1年	単位数	1単位	開講形態	演習
開講時期	後期	必修選択	必修	資格要件	
実務経験及び授業内容	看護師として臨床経験を持つ教員が、フィジカルアセスメントの基本技術と系統的な知識と技術を身につけるための、具体的な看護援助を教授する科目				
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ヘルスアセスメントの概念と意義について説明できる。 ヘルスアセスメントの一つであるフィジカルアセスメントの基本技術（問診・視診・触診・打診・聴診）について説明できる。 バイタルサインズの基本的な知識と正確な測定方法について説明できる。 バイタルサインズ測定を正確に実施できる。 系統的フィジカルアセスメントの基本的な知識と方法について説明できる。 系統的フィジカルアセスメントの方法を実施できる。 				
授業の概要	ヘルスアセスメントとは、対象者が身体的に、心理・社会的に健康であるといえるかどうか、健康問題があるとするならばその要因は何かを明らかにする行為である。フィジカルアセスメントの基本技術（問診・打診・聴診・視診・触診）と系統的な知識と技術を身につけて、具体的な看護援助を見い出していく必要がある。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション、ヘルスアセスメントとは、フィジカルアセスメントにおける技術（問診・視診・触診・打診・聴診） 2-3 バイタルサインズ測定（体温、脈拍、呼吸、血圧、意識） 4-5 バイタルサインズ測定【演習】体温、脈拍、呼吸、血圧 6 系統的フィジカルアセスメント：呼吸器系 7 系統的フィジカルアセスメント：呼吸器系【演習】問診・視診・触診・打診・聴診 8 系統的フィジカルアセスメント：循環器系 9 系統的フィジカルアセスメント：循環器系【演習】問診・視診・触診・打診・聴診 10 系統的フィジカルアセスメント：腹部 11 系統的フィジカルアセスメント：腹部【演習】問診・視診・触診・打診・聴診 12 技術試験 13 系統的フィジカルアセスメント：皮膚・リンパ系、排泄系（認定看護師） 14 系統的フィジカルアセスメント：運動系・脳神経系（認定看護師） 15 系統的フィジカルアセスメント：感覚器系（認定看護師） 				
授業の留意点	<p>この科目は、講義、事前学習、演習、事後学習で構成されています。したがって、講義を受けた上で、事前学習、演習に臨み、事後学習として、リフレクションを行ってください。</p> <p>学生個々が主体的に練習を繰り返して看護技術を修得していく必要があります。</p> <p>自己学習として、看護技術実践ノート（目的、実施内容・手順、根拠、留意点他）を作成して、演習に臨んで下さい。</p> <p>授業で配布した資料や自己学習したものは、ファイリングしてください。</p> <p>看護技術演習は、実習室を病室・療養の場として設定していますので、主体的な参加とともに、援助にふさわしい言葉づかいや身だしなみを整えることも学び、少しずつ看護職者に近づいていきましょう。</p>				
学生に対する評価	定期試験 70 点、技術試験 20 点、提出物 10 点の合計点で評価します。尚、試験 6 割（42 点）以上、技術試験 6 割（12 点）以上、提出物 6 割（6 点）以上を取得した場合に合格となります。以上、試験、提出物のすべての合格により単位は認定されます。				
教科書（購入必須）	<ol style="list-style-type: none"> 横山美樹：はじめてのフィジカルアセスメント、メヂカルフレンド社 任和子・井川順子・秋山智弥編：基礎・臨床看護技術、医学書院 				
参考書（購入任意）	<ul style="list-style-type: none"> 田中裕二編：わかって身につくバイタルサイン、学研 藤野智子監修：基礎と臨床をつなげるバイタルサイン、学研 松尾ミヨ子・志自岐康子・城生弘美編：ヘルスアセスメント、メディカ出版 守田美奈子監修：写真わかる看護のためのフィジカルアセスメント、インターメディカ 				

科目名	成人看護学概論				
担当教員名	長谷部佳子・南山祥子				
学年配当	1年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	後期	必修選択	必修	資格要件	
実務経験及び授業内容	看護師としての臨床経験を持つ教員が、看護師としての役割、患者に対する療養上の世話や診療の補助行為など相対的医行為の実践、および実践に必要な知識について指導する科目				
学習到達目標	個人としての成人期の身体的・精神的・社会的特徴、および集団としての国民衛生の動向について理解を深める。これらの知識と諸理論を活用しながら、成人を対象とした看護におけるアセスメント方法を習得する。				
授業の概要	ライフサイクルにおける成人の位置づけと、対象者を取り巻く生活環境、社会環境、保健医療情勢、および看護の礎となる概念や理論について講義を行う。グループワークなどの演習を通じて、学んだ知識を活かしたアセスメント方法を習得する。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 成人看護学の位置づけと特徴、成人期にある人の特徴 2 成人の生活と健康問題 3 保健・医療・福祉システムの概要 4 保健・医療・福祉システムの連携 5 成人保健の動向（人口静態、人口動態） 6 成人保健の動向（保健増進対策、感染症対策） 7 成人看護学で用いる概念と理論①ニード論、ケアリング・アンドラゴジー、エパワメント 8 成人看護学で用いる概念と理論②自己効力理論、危機理論、ストレス理論、セルフケア 9 成人看護学で用いる概念と理論③ロイの適応モデル、死の受容理論、病みの軌跡 10 先進医療と看護 11 リハビリテーションと看護 12 老年期に向かう過程での身体機能の変調 13 終末期医療 14 患者と家族への教育支援 15 継続看護とチームアプローチ、看護における倫理および法的責任 				
授業の留意点	成人期の対象者を看護する際には、対象者を取り巻く家族環境や社会・医療情勢など背景要因の分析が欠かせません。日頃から新聞などに目を通すとともに、両親や祖父母などの生活行動に高い関心を寄せると、講義内容の理解が深まります。				
学生に対する評価	定期試験 70 点、グループワーク/レポート 30 点				
教科書（購入必須）	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[1] 成人看護学総論，医学書院 成人看護学概論 第2版，ヌーヴェルヒロカワ 厚生省の指標 増刊 国民衛生の動向，厚生労働統計協会（※公衆衛生学で最新版を購入済み）				
参考書（購入任意）					

科目名	成人看護活動論 I				
担当教員名	長谷部佳子・中谷美紀子・鈴木捷允				
学年配当	2年	単位数	2単位	開講形態	演習
開講時期	後期	必修選択	必修	資格要件	
実務経験及び授業内容	看護師としての臨床経験を持つ教員が、看護師としての役割、患者に対する療養上の世話や診療の補助行為など相対的医行為の実践について指導する科目				
学習到達目標	この講義科目では、周手術期を中心とした急性期から回復期までの過程における対象者理解と看護の役割、援助の方法について学ぶ。 具体的には、手術療法および集中治療や検査にまつわる看護技術を理解するとともに、周手術期における対象者の健康問題を解決するための看護過程の展開方法について実践力を養うことを目標に掲げる。				
授業の概要	この科目は演習科目であるため、講義と演習を組み合わせながら進めていく。周手術期などでの急性期治療や検査に関する総論を学びながら、各論としての技術・観察方法の実際を演習で体験し、成人看護学概論や臨床治療学で得た知識との統合を図れるようにしている。そして、成人看護学活動論 I での学びを、実践的に成人看護学実習 I に活かせるように授業計画を組んでいる。				
授業の計画	1 今日の外科学看護の特徴と課題、外科患者の病態の基礎 2 外科的患者の病態の基礎、手術侵襲と生体反応 3 外科的治療を支える分野①(麻酔方法、手術体位) 4 外科的治療を支える分野②(体液・栄養管理、輸血等) 5 外科的治療の実際(低侵襲手術) 6 外科的治療の実際(術後合併症の予防のための看護) 7 術前/検査前の看護 総論 8 術後/検査後の看護 総論 9 看護過程①(情報の分析)【演習】 10 看護過程②(看護問題の抽出)【演習】 11 看護過程③(看護計画の作成)【演習】 12 看護過程④(看護計画の評価・修正)【演習】 13 手術/検査を受ける対象者への看護①(輸液管理) 14 手術/検査を受ける対象者への看護②(各種ドレーン管理) 15 手術/検査を受ける対象者への看護③(心電図モニター)	16 手術/検査を受ける対象者への看護④(全身の観察) 17 手術/検査を受ける対象者への看護⑤(全身の観察) 18 手術/検査を受ける対象者への看護⑥(全身の観察) 19 手術/検査を受ける対象者への看護⑦(輸液管理の実際) 20 手術/検査を受ける対象者への看護⑧(輸液管理の実際) 21 手術/検査を受ける対象者への看護⑨(清潔ケアの実際) 22 手術/検査を受ける対象者への看護⑩(清潔ケアの実際) 23 手術/検査を受ける対象者への看護⑪(栄養管理の実際) 24 手術/検査を受ける対象者への看護⑫(栄養管理の実際) 25 手術/検査を受ける対象者への看護⑬(胸腔ドレナージおよび低圧持続吸引装置の取り扱い) 26 手術/検査を受ける対象者への看護⑭(創部のケア、ストーマパウチ交換) 27 手術/検査を受ける対象者への看護⑮(創部のケア、ストーマパウチ交換) 28 手術/検査を受ける対象者への看護⑯(創部のケア、ストーマパウチ交換) 29 手術中の看護①(手洗い、ガウンテクニック、滅菌手袋装着、等) 30 手術中の看護②(手洗い、ガウンテクニック、滅菌手袋装着、等)			
授業の留意点	すでに履修済みの専門基礎科目(特に人体形態学、人体機能学、臨床治療学 I)、専門科目(特に基礎看護学領域の各科目、成人看護学概論)で学んだ知識の活用が必要なので、それらを復習しておくことが望ましい。 また、本授業の際には指定された教科書 2 冊を両方とも持参して、参加すること。				
学生に対する評価	レポート: 30 点、演習・演習の受講態度: 10 点、定期試験: 60 点				
教科書(購入必須)	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論、医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論、医学書院 新訂版 看護技術ベーシック 第 2 版、サイオ出版 今日の治療薬 南江堂				
参考書(購入任意)	(臨床治療学 I で購入済) 系統看護学講座 専門分野 II 成人看護学[3]循環器、医学書院 系統看護学講座 専門分野 II 成人看護学[5]消化器、医学書院 系統看護学講座 専門分野 II 成人看護学[8]腎・泌尿器、医学書院 系統看護学講座 専門分野 II 成人看護学[10]運動器、医学書院				

科 目 名	成人看護活動論Ⅱ				
担 当 教 員 名	南山祥子・中谷美紀子・鈴木捷允				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容	看護師としての臨床経験を持つ教員が、看護師としての役割、患者に対する療養上の世話や診療の補助行為など相対的医行為の実践について指導する科目				
学習到達目標	慢性的な健康障害をもつ人々とその家族の特徴を捉え、その人らしく生活するための自己管理や生活の再構築にむけた援助方法を理解することができる。さらに、ライフサイクル上の背景をふまえた看護過程の展開について理解することができる。				
授業の概要	慢性的な身体機能障害を持ちながら生活する人々とその家族が、症状をコントロールし、障害と生活の制限を受け入れながら健康的な生活を営むことを支える看護の役割、援助の方法について学ぶ。また、セルフケアを支援する観点から教育的アプローチや QOL を重視した支援についての知識と援助方法について学習する。				
授業の計画	1 オリエンテーション、慢性疾患をもつ人と家族の特徴 2 慢性疾患をもつ人の看護過程の展開① 3 呼吸器系の障害をもつ人への看護①—気管支喘息 4 呼吸器系の障害をもつ人への看護②—慢性閉塞性肺疾患 5-6 慢性疾患をもつ人の看護過程の展開②【演習】 7-8 代謝・内分泌系の障害をもつ人への看護①—糖尿病 9 代謝・内分泌系の障害をもつ人への看護②—糖尿病 10 消化器系の障害をもつ人への看護—慢性肝炎、肝硬変 11-12 慢性疾患をもつ人の看護過程の展開③【演習】 13-14 循環器系の障害をもつ人への看護—慢性心不全 15-16 脳・神経系の障害をもつ人への看護—脳梗塞、筋委縮性側索硬化症 17 慢性疾患をもつ人の看護過程の展開④【演習】 18 慢性腎臓病患者への看護、透析療法を受ける患者の看護 19 慢性疾患をもつ人の看護過程の展開⑤【演習】	20 がん患者への看護①—がん患者の特徴、放射線患者の看護 21-22 慢性疾患をもつ人の看護過程の展開⑥【演習】 23-24 代謝・内分泌系の障害をもつ人への看護③【演習】自己血糖測定 25-26 代謝・内分泌系の障害をもつ人への看護④【演習】退院指導（ロールプレイング） 27 慢性疾患をもつ人の看護過程の展開⑦【演習】 28 講義のまとめ 29 がん患者への看護②—緩和ケアについて～認定看護師 30 がん患者への看護③—化学療法を受ける患者の看護～認定看護師			
授業の留意点	すでに履修済みの専門基礎科目（特に人体形態学、人体機能学、臨床治療学Ⅰ）、専門科目（特に基礎看護学領域の各科目、成人看護学概論、成人看護活動論Ⅰ）で学んだ知識の活用が必要なので、それらを復習しておくことが望ましい。				
学生に対する評価	レポート 30 点、受講態度 10 点、定期試験 60 点				
教科書（購入必須）	鈴木久美、旗持知恵子、佐藤直美：成人看護学 慢性期看護 改定第3版 南江堂 江川 隆子編：ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 [第6版]、ヌーヴェルヒロカワ 系統看護学講座 別巻 がん看護学、医学書院				
参考書（購入任意）	（臨床治療学Ⅰで購入済） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[2]呼吸器、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5]消化器、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[6]内分泌・代謝、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[7]脳神経、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[8]腎・泌尿器、医学書院				

科 目 名	老年看護学概論				
担当教員名	安藤 千晶				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容	看護師として臨床経験を有する教員が、老年期を生きる方の特徴、老年看護の理念について指導する。				
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期の発達とその課題について身体・心理・社会的側面から理解し、高齢者を全人的に理解する基礎を育むことができる。 2. 老年期を生きる人の生活と健康の特徴を理解できる。 3. 老年期を生きる人とその家族が地域で生活するためのケアシステムについて理解できる。 4. 老年看護における倫理的課題について理解できる。 				
授業の概要	<p>老年期の自我発達を基盤に置いた上で、高齢者を環境との相互作用する存在と位置づけ、老年期を生きる人とその家族の多様性・個別性を理解するとともに、病を抱えながらも「健やかに老い、安らかに永眠する」ことを目指す老年看護の理念、高齢者を取り巻く社会について修得する。講義、教材、体験学習を通して、自分とは異なる文化・生活背景を持つ人々への理解を深め、皆さん自身の高齢者観をよりいっそう豊かに育むことを期待する。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 老年看護学概論ガイダンス：老年看護の原則、高齢者への理解（高齢者へのインタビュー ガイダンス含む） 2 老いを生きるとは - ライフステージとしての老年期 - 3 加齢に伴う生理的・身体的変化の特徴 4 高齢者の暮らしと生活史 5-7 高齢者へのインタビュー後のグループワーク／高齢者疑似体験 8 保健統計からみた高齢者の生活と健康の特徴① 9 保健統計からみた高齢者の生活と健康の特徴② 10 高齢者の包括的アセスメント① 11 高齢者の包括的アセスメント② 12 老年看護における看護理論 13 高齢者と家族への地域包括ケア① - 権利擁護、生活・療養する場の特徴、地域づくり- 14 高齢者と家族への地域包括ケア② - 介護家族の生活と健康、支援体制 - 15 老年看護学の目標と役割／老年看護学概論まとめ 				
授業の留意点	<p>高齢者を理解するために、課題1：高齢者へのインタビュー（インタビュー後のグループワーク）、課題2：高齢者疑似体験を行う。</p>				
学生に対する評価	<p>レポート、定期試験により評価する。 （レポート：10%、定期試験：90%程度）</p>				
教科書（購入必須）	<p>北川公子ほか：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 第9版、医学書院、2018 鳥羽研二ほか：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 第5版、医学書院、2018 厚生労働統計協会：厚生指針増刊 国民衛生の動向（購入済みのもので可）</p>				
参考書（購入任意）					

科 目 名	老年看護活動論 I				
担 当 教 員 名	安藤 千晶				
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	看護師として臨床経験を有する教員が、老年看護の基本的な考え方や、高齢者に多い疾患とその看護等を、実践を踏まえながら指導する。				
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 加齢に伴う生理的老化、老年期に特徴的な疾患、それに伴う生活機能障害を理解できる。 2. 健康障害や生活機能障害を有する高齢者に対し、全人的、包括的にアセスメント・評価するための基本的知識を修得する。 3. 生活機能を維持・向上するための看護支援方法について理解できる。 4. 高齢者とその家族の生活と健康を支える保健・医療・福祉制度、及びにサービスの活用について理解することができる。 5. 自らの高齢者観・死生観を育み続ける必要性を理解できる。 				
授 業 の 概 要	加齢変化や老年期に特有な疾患と生活機能障害を取り上げ、「住み慣れた場所で最期まで」を実現するために、高齢者とその家族の自立・自律に向けたアセスメント、予防と生活機能を整える看護、代替・調整等による看護支援、そしてエンドオブライフ・ケアについて理解を深める。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 老年看護活動論 I ガイダンス 2 高齢者の生活機能を整える看護①：活動 3 高齢者の生活機能を整える看護②：休息 4 高齢者の生活機能を整える看護③：食事 5 高齢者の生活機能を整える看護④：排泄 6 高齢者の生活機能を整える看護⑤：身じたく 7 高齢者の生活機能を整える看護⑥：コミュニケーション 8 高齢者に特徴的な健康障害 (外部講師予定) 9 高齢者に特徴的な健康障害と看護① 10 高齢者に特徴的な健康障害と看護② 11 治療を受ける高齢者の看護 12 老年期を生きる人と家族の生と死を支える看護① 13 老年期を生きる人と家族の生と死を支える看護② (外部講師予定) 14 高齢者とその家族の生活と健康を支えるための保険・医療・福祉サービス - 代替・調整等による看護支援 - 15 高齢者のヘルスアセスメント／老年看護活動論 I まとめ 				
授 業 の 留 意 点	レポート課題：老年看護学における看護ケアの特徴とはどのようなものであるか、指定図書を読んだ上で提出する（詳細は後日提示する）。				
学 生 に 対 す る 評 価	レポート、定期試験により評価する。 (レポート：10%、定期試験：90%程度)				
教 科 書 (購 入 必 須)	北川公子ほか：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 第9版、医学書院、2018 (老年看護学概論で購入済み) 鳥羽研二ほか：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 第5版、医学書院、2018 (老年看護学概論で購入済み) 厚生労働統計協会：厚生指針 増刊 国民衛生の動向 (購入済みのもので可)				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	老年看護活動論Ⅱ				
担 当 教 員 名	安藤 千晶・澤田 知里・上原 主義				
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容	看護師として臨床経験を有する教員が、老年看護の基本的な考え方、看護の展開方法、ケアの方法を、実践を踏まえながら指導する。				
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 恒常性機能の低下を特徴として持つ高齢者に対し、安全・安楽であり、かつ尊厳を保持した看護ケアを提供する基本的な看護技術を身につけることができる。 2. 高齢者とその家族のもてる力（強み）に着眼し、生活機能に焦点を当てた目標志向型の看護過程を身につけることができる。 				
授 業 の 概 要	看護ケアを通して「いかなる身体条件・生活条件であっても、人間的に、尊厳を保ちながら生きることができる」ことを目指す、老年看護技術を習得する。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 老年看護活動論Ⅱガイダンス：高齢者の心身の特徴に配慮した看護技術とは (活動・休息援助技術 演習ガイダンス含む) 2-3 高齢者看護の基本技術 活動・休息援助技術 (講義・演習：外部講師予定) 4 老年看護過程① (講義) (栄養・食事援助技術 演習ガイダンス含む) 5-6 高齢者看護の基本技術 栄養・食事援助技術 (講義・演習) 7 老年看護過程② (演習) (排泄援助技術演習・レポート作成ガイダンス含む) 8 高齢者看護の基本技術 認知症ケア (講義：外部講師予定) 9-10 Cinemeducation -映画を通して高齢者とその家族の支援を考察する- (講義・演習) 11-13 高齢者看護の基本技術 排泄援助技術 -超音波装置を用いた排泄機能アセスメント- (講義・演習：外部講師予定) 14-15 老年看護過程③／老年看護活動論Ⅱまとめ (演習) 				
授 業 の 留 意 点	レポート課題：高齢者の排泄機能障害を理解するために、2日間の排尿日誌と高齢者モデルでの排泄、オムツ装着・排泄体験を実施する（詳細は後日提示する）。				
学 生 対 する 評 価	演習の取り組み・看護過程、定期試験により評価する。 (演習の取り組み・看護過程：40%、定期試験：60%程度)				
教 科 書 (購 入 必 須)	老年看護学概論・老年看護活動論Ⅰの教科書を使用する。 正木治恵：パーフェクト臨床実習ガイド 老年看護 第2版、照林社、2017				
参 考 書 (購 入 任 意)	山田律子ほか：生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図 第4版、医学書院、2020				

科 目 名	小児看護学概論				
担 当 教 員 名	永谷智恵・佐々木俊子				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	小児看護の臨床経験をもつ教員が、子どもや家族を取り巻く社会の現状や子どもの成長発達段階における看護について教授する。さらに、子どもの利益にかなう看護について考察し、小児看護の理念と責務について指導する。				
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児看護の対象である小児と家族の存在を環境との相互作用から理解する 2. 小児看護を支える法的根拠から小児医療における子どもの権利について理解する 3. 成長・発達の概念および小児各期の発達の特徴とその評価方法を理解する 4. 現代の小児と家族の健康問題について社会の変化から捉え小児看護の役割を理解する 5. 母子保健の動向と小児の健康を支える社会資源、制度について理解する 				
授 業 の 概 要	現代の子どもや家族を取り巻く社会には、生活習慣病の増加、心の問題、育児不安、児童虐待など、様々な健康問題が顕在化している。本講義では、子どもや家族を取り巻く社会の現状を理解しながら、子どもの発達段階における成長・発達と看護について学ぶ。さらに、子どもの人権と小児看護倫理から、子どもの利益にかなう看護とは何か、小児看護の理念と責務について共に理解していく。また、母子に関する様々な保健統計から小児保健の動向を知り、現代社会の健康問題を考察して、子どもの健康の保持増進、疾病の予防について学修していく。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 小児看護とは 小児看護の対象、小児の範囲と区分、小児の成長発達を支える家族と発達 2 小児看護の歴史と意義、小児看護の課題、小児を取り巻く社会、家族の特徴とアセスメント 3 子どもの権利と看護、子どもの最善の利益にかなう医療と看護 小児看護と倫理的配慮 4 小児看護と法律・施策、子どもを取り巻く社会環境、母子保健施策、小児に関する法律など 5 子どもの成長発達 成長・発達の原理原則 影響要因 6 乳児期の子どもの成長発達 形態的・機能的発達、心理社会的発達、ボウルビイ愛着理論 7 乳児期の日常生活と看護、乳児によくみられる健康問題 8 幼児期の子どもの成長発達 形態的・機能的発達 9 幼児期の子どもの成長発達 心理社会的発達 エリクソン自我発達理論 10 幼児期の生活行動の発達と看護、遊びの意義、幼児期によくみられる健康問題 11 学童期の子どもの成長発達 形態的・機能的発達・心理社会的発達、ピアジェの認知発達理論 12 学童期の子どものセルフケアの発達と看護、学童期によくみられる健康問題 13 思春期の子どもの成長発達 形態的発達・心理社会的発達 思春期によくみられる健康問題 14 発育の評価 形態的成長の評価、心理社会的発達の評価 15 小児看護学概論 まとめ 				
授 業 の 留 意 点	積極的な参加態度を期待します。日ごろ、新聞・TV・映画・書籍などで子どもの生活や健康問題、子どもの社会的問題などに目を向けることで学修が深まります。また自身の成長過程や家族との関係性などを想起することで、より身近な学修となります。				
学 生 に 対 す る 評 価	定期試験：学習内容の理解度を評価する（70点） 小テスト：成長・発達の理解（各10点×3）				
教 科 書 (購入必須)	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院				
参 考 書 (購入任意)	必要に応じて随時紹介する。				

科 目 名	小児看護活動論 I				
担 当 教 員 名	永谷智恵・佐々木俊子				
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	小児看護の臨床経験をもつ教員が、子どもの健康障害による影響、病時期に必要な看護、外来や在宅など場の違いにおける小児と家族への支援について講義を通して指導する				
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康障害や入院が子どもと家族に与える影響について理解する 2. 急性期、周手術期、慢性期、終末期の子どもと家族の看護について理解する 3. 外来や在宅など場の違いによる看護について理解する 4. 障がいのある子どもと家族の看護について理解する 				
授 業 の 概 要	入院中の子どもや家族が、安全で安楽な生活を送ることができるようにケアしていくことが小児看護の目標である。本講義では、健康障害や入院そのものが子どもや家族に与える影響、子どもの病時期の違いにおける必要なケア、外来や在宅など看護の場の違いにおける子どもと家族の状況とケアについて学修していく。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 疾病・障がいをもつ子どもと家族の看護 疾病・障がい子どもと家族に与える影響、子どもの健康問題と看護 2 入院を必要とする子どもと家族の看護 3 外来受診する子どもと家族の看護 4 症状を呈する子どもの看護 一般状態、痛み、発熱、呼吸困難 5 症状を呈する子どもの看護 下痢・嘔吐・脱水・痙攣、感染性の発疹 6 検査・処置を受ける子どもと家族の看護 7 急性期にある子どもと家族の看護 8 周手術期のある子どもと家族の看護 9 慢性期にある子どもと家族の看護（1） 10 慢性期にある小児と家族の看護（2） 11 在宅療養を行う子どもと家族の看護 12 重症心身障害児の生活と支援 13 子どもの虐待と看護 14 終末期にある子どもと家族の看護（1） 15 終末期にある小児と家族の看護（2） 				
授 業 の 留 意 点	小児の入院環境、在宅での生活などがイメージ化できるように、DVDなどの視聴覚教材を取り入れていく。 講義や演習、自己学習を組み合わせた授業展開をおこなう。積極的な参加態度を期待する。				
学 生 対 する 評 価	<ol style="list-style-type: none"> 1. 定期試験 70点 2. 課題レポート 30点 講義中に課題を提示する 				
教 科 書 (購入必須)	系統看護学講座 小児看護学概論 臨床看護総論 小児看護学① (医学書院)				
参 考 書 (購入任意)	子どもの地図帳 講談社				

科 目 名	小児看護活動論Ⅱ				
担 当 教 員 名	佐々木俊子・永谷智恵				
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容	小児専門病院や小児病棟で看護師として臨床経験をもつ教員が、小児の看護課程の展開と看護技術について講義と演習を行い実践的な技術を指導する科目				
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児で関わることの多い疾患（症状）の事例について、アセスメントし看護問題の明確化、看護計画の立案ができる。 2. 小児特有の基本的な看護技術について習得することができる。 3. 発達段階を考え状況に応じたプレパレーションができる。 				
授業の概要	小児看護学概論・小児看護活動論Ⅰの学習を基に、健康障害のある小児と家族の看護展開技術、小児に特有な生活援助技術、診療に伴う援助技術について学修する。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 小児看護活動論Ⅱオリエンテーション 2 看護過程の展開 3 遊びの意義と実際 4 プレパレーション、ロールプレイングについて 5 小児看護技術 / 看護過程の展開・プレパレーション準備 6 小児看護技術 / 看護過程の展開・プレパレーション準備 7 小児看護技術 / 看護過程の展開・プレパレーション準備 8 小児看護技術 / 看護過程の展開・プレパレーション準備 9 小児看護技術 / 看護過程の展開・プレパレーション準備 10 小児看護技術 / 看護過程の展開・プレパレーション準備 11 小児看護技術まとめ 12 看護過程の展開・プレパレーション準備 13 プレパレーションの実際（ロールプレイング） 14 小児の看護過程のまとめ 15 小児看護技術 				
授業の留意点	事例の看護過程の展開・プレパレーションの準備と技術演習は、グループ毎交互に行われる。演習は、学習の進行状況により変更する場合がある。				
学生に対する評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. 定期試験 70点 2. 看護過程 20点 3. プレパレーションレポート 10点 				
教科書（購入必須）	小児看護学 ナーシング・グラフィカ 小児看護学② 小児看護技術（メディカ出版）				
参考書（購入任意）	子どもの地図帳 講談社				

科 目 名	母性看護学概論				
担 当 教 員 名	笹木葉子・加藤千恵子				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容	助産師・保健師としての実務経験を持つ教員が、母性看護学の概観を教授する科目				
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・母性の概念を、女性の生涯にわたる健康と権利の視点から捉える。 ・女性の健康を身体・心理社会・文化的視点から理解する。 ・母子関連組織・法律、母子保健システムから看護のあり方を学ぶ。 ・女性のライフステージ各期の特徴を学び、母性の一生を通じた健康の維持増進、疾病予防について学習する。 ・生命の尊重の意義を確認し自分なりの生命倫理を考える。 				
授業の概要	母性看護学の対象はすべての女性とその家族を含む。しかし少子化をはじめ、母性をを取り巻く環境は大きく変化してきている。そこでまず母性の概念、母子保健の変遷と統計指標、関連法規と施策、母子保健の現状と課題などから、母性の現状と課題について学習する。さらに女性のライフステージの特徴を知り、母性の一生を通じた健康の維持増進、疾病予防学習し、さらに生命倫理を内包した、現代の家族の変化の実情や医学情報のトピックスを紹介し、生命倫理や生命尊重について深く考えられるように解説する。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 母性の中心となる概念 2 母性看護実践を支える概念 3 リプロダクティブヘルスに関する概念 4 リプロダクティブヘルスに関する動向 5 リプロダクティブヘルスに関する倫理 6 命の大切さを考える DVD 視聴 7 子どもと女性の保護に関する法律 8 子育て支援に関する制度・施策 児童虐待 9 性差医療 DVD 視聴 10 生殖に関する生理 11 生殖における健康問題と看護 12 不妊症 13 加齢とホルモン変化 14 リプロダクティブヘルスケアー人工妊娠中絶と看護、性暴力を受けた女性に対する看護、喫煙女性の健康と看護 15 周産期医療システム、母子保健の国際化 まとめ 				
授業の留意点	授業に参加するにあたり、予習、復習を行うこと。GWには積極的に参加すること。DVDは、欠席した場合も後日必ず視聴すること。				
学生に対する評価	GWやプレゼンテーション、授業中に課す提出物と授業への参加態度(30点)、試験(70点)を合算して評価する。				
教科書(購入必須)	ナーシング・グラフィカ母性看護学(1)概論・リプロダクティブヘルスと看護(メディカ出版)				
参考書(購入任意)	母子保健の主なる統計令和3年度刊行:母子保健事業団、令和3年版厚生労働白書:厚生労働省編、令和3年度版少子化社会対策白書:内閣府編、国民衛生の動向2020/2021:厚生労働統計協会				

科 目 名	母性看護活動論Ⅱ				
担 当 教 員 名	笹木葉子・渡邊友香				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容	病院助産師として臨床経験を持つ教員が、産褥期・新生児期の母子の生理と異常時の看護を教授する科目				
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠期・分娩期の既習の知識を基に、産褥期、新生児期にある母子とその家族の身体・心理社会的特性を理解できる。 2. 産褥・新生児期にある母子への看護援助を行うために必要とされる基礎的知識と技術を習得できる。 3. 産褥・新生児期における主な異常とその看護を理解できる。 4. 産褥・新生児期の母子関係確立のための援助に必要な知識と技術を習得できる。 				
授業の概要	<p>母性看護活動論Ⅰで学習した妊娠期・分娩期の援助を踏まえて褥婦および新生児とその家族の特性を理解する。 産褥期では分娩の影響からの心身の回復と母親役割獲得へのケアおよび産褥の異常を持つ産婦のケアについて学ぶ。 新生児については胎外生活への適応と生理的变化、正常からの逸脱時のケアについて学習する。 母子の健康の保持増進・回復を促すためのセルフケアの方法および逸脱徴候を早期に発見できるための観察方法を習得する。 母児一対を対象として、母子関係形成のためのケアの重要性を理解する。 褥婦・新生児の看護過程では、ウェルネスの視点を取り入れた展開方法を学ぶ。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 正常な産褥の基本的理解：産褥の定義、褥婦の全身の変化、進行性変化、退行性変化、心理・社会的変化 2 産褥期のアセスメント：退行性変化、進行性変化、身体の回復状態家族の機能と役割の再編、サポート体制 3 褥婦と家族のケア：セルフケアを高めるケア、母乳育児に向けてのケア、育児技術に関わるケア、家族関係再構築へのケア 4 褥婦と家族のケア：母子関係確立への援助、母親役割、家族役割関係、産後のメンタルヘルスケア、産後の母子保健施策 5 異常産褥の病態と看護：子宮復古不全、産褥感染症、精神障害、母子分離・死産 6 <演習1>産褥期のケア：子宮復古状態の観察とケア 乳房観察とケア、産褥体操 7 正常新生児の基本的理解：新生児の定義、胎外生活への適応過程、新生児の生理的变化、成熟度の評価 8 新生児のアセスメント：出生直後の状態、体格、哺乳状態、栄養状態、親子関係、家族関係 9 新生児のケア：看護の原則、保育環境、出生直後の看護、日常生活への援助、栄養 10 異常新生児の病態と看護：新生児仮死、分娩障害、高ビリルビン血症、低出生体重児、ディベロップメンタルケア 11 <演習2>新生児のケア：バイタルサインズ、全身観察、各部計測、沐浴 / 褥婦・新生児の看護過程の展開 12 <演習2>新生児のケア：バイタルサインズ、全身観察、各部計測、沐浴 / 褥婦・新生児の看護過程の展開 13 <演習2>新生児のケア：バイタルサインズ、全身観察、各部計測、沐浴 / 褥婦・新生児の看護過程の展開 14 <演習2>新生児のケア：バイタルサインズ、全身観察、各部計測、沐浴 / 褥婦・新生児の看護過程の展開 15 褥婦・新生児の看護過程、学習ノートの提出 まとめ 				
授業の留意点	<p>講義は、テキスト・資料を読んで予習・復習をすること。 演習は講義内容を復習しテキストにて技術手順を確認して臨むこと。 看護過程は参考書を利用しウェルネス思考を取り入れて展開すること。 配布する学習ノート（産褥・新生児期）は教科書・参考書を利用して完成させること。</p>				
学生に対する評価	演習への参加態度 10 点 ミニレポート・学習ノート 10 点 看護過程 10 点 試験 70 点				
教科書 (購入必須)	<p>(母性看護活動論Ⅰと共通) ・系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学2 森恵美 (医学書院) ・ナーシンググラフィカ 母性看護学(3)母性看護技術 (メディカ出版) ・ウェルネス診断にもとづく母性看護過程 太田操編 (医歯薬出版株式会社)</p>				
参考書 (購入任意)	<p>・病気がみえる VOL10 産科 第3版 (メディックメディア) ・新看護観察のキーポイントシリーズ母性Ⅰ・Ⅱ 前原澄子 (中央法規出版)</p>				

科 目 名	精神看護学概論				
担 当 教 員 名	結城佳子				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容	看護師等として広く心の健康にかかわるケア実践経験を有する教員が、心の健康とそのケアに関する基本的知識と考え方を指導する科目				
学習到達目標	精神健康において支援を必要とする人を対象とする看護についての基本的考え方を理解し、精神科医療および精神保健福祉の課題に問題意識を持って取り組む姿勢を修得することを目標とする。				
授業の概要	<p>1. 心とは何か、心の健康とは何か、その基本的考え方を学ぶ。</p> <p>2. 心に関する諸理論、ライフサイクルと生活の場における心の健康について学ぶ。</p> <p>3. 精神保健福祉活動の実際とそれを支える法・制度のあり方、精神保健福祉の歴史を学ぶ。</p> <p>4. 精神科医療および精神保健福祉における人権と倫理について学ぶ。</p> <p>時事の問題や具体的な事例等を多く取り入れて講義を展開する。</p>				
授業の計画	<p>1 オリエンテーション/心とは</p> <p>2 健康な心とは</p> <p>3 心を感じる/心にふれる</p> <p>4 生活の場と精神保健① 家庭</p> <p>5 生活の場と精神保健② 学校</p> <p>6 生活の場と精神保健③ 職場</p> <p>7 生涯発達と精神保健① 乳児期～思春期・青年期</p> <p>8 生涯発達と精神保健② 成人前期～老年期</p> <p>9 社会と精神保健① ストレス</p> <p>10 社会と精神保健② 危機</p> <p>11 社会と精神保健③ 自殺</p> <p>12 精神障害と精神保健① 精神疾患と精神障害/統合失調症</p> <p>13 精神障害と精神保健② 精神保健福祉の変遷と法/人権擁護</p> <p>14 精神障害と精神保健③ 地域精神保健福祉活動</p> <p>15 まとめ</p>				
授業の留意点	積極的に授業へ参加することを期待する。精神科医療および精神保健福祉を取り巻く社会の動向にも関心を持ち、自ら考える姿勢が望ましい。授業の進行状況、時事問題によって講義内容を変更することがある。				
学生に対する評価	レポートにより評価する。レポートは以下の5段階で評価する。 S: 素点 90 点以上、A: 素点 80～89 点、B: 素点 70～79 点、C: 素点 60～69 点、D: 素点 59 点以下 C 以上の評価について単位を認定する。D 評価の者は課題再提出とし、同様に評価する。なお、学習の進行状況によりレポート課題を課すことがある。その場合の評価も同様に行う。				
教科書 (購入必須)	テキストは使用せず、資料を配布する。				
参考書 (購入任意)	参考文献は、必要時指示する。				

科 目 名	精神看護活動論 I				
担 当 教 員 名	結城佳子				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単 位	開 講 形 態	演 習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	看護師等として精神科医療・精神保健福祉分野における実践経験を有する教員が、精神疾患・精神障害に関する基本的知識と治療・看護・リハビリテーションについて指導する科目				
学 習 到 達 目 標	精神疾患の病態や精神障害のありようとそれらが生活に与える影響、治療およびリハビリテーションについて理解し、精神健康上の問題に直面している人とその家族に対する看護援助方法について基本的考え方を習得することを目標とする。				
授 業 の 概 要	1. 基本的な精神疾患の病態や障害のありようとそれらが生活に与える影響を学ぶ。 2. 基本的な精神疾患の治療およびリハビリテーションと看護援助を学ぶ。				
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション/気分障害① 概念と病態 2 気分障害② 治療とリハビリテーション 3 気分障害③ 看護 4 不安障害① 概念と病態 5 不安障害② 治療と看護 6 身体表現性障害/解離性障害/適応障害① 概念と病態 7 身体表現性障害/解離性障害/適応障害② 治療と看護 8 摂食障害① 概念と病態 9 摂食障害② 治療と看護 10 パーソナリティ障害① 概念と病態 11 パーソナリティ障害② 対応と看護 12 物質関連障害・嗜癖① 概念と病態 13 物質関連障害・嗜癖② 治療とリハビリテーション/看護の基本 14 物質関連障害・嗜癖③ アルコール依存症 15 自閉症スペクトラム障害				
授 業 の 留 意 点	具体的な事例等を通して、精神疾患・精神障害を適切に理解するとともに、精神疾患・精神障害を持つ人の生きる困難さや苦悩を共に感じ、看護援助の展開について主体的に考えてみることを期待する。授業の進行状況、時事問題によって講義内容を変更することがある。				
学 生 に 対 す る 評 価	筆記試験により評価する。素点 60 点以上の者について単位認定する。D 評価の者は再試験とし、同様に評価する。なお、学習の進行状況により中間試験を実施することがある。その場合の評価も同様に行う。				
教 科 書 (購 入 必 須)	テキストは使用せず、資料を配布する。				
参 考 書 (購 入 任 意)	必要時指示する。				

科 目 名	精神看護活動論Ⅱ				
担 当 教 員 名	結城佳子				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容	看護師等として精神科医療・精神保健福祉分野における実践経験を有する教員が、関連する法・制度、安全管理、人権と倫理および質の高い看護実践について指導する科目				
学習到達目標	精神疾患の病態や障害のありようとそれらが生活に与える影響、治療およびリハビリテーションについて理解し、精神健康上の問題に直面している人とその家族に対する看護援助方法と看護過程の展開について基本的考え方を習得する。また、精神科領域における治療・看護について理解し、対象者の安全を守り、人権を擁護する看護のあり方を学ぶ。				
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 統合失調症や認知症について疾患・障害のありようと生活に与える影響、治療や看護について学ぶ。 2. 精神科領域に特有の治療およびリハビリテーションと看護について学ぶ。 3. 精神科領域における安全管理、法・制度、人権と倫理について学ぶ。 4. 精神科看護の実践について、ゲストスピーカーによる講義から学ぶ。 				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 統合失調症① 概念と病態 2 統合失調症② 治療と看護（救急急性期～消耗期） 3 統合失調症③ 治療と看護（回復期） 4 認知症 5 精神科領域における治療と看護① 薬物療法/電気けいれん療法他 6 精神科領域における治療と看護② 心理療法 7 精神科領域における治療と看護③ 精神科リハビリテーション 8 精神科領域における医療安全・危機管理 9 精神科領域における法と制度 10 精神科看護における人権と倫理 11 精神科看護における自己理解・自己活用/プロセスレコードの活用 12 精神科看護の実践① 救急急性期看護 13 精神科看護の実践② 退院支援 14 精神科看護の実践③ 認知症看護 15 精神科看護の実践④ 精神科訪問看護 				
授業の留意点	精神科看護の実践に不可欠な知識・技術を学ぶとともに、精神障害者を取り巻く社会のありようを理解するため、主体的に考える姿勢を求める。授業の進行状況、時事問題によって講義内容を変更することがある。				
学生に対する評価	筆記試験により評価する。素点 60 点以上の者について単位認定する。D 評価の者は再試験とし、同様に評価する。なお、学習の進行状況により中間試験を実施することがある。その場合の評価も同様に行う。				
教科書（購入必須）	テキストは使用せず、資料を配布する。				
参考書（購入任意）	必要時指示する。				

科 目 名	在宅看護概論				
担 当 教 員 名	伊藤亜希子・武田富美子				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	看護師および保健師として実務経験を持つ教員が、在宅看護における基本的な知識や疾病者に対するセルフケアの指導、家族ケアなど在宅看護学の基本について教授する科目				
学 習 到 達 目 標	①在宅看護の目的や特徴が理解する ②在宅看護の歴史の変遷や社会背景を理解する。 ③在宅で療養者する人々と家族の生活や支援について考えることができる ④在宅看護に関連する社会資源について理解する。 ⑤他職種との連携の必要性について理解する。 ⑥看護の継続性、在宅ケアマネジメントについて理解する。				
授 業 の 概 要	地域で暮らす療養者や家族の生活を理解し、在宅における看護の特徴や支援のあり方を学ぶ。また、在宅生活を支えるための社会資源や地域包括ケアシステムとして訪問看護師の役割や活動、ケアマネジメントなどについて学ぶ。				
授 業 の 計 画	1 在宅看護とは 2 在宅看護の理念と対象 3 在宅看護の歴史と変遷 4 地域で療養する人々に関する制度 1 5 地域で療養する人々に関する制度 2 6 在宅看護と社会資源 7 在宅看護における退院調整・退院支援 8 訪問看護ステーションと訪問看護のしくみ 9 在宅看護における医療安全 10 在宅看護の特徴と療養する人々 11 在宅看護における家族支援 12 地域包括ケアシステム 1 13 地域包括ケアシステム 2 14 ケアマネジメントと多職種連携 15 在宅療養者の権利保障と倫理 まとめ				
授 業 の 留 意 点	高齢社会、疾病構造の変化、療養者や家族のニーズの変化などを背景に在宅看護の必要性は高くなっています。最近の在宅医療や介護に関するニュースなどに関心を持ち、障害や病気をもちながら地域で生活することについて考えてみましょう。授業の進行状況によって内容を変更する場合があります。				
学 生 に 対 す る 価 値	試験 100 点				
教 科 書 (購 入 必 須)	河野あゆみ編 新体系 看護学全書 『在宅看護論』 メジカルフレンド社				
参 考 書 (購 入 任 意)	木下由美子編 『在宅看護論第』 医歯薬出版株式会社 石垣和子上野まり編 看護学テキスト 『在宅看護論 自分らしい生活の継続をめざして』 南江堂				

科 目 名	在宅看護活動論 I				
担 当 教 員 名	伊藤亜希子				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単 位	開 講 形 態	演 習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必 修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	看護師および保健師として実務経験を持つ教員が、在宅看護活動に関する具体的な支援方法や技術、疾病者に対するセルフケアの指導、家族ケアなど在宅看護学の基本的な方法論について指導する科目				
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅療養者とその家族の生活について理解できる 2. 在宅療養者とその家族に必要な生活援助を考えることができる 3. 在宅看護に必要な生活援助技術を習得できる 4. 対象別在宅療養者の看護について理解できる 				
授 業 の 概 要	訪問看護の対象と基盤となる概念をもとに、在宅療養者の生活を支える看護技術を学ぶ。また、在宅看護の日常生活援助の技法について演習で取り組み在宅看護の実践能力を培う。さらに、在宅における医療管理と医療依存度が高い療養者への看護について学びを深める。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 在宅看護とは 2 在宅看護援助の対象と基盤となる概念 3 在宅看護援助の対象と基盤となる概念 4 在宅療養生活を支える看護 演習 5 在宅療養生活を支える看護 演習 6 在宅療養生活を支える看護 演習 7 在宅療養生活を支える看護 演習 8 在宅療養生活を支える看護 演習 9 在宅療養生活を支える看護 演習 10 在宅療養生活を支える看護 演習 11 在宅療養生活を支える看護 12 在宅における医療管理と看護 13 在宅における医療依存度が高い方への看護 1 14 在宅における医療依存度が高い方への看護 2 15 在宅療養生活を支える看護 				
授 業 の 留 意 点	授業は、講義、グループワーク、ロールプレイを行います。積極的に自分の考えや意見を述べましょう。 授業の進行状況によって内容を変更する場合があります。				
学 生 に 対 する 評 価	試験 90 点 演習・レポート 10 点				
教 科 書 (購 入 必 須)	河野あゆみ編 新体系 看護学全書『在宅看護論』 メヂカルフレンド社 石垣和子上野まり編 看護学テキスト 『在宅看護論 自分らしい生活の継続をめざして』 南江堂				
参 考 書 (購 入 任 意)	押川眞喜子監修「写真でわかる訪問看護」インターメディカ				

科 目 名	在宅看護活動論Ⅱ				
担 当 教 員 名	伊藤亜希子				
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	看護師および保健師として実務経験を持つ教員が、在宅看護活動を展開するために、疾病者に対するセルフケアの指導、家族ケアなど在宅看護学の基本的な方法論について指導する科目				
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児や終末期、医療処置等が必要な療養者・家族への支援を理解する 2. 在宅療養における口腔ケアの必要性を理解し支援方法の実際を学ぶ 3. 地域包括ケアシステムにおける在宅ケアを支える他職種・他機関の役割や連携・協働について考えることができる 4. 在宅における看護過程を理解する 				
授 業 の 概 要	<p>在宅療養者やその家族の生活および健康上の課題は多様であり、その支援にも様々な展開がある。</p> <p>その中で、在宅療養において医療処置等の必要な在宅療養者について理解し、その対象に応じた在宅看護活動の展開について学ぶと共に、在宅看護における看護過程の展開を考え必要な看護支援について考える。</p> <p>また、地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関との連携や協働について、演習を通して実践力を養う。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 在宅療養において特徴的な疾病がある療養者への看護 2 在宅療養者への様々な支援 1 他職種の役割と支援 知識編 3 在宅療養者への様々な支援 2 技術編 4 地域包括ケアシステムにおける多職種の役割と機能 1 5 地域包括ケアシステムにおける多職種の役割と機能 2 6 地域包括ケアシステムにおける多職種や多機関の役割と機能 3 7 地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関との連携と協働 1 8 地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関との連携と協働 2 9 地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関との連携と協働 まとめ 10 在宅看護における看護過程の展開 1 11 在宅看護における看護過程の展開 2 12 在宅看護における看護過程の展開 3 13 在宅看護における看護過程の展開 4 14 在宅看護における看護過程の展開 5 15 在宅看護における看護過程の展開 6 				
授 業 の 留 意 点	<p>在宅看護は各看護領域と関連が深く応用看護学領域と言われています。これまでに学習した看護の基本をベースに在宅看護の展開を考えて取り組むこと。</p> <p>また、授業の進行状況によって内容を変更する場合があります。</p>				
学 生 対 対 する 評 価	試験 80 点、演習の取り組み 20 点				
教 科 書 (購 入 必 須)	河野あゆみ編集：新体系看護学全書在宅看護論 メヂカルフレンド社 石垣和子他編集：看護学テキスト 在宅看護論自分らしい生活の継続をめざして 南江堂				
参 考 書 (購 入 任 意)	河原加代子著者：系統看護学講座統合分野『在宅看護論』医学書院				

科 目 名	基礎看護学実習 I				
担 当 教 員 名	齋藤千秋・畑瀬智恵美・鈴木朋子・岩田直美				
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容	看護師として臨床経験を持つ教員が、臨地において、健康障がいを持つ対象者とのかかわりやケアを通じて、入院している対象者の心身の状態、生活の場である療養環境について学習し、看護の目的や役割について教授する科目				
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病院の役割・機能、医療の場で働く看護者および他職種の専門職としての役割を理解する。 2. 対象者とのかかわりを通して、入院生活の過ごし方について知り、健康時の日常生活との相違や困難さについて理解する。 3. 対象者への援助を通して、健康の回復・維持・増進のために必要な看護援助を根拠に基づいて行う必要性を理解する。 4. 看護学生として、チームの一員としての責任を自覚し、自律した行動をする。 5. 実習を通して、自己の考えを深め看護観をレポートし、自己の課題を明らかにすることができる。 				
授業の概要	健康障がいを持つ対象者とのかかわりやケアを通して、入院している対象者の心身の状態、生活の場である療養環境について学習し、看護の目的や役割について理解する。				
授業の計画	<p>実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習施設内を見学し、主要部署とその役割について説明を受ける。 2. 実習病院の特徴や看護部の方針等についてオリエンテーションを受ける。 3. 療養環境について、病棟の見学とオリエンテーションを受ける。 4. 看護援助の実践に際しては、看護師・教員の説明や助言のもとに行う。 5. カンファレンスで学習内容を整理し、学びを共有する。 6. 学内演習では体験や学びを共有し、学びをまとめ、自己の課題を明確にする。 <p>詳細は、実習要項を参照</p> <p>※実習目標に基づき、臨地実習4日間、学内演習1日間の計画を予定している。</p> <p>※詳細な実習計画・資料等は、実習開始前オリエンテーションで説明する。</p> <p>※実習開始前オリエンテーションを受けることは、実習において必須条件である。</p>				
授業の留意点	<p>本授業科目は、看護学生とし医療の現場で体験的に学ぶ学習であるので、医療の現場で学ぶ者として自覚を持ち、対象や医療従事者の信頼を得られる行動を心がけ実習することが必要である。実習課題到達のためには、実習オリエンテーションに出席すること・事前学習が必要である点を十分認識して実習に臨むことが求められる。</p> <p>本科目の先修要件は、看護学概論、看護技術論、看護共通技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅰの単位修得、ヘルスアセスメント、看護共通技術Ⅱ、基礎看護技術Ⅱの単位修得見込みである。</p> <p>計画的に学習し、体調を整えて実習に臨みましょう。</p>				
学生に対する評価	実習要項の評価方法に準ずる。尚、認定要件は実習記録一式が期限内に提出されることを前提とする。				
教科書（購入必須）	実習要項や必要な実習課題提出記録用紙等の関係資料は実習前に配布されるので、各自が既習科目の教科書を活用し、必要な事前準備を行うこと。				
参考書（購入任意）	配布資料・実習先に応じた参考文献は随時提示する。				

科 目 名	基礎看護学実習Ⅱ				
担 当 教 員 名	畑瀬智恵美・齋藤千秋・鈴木朋子・岩田直美				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容	看護師として臨床経験を持つ教員が、臨地において、既習の知識や技術を基に看護の対象、療養環境、人間関係を形成するためのコミュニケーション、看護ケアをもとに、対象に必要な看護を理解し、その対象の看護上の問題（健康問題）を解決するための看護過程を展開し、同時に問題解決思考能力を教授する科目				
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者とコミュニケーションをとることができる。 2. 対象者を統合的に理解し、看護過程を展開できる。 3. 医療チームの一員として、看護師の役割および医療・福祉チームにおける連携・協働について学ぶことができる。 4. 看護の専門性、学問を探究する学習者として自己洞察し、今後の学習課題を明確にできる。 5. 実習を通して、自己の考えを深め看護観をレポートし、自己の課題を明らかにすることができる。 				
授業の概要	看護学生として初めて一人の対象を受け持ち、健康に障がいをもつ人を理解すると共に、健康障がいをもつ対象の健康問題を解決するための看護過程を展開し、看護を実践する思考プロセスを学ぶ。また、他の専門職と連携・協働するチーム医療を学ぶ。同時に看護職に求められる知識・技術・態度についての学びを深める。				
授業の計画	<p>実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> * 実習目標に基づき、実習期間は2週間を予定している。 * 成人期・老年期にある患者を受け持ち、看護過程を展開する。 * 対象患者に実習依頼し、受け持つことに同意と署名を受ける。 * 学生が立案した看護計画に基づいて実施する援助は、主に生活援助技術である。 <p>詳細は、実習要項を参照</p> <ul style="list-style-type: none"> * 詳細な実習計画・資料等は、実習開始オリエンテーションで説明する * 実習開始前オリエンテーションを受けることは、実習において必須条件である。 				
授業の留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 既習科目（専門基礎科目、専門科目）および看護過程の学習したことを復習し、実習に臨んでください。また、実習で体験する内容について事前学習を十分行ってください。学習は計画的に行い、体調を整えて実習に臨みましょう。 2. 看護実践を通じて専門職業人を目指す看護学生としての責任を自覚し、看護の学習者として、主体的、自律的、真摯な姿勢で臨んでください。 3. 本科目の先修要件は、看護学概論、看護技術論、看護共通技術Ⅰ、看護共通技術Ⅱ、基礎看護技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅱ、ヘルスアセスメント、基礎看護学実習Ⅰの単位を修得していることである。基礎看護技術Ⅲについては、単位修得見込みである。 				
学生に対する評価	実習要項の評価方法に準ずる。尚、認定要件は、実習記録一式が期限内に提出されたことを前提とする。				
教科書（購入必須）	既習科目（専門基礎科目、専門科目）および1年次に既習の教科書、参考図書、授業資料、その他全てを活用する。				
参考書（購入任意）	配布資料・実習先に応じた参考文献は随時提示する。				

科 目 名	成人看護学実習 I				
担 当 教 員 名	長谷部佳子・南山祥子・中谷美紀子・鈴木捷允				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	3 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容	看護師としての臨床経験を持つ教員が、看護師としての役割、患者に対する療養上の世話や診療の補助行為など相対的医行為の実践について指導する科目				
学習到達目標	周手術期にある成人期の患者とその家族に対する看護を、看護過程の展開を通して実践し、看護に必要な基礎的知識・技術・態度を学ぶ。健康障害の急性期にある対象を全人的にとらえ、外科的療法によってもたらされる心身への侵襲を最小限にとどめ、回復するための看護援助の実践を学ぶ。さらに、看護の継続性を学ぶとともに、関係職種間の連携と協働について理解を深め、看護職者として主体的に取り組む姿勢を学ぶ。				
授業の概要	周手術期にある患者を受け持ち、身体的、心理的、社会的アセスメントにより対象の理解を深め、看護計画の立案、実施、評価をする。 外科的療法を受ける患者への看護援助の実施、看護の継続性、関係職種間の連携と協働、看護職者としての姿勢を学ぶ。				
授業の計画	<p>実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 周手術期にある患者の健康課題を把握し、個別的な計画を立て、実践、評価することができる。 2. 健康障害が患者および家族に及ぼす生活の変化を理解した援助的人間関係を形成することができる。 3. 急性期から回復期に至る対象とその家族に対し、生活の視点から回復促進のための働きかけができる。 4. 保健医療福祉チームの一員としてその役割を理解し、看護の継続性、関係職種間の連携・協働について理解することができる。 5. 看護学生として責任ある行動をとることができる。 <p>実習内容 詳細は実習要項およびガイダンスで説明する。 実習方法 詳細は実習要項およびガイダンスで説明する。 実習場所 名寄市立総合病院 実習期間 3 週間</p>				
授業の留意点	学内ですでに学習している専門基礎科目、専門科目（特に成人看護活動論 I）で学んだ知識・技術の活用が必要となるので、それらを復習するとともに、実習で体験する内容について事前学習を十分行って実習に臨んでください。				
学生に対する評価	実習要項の評価方法に準じる。				
教科書（購入必須）					
参考書（購入任意）	藤野彰子・長谷部佳子（編著）「看護技術ベーシック」サイオ出版				

科 目 名	成人看護学実習Ⅱ				
担 当 教 員 名	長谷部佳子・南山祥子・中谷美紀子・鈴木捷允				
学 年 配 当	3年	単 位 数	3単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	看護師としての臨床経験を持つ教員が、看護師としての役割、患者に対する療養上の世話や診療の補助行為など相対的医行為の実践について指導する科目				
学 習 到 達 目 標	慢性的な健康障害をもつ成人期の患者を受け持ち、看護過程を展開し、その看護実践を通して疾病や障害あるいは死を受容し、自己管理や生活の再構築、その人らしく過ごせるような支援の実際を学ぶことができる。さらに看護の継続性、関係職種との連携と協働の実際について理解することができる。				
授 業 の 概 要	健康障害の慢性期にある成人期の患者を1名受け持ち、身体的、心理的、社会的アセスメントにより対象の理解を深め、看護計画の立案、実施、評価をする。そのなかで、疾病や障害あるいは死を受容し、自己管理や生活の再構築、その人らしい生き方を支えるための看護の実際を学ぶ。また、看護の継続性を学ぶとともに、関係職種間の連携と協働について理解を深め、看護職者として主体的に取り組む姿勢を学ぶ。				
授 業 の 計 画	<p>実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 健康障害の慢性期にある患者の健康課題を把握し、個別的な計画を立て、実践、評価することができる。 人間関係の重要性を認識し、健康障害の慢性期にある患者とその家族の心理的状态に応じた関わりをもつことができる。 患者とその家族がその人らしく過ごせるように、生活の視点から教育指導を含む支援活動を考え、実践することができる。 社会復帰に向けて、必要な保健医療・福祉サービスなど関係職種との連携・協働について理解することができる。 看護学生として責任ある行動をとることができる。 <p>実習内容 詳細は実習要項およびガイダンスで説明する。</p> <p>実習方法 詳細は実習要項およびガイダンスで説明する。</p> <p>実習場所 名寄市立総合病院・名寄三愛病院</p> <p>実習期間 3週間</p>				
授 業 の 留 意 点	学内ですでに学習している専門基礎科目、専門科目（特に成人看護活動論Ⅱ）で学んだ知識・技術の活用が必要となるので、それらを復習するとともに、実習で体験する内容について事前学習を十分行って実習に臨んでください。				
学 生 対 対 する 評 価	実習要項の評価方法に準ずる。				
教 科 書 (購入必須)					
参 考 書 (購入任意)					

科 目 名	老年看護学実習				
担 当 教 員 名	安藤 千晶・澤田 知里・上原 主義				
学 年 配 当	3年	単 位 数	4単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	看護師として臨床経験を有する教員が、老年看護の基本的な考え方、高齢者との関わり方、看護の展開方法、ケアの方法などを、実践を踏まえながら指導する。				
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老いと病による障害を持ちながら、自己の力を最大限に活用し生活している高齢者の理解を深めることができる。 2. 高齢者個人の老いと病から引き起こされる身体・心理・社会的変化に対して、既存の知識・技術と結びつけながらアセスメントし、看護計画の立案・実践・評価の過程を効果的に展開できる。 3. 高齢者を対象にした保健医療福祉システムの現状を理解し、保健医療福祉の連携と看護の役割について建設的に考えることができる。 				
授 業 の 概 要	高齢者は医療施設だけでなく、保健福祉施設から在宅などさまざまな場で生活している。多様な健康状況下にある高齢者の特性を理解し、学内で学んだ知識・技術、専門職としての態度と倫理観を看護実践の場において統合的に応用する。				
授 業 の 計 画	<p>実習方法 老年看護学実習は、グループホーム実習 1 単位と通所サービス実習 1 単位を組み入れた計 2 単位、病院・施設主体の実習 2 単位で構成される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習目標・計画等の詳細は「老年看護学実習要項」として別途説明・配布する。 2. グループホーム、通所サービス実習(2週間) <ul style="list-style-type: none"> ・地域密着型施設を利用している高齢者とかかわりながら、グループホームや在宅生活維持に向けた生活のありようについて学ぶ。さらに、高齢者の健康の維持・増進の取り組みと連携について学ぶ。 ・認知症高齢者の心身状態と生活上の困難に対応する看護の特徴について学ぶ。 3. 病院・施設実習(2週間) <p>1名の患者/利用者を受け持って、看護過程を展開しながら看護の実践や評価を行う。受け持ち患者/利用者は65歳以上の健康障害や生活に支障のある者を予定している。</p> <p>*実習場所 グループホーム・通所サービス実習：名寄市内（風連町）・士別市内 病院・施設実習：名寄市内・美深町</p> <p>*事前ガイダンスや課題があります</p>				
授 業 の 留 意 点	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は老年看護学概論、老年看護活動論Ⅰ・Ⅱの単位を取得していなければ履修できない。 ・インフルエンザワクチン接種の要請を受ける場合がある。罹患の場合は実習中断となる。 ・健康管理に留意すること。 				
学 生 に 対 す る 評 価	実習要項の評価方法に準ずる。				
教 科 書 (購入必須)					
参 考 書 (購入任意)					

科 目 名	小児看護学実習				
担 当 教 員 名	佐々木俊子・永谷智恵				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	小児とその家族が外来受診や入院している医療施設において臨床指導者のもと、看護職の責務を理解し、発達段階や家族のニーズに応じた看護援助を指導する科目				
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所実習を通して、成長発達に応じた日常生活、遊びの支援ができる。 2. 小児看護における外来看護の役割を理解できる。 3. 入院している小児とその家族の看護問題を明らかにできる。 4. 発達段階や個別性を考慮した看護ケアを考え実施できる。 5. 小児看護における看護職の責務を考察できる。 6. 障害を持っている子ども（成人）の日常生活を理解して必要とされる看護を理解できる。 				
授 業 の 概 要	<p>保育所実習では、指導保育士と共に子どもの日常生活、遊びの実際を体験する。</p> <p>外来受診および入院している小児とその家族を看護する病棟実習では、既習の知識・技術を基に、看護ケアの計画立案・実施・評価のプロセスを体験し小児看護の実際を学ぶ。</p> <p>療育園では、主に見学実習であるが、実習指導者の指導を受けながら、日常生活の援助やコミュニケーションを通して利用者のと関わり、必要とされる看護を考えていく。</p>				
授 業 の 計 画	<p>別途配付する「小児看護学実習要項」に基づいて学内オリエンテーションを行い実習を進める。</p> <p>実習施設：小児病棟、小児科外来、保育所、療育園</p> <p>実習期間：2 週間</p> <p>実習方法：1 グループ1 週間単位で小児病棟と小児科外来・保育所に入る 1 日療育園での実習</p> <p>実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 小児病棟 <ul style="list-style-type: none"> ・受け持ち患児を決め、看護計画を立案する ・受け持ち患児の看護ケアを実施する ・実施した看護ケアについて評価し看護計画の修正を行う 2) 小児科外来 <ul style="list-style-type: none"> ・受け持ち患児を決め、家庭で行っているケアについて情報収集を行い、必要な看護ケアについてアセスメントする ・健診や予防接種に来ている子どもや家族に必要なプレパレーションを実施する 3) 保育所 <ul style="list-style-type: none"> ・健康な子どもの日常生活や遊びについて発達段階に応じた支援を行う 4) 療育園 <ul style="list-style-type: none"> ・障害のある子ども（成人）に必要な支援について、様々な専門家から説明を受け学ぶ ・実習指導者の指導のもと、障害のある子ども（成人）の日常生活の援助（主に食事介助）を実施する 				
授 業 の 留 意 点	<p>感冒や感染症の疑い・発症などは必ず報告してください。感染源・媒介の危険性がある場合は実習中止となる。予防接種の履行および日常生活・健康の管理に留意すること。</p> <p>実習前には各自、既習の知識・技術の確認を行い、準備を整えて実習に臨むこと。</p>				
学 生 に 対 する 評 価	実習要項の評価方法に準ずる。				
教 科 書 (購 入 必 須)					
参 考 書 (購 入 任 意)	子どもの地図帳 講談社				

科 目 名	母性看護学実習				
担 当 教 員 名	笹木葉子・加藤千恵子・渡邊友香				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	助産師としての実務経験を持つ教員が、妊娠分娩産褥期の母親と新生児の看護実践の基本を医療施設の臨床指導者と共に指導する科目				
学 習 到 達 目 標	<p>女性およびその家族を対象として、母性の健全な成長発達を促し、健康の維持・増進、発達課題の達成を促すための看護方法を学び、母性看護の役割について考える。</p> <p>1) 妊娠、分娩、産褥期における女性の特性を身体的、心理的、社会的側面から理解し、各期の過程に影響する要因を学ぶ。</p> <p>2) 母性意識の育成および母子関係、家族関係成立にむけての支援を学ぶ。</p> <p>3) 妊産褥婦がセルフケア行動や養育行動を獲得していく過程の支援を学ぶ。</p> <p>4) 新生児の生活を整える働きかけを通して、新生児が胎外生活に適応していく過程を学ぶ。</p> <p>5) 生命の尊厳性や母性の尊重について、自己の考えを深める。</p> <p>6) 母子の生活を継続して支援するための母子保健活動を学ぶ。</p>				
授 業 の 概 要	<p>1) 妊娠・分娩・産褥期にある母子を受け持ち、身体的、心理的、社会的アセスメントにより発達課題や発達危機、健康状態を把握し、母子の健康を維持促進するために必要な看護実践の基礎的知識・技術・態度を学ぶ。</p> <p>2) 産後、地域で生活する褥婦及び新生児の健康状態および地域が抱える課題について学ぶ。</p> <p>3) 地域における母子保健活動の実際を学ぶ。</p>				
授 業 の 計 画	<p>実習内容(産科病棟実習・産科外来実習・地域母子保健実習)</p> <p>周産期からの母性看護の対象が訪れる施設と地域を理解する。また、実習中に関わる1事例以上の対象の特性を理解し、看護過程のアセスメントを通して看護の方法を学ぶ。</p> <p>実習方法</p> <p>1) 実習場所(4か所)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名寄市立総合病院3階西病棟、名寄市立総合病院産婦人科外来、野口母乳育児相談室、名寄市立大学タッチケアサロン <p>1 グループ：1週間単位で病棟・分娩参加見学チームと外来・地域母子保健活動チームで交替する (1G8名)</p> <p>2) 実習内容</p> <p>(1) 周産期母子実習(病棟)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・褥婦と新生児の看護：1例受持ち ・産婦の看護は参加見学 <p>(2) 産婦人科外来実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊婦健康診査・保健指導の見学及び一部実施(1例以上) ・地域母子保健活動実習(タッチケアサロン、母乳育児相談等)の参加見学 <p>実習期間 2週間</p>				
授 業 の 留 意 点	母性看護学概論、母性看護活動論Ⅰ、母性看護活動論Ⅱをすべて履修済であること。事前に配布する実習要項、特に達成目標を読み、事前学習を行い、活動論Ⅰ・Ⅱで作成した学習ノートを実習で活用すること。				
学 生 対 する 評 価	実習方法の評価方法に準ずる。				
教 科 書 (購 入 必 須)	<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門Ⅱ母性看護学概論 母性看護学 1 森恵美(医学書院) ・系統看護学講座 専門Ⅱ母性看護学概論 母性看護学 2 森恵美(医学書院) ・写真でわかる母性看護技術アドバンス 平澤美恵子(インターメディカ) ・ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 第2版 太田操(医歯薬出版) 				
参 考 書 (購 入 任 意)	<ul style="list-style-type: none"> ・病気がみえる VOL10 産科 第4版 (メディックメディア) ・看護観察のキーワードシリーズ母性Ⅰ、Ⅱ 前原 澄子(編集)(中央法規出版) 				

科 目 名	精神看護学実習				
担 当 教 員 名	結城佳子				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容	精神科医療機関等において、臨地実習指導者による指導のもとで看護援助を実践し、それを通して対象理解、看護援助方法ならびに人権擁護等を学び、看護師の役割について指導する科目				
学習到達目標	精神健康について援助を必要とする人とのかかわりと看護援助の実践を通して、対象を精神的・身体的・社会的側面等から総合的に理解し、治療的コミュニケーション技法および精神科における看護援助方法を修得する。また、精神疾患および精神障害が対象の生活に及ぼす影響を理解し、生活支援における他職種と医療チームにおける看護職の役割を理解する。				
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神科病棟において入院患者を受け持ち、看護過程を展開する。あわせて、施設見学、精神科における治療・リハビリテーションの見学を行う。 2. 受け持ち患者をはじめとする入院患者とのかかわりや受け持ち患者の看護過程の展開を通して、精神看護に必要な基礎的な知識・技術を習得し、精神科において看護職に求められる基本的な態度を養う。 3. 治療・リハビリテーションの見学や看護過程の展開を通して、他職種の役割と医療チームにおける看護職の役割を理解する。 				
	<ol style="list-style-type: none"> 1 別途配布する「精神看護学実習要項」に基づいて学内オリエンテーションを行う。(半日) 2 精神科救急急性期病棟、回復期病棟、慢性期病棟のいずれかにおいて2週間の実習を行う。患者を受け持ち、臨地実習指導者および教員の指導のもと看護過程を展開、実践する。(各自の実習時期については、別途指示する) 3 実習期間中にアルコール集団療法、SST、作業療法等の精神科における治療・リハビリテーションの実際を見学する。(見学日時は実習施設の予定による) 4 実習中に受け持ち患者等とのかかわりをプロセスレコードに記録し、自己理解に活用する。 5 実習終了後、看護計画や記録類、総合レポートを提出する。(提出日は別途指示する) 				
授業の留意点	学内ですでに学習している専門基礎科目、専門科目(特に、精神看護学概論、精神看護活動論)で学んだことを活用する必要がある。学んだことを復習して実習に臨むこと。 看護学生としてふさわしい責任ある行動や真摯な態度をとること。				
学生に対する評価	評価項目・評価方法を実習要項に提示、実習前に実施するオリエンテーションにて説明する。総合点60点以上を単位認定する。				
教科書(購入必須)	テキストは使用しない。				
参考書(購入任意)					

科 目 名	在宅看護実習				
担 当 教 員 名	伊藤亜希子				
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	対象者が生活している場面において、専門職指導者と看護師および保健師として実務経験を持つ教員のもと、在宅看護活動に必要な支援方法や家族ケアの実施に必要な専門的知識について学び、看護師の役割について教授する科目				
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅療養者と家族の特性や生活上の課題やニーズを理解する。 2. 対象者の病気や障害に対する気持ちの受け止めや価値観などを考えることができる。 3. 在宅療養者や家族の健康や生活状態に応じた支援について考えることができる。 4. 対象者が利用している社会資源の内容を理解する。 5. 在宅療養者および地域全体の健康問題の解決に必要な保健・医療・福祉サービスの連携について理解する。 				
授 業 の 概 要	<p>訪問看護ステーション、地域包括支援センター、障害者施設において実習を行う。訪問看護ステーションの実習では、訪問看護師に同行し在宅療養者の自宅における訪問看護活動の展開を学ぶ。地域包括支援センターでは、地域包括支援センターの体制と支援活動について学ぶ。障害者施設では、地域で暮らす障害者の生活を理解し、生活モデルを用いた関わり方や支援方法を学ぶ。また、地域で生活する人々に対する在宅ケアサービスと保健・医療・福祉の連携・調整を理解する。</p>				
授 業 の 計 画	<p>実習方法 詳細については実習要項およびガイダンスにて説明する。</p> <p>1 週目：訪問看護ステーションにおける訪問看護実習</p> <p>2 週目：地域包括支援センターおよび地域で生活する障害者の在宅生活を支援する施設における実習</p> <p>実習内容 詳細については実習要項およびガイダンスにて説明する。</p> <p>実習場所 訪問看護ステーション（名寄市内および周辺地域）</p> <p>地域包括支援センターおよび地域の障害者施設</p> <p>実習期間 2 週間</p>				
授 業 の 留 意 点	在宅看護や障害者福祉に関係する制度や社会資源などについて復習をして実習に臨んでください。実習では在宅療養者の自宅や施設を訪問させていただきます。訪問の際には、学生としての節度ある態度と学ばせていただくという気持ちを念頭において、臨んでください。				
学 生 対 する 評 価	実習要項の評価方法に準ずる。				
教 科 書 (購 入 必 須)					
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	看護倫理				
担 当 教 員 名	石垣 靖子				
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容	緩和医療において、看護師及び看護管理者として臨床経験を持つ教員が、実際の事例や看護場面を通して看護における倫理を教授する科目。				
学習到達目標	倫理が日常の実践と深く結びついていることを学び、倫理の基本的な知識を学習する。 また、医療・ケアの目標である受け手のQOLを維持し、高めるために患者・家族の対象別としての看護師の役割について学習する。				
授業の概要	看護師として、ケアの対象である患者・家族への倫理的な支援が行えるように、基本的な知識をグループワークやビデオ学習等を通して学ぶ。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 医療倫理のはじまり、その背景について理解する。 2 医療・ケアの質と倫理の位置づけを説明できる。 3 看護倫理の特徴と倫理的ジレンマについて理解する。 4 受け手と担い手との共同行為としての医療・ケアについて説明できる。 5 倫理観が原点である“ケアリング”の概念について理解する。 6 意思決定を支援するプロセスとその本質について理解する。 7 倫理事例検討の実際を理解する。 8 院内倫理委員会とその役割について理解する。 9 人間尊重の倫理原則とその実際について理解する。 10 COVID-19 中での倫理的な課題について理解できる。 				
授業の留意点	倫理がよい実践と同義語であることを授業を通して一緒に考えたいと思います。 実習で出会った様々な場面を通して話し合ひましょう。				
学生に対する評価	授業態度 30点 レポート 70点				
教科書 (購入必須)	石垣 靖子他：臨床倫理ベーシックレッスン、日本看護協会出版会、2012				
参考書 (購入任意)	清水哲郎著 「医療現場に臨む哲学」 勁草書房 1997 (この本は臨床に出ても役立つ本です。)				

科 目 名	看護マネジメント論				
担 当 教 員 名	原口眞紀子・河地範子・井戸川みどり・日下玲子				
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容	現在、看護管理者として看護マネジメントを実践している教員が、看護を取り巻く法制度、マネジメントの知識・技術を教授する科目。				
学習到達目標	看護サービスを提供するためには、看護職同士の協同、他職種との連携、対象者自身やご家族の協力とともに、対象者を取り巻くあらゆる資源を十分に活用することが必要となるため、その人的・物的・財的資源が自然発生的に無限にあるのではなく、多くの場合有限であるため、これらの資源をどのように有効利用するかが重要であり、それを維持・活用するための仕組みを理解する。				
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. チームや組織をつくり動かしていくことは管理者だけの仕事ではなく、ケアを提供しているすべての看護職が担う役割であることを学ぶ。 2. 看護を仕組みとしてとらえ、それがどのようにになっているのか、問題はなにか、どのような改善策があるのか、どのようにすればより良い看護が提供できるのか等を追及し、多数の人々が共に働くための「技」を学ぶ。 				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 看護とマネジメント 2 看護ケアのマネジメント 3 看護ケアのマネジメント 4 看護ケアのマネジメント 5 看護サービスのマネジメント 6 看護サービスのマネジメント 7 看護サービスのマネジメント 8 看護サービスのマネジメント 9 看護を取りまく諸制度 10 看護を取りまく諸制度 11 看護を取り巻く諸制度 12 看護を取り巻く諸制度 13 マネジメントに必要な知識と技術 14 マネジメントに必要な知識と技術 15 マネジメントに必要な知識と技術 				
授業の留意点	実習中に気づいた看護管理に関する問題・疑問・課題解決に向けて考えたことを整理しておく。				
学生に対する評価	レポート100点で評価する。				
教科書 (購入必須)	上泉和子他 『系統看護学講座 統合分野 看護管理 看護の統合と実践 [1]』 医学書院				
参考書 (購入任意)					

科 目 名	災害看護学・国際看護学				
担 当 教 員 名	播本雅津子 長谷部佳子				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容	看護師資格を有し、JICA の草の根事業申請のためモンゴル国で活動した経験、および赤十字関連のインドネシアで活動した経験を通じて講義を展開する。				
学習到達目標	災害看護学では、災害の種別および災害に関する法令等を理解する、災害看護の歴史および基礎知識を理解する、災害時の医療・看護活動の実際について理解する、災害時を念頭においた日々の看護活動について考察する、の4点を目標とする。 国際看護学では、グローバルな視点で看護活動を考えられるようになることを目標とする。				
授業の概要	授業は災害看護学部分と国際看護学部分のオムニバスである。 災害看護学では、災害に関する基礎知識および災害看護学に関する実際の活動等について講義を通じて理解を深めた後に、実際の活動についての体験談や演習を通じて、ひとり一人が災害時の看護活動について考える機会を持つことのできる授業とする。 国際看護学も同様に、総論・各論の講義を通じて理解を深めた後に、実際の活動に関する体験談を含む演習を通じて、国際看護の視座を養う。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 災害看護学オリエンテーション・災害について・災害看護学の歴史について 2 災害に関する法律・法令 3 様々な災害から生まれた支援活動の教訓について 4 災害時の看護活動について（DMAT の実際） 5 トリアージについて 6 災害保健について（保健師活動の実際） 7 放射線災害について 8 国際看護を考えるうえでの理論・制度 9 国際協力の仕組み、日本との関係 10 世界の健康問題 11 海外での国際看護活動1 12 海外での国際看護活動2 13 日本における国際看護活動1 14 日本における国際看護活動2 15 統合学習 				
授業の留意点	出席および成績評価は、災害看護学部分と国際看護学部分に分かれそれぞれ6割を必要とする。極力遅刻や欠席のないように臨む。 COVID-19 感染拡大状況によっては一部または全部を遠隔授業で行う可能性がある。				
学生に対する評価	災害看護学部分はレポート評価を行う。国際看護学部分もレポート評価を行う。				
教科書（購入必須）					
参考書（購入任意）					

科 目 名	統合実習				
担 当 教 員 名	看護学科教員				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保健師：必修
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	保健師・助産師・看護師としての実務経験を持つ教員がより実践的な状況場面における看護の展開を教授する科目。				
学 習 到 達 目 標	<p>保健医療チームの一員として看護の役割を学び、他職種、他機関との連携・協働を通して主体的に看護を展開する実践的能力を養う。また、既習の講義・実習を統合し、興味・関心領域における看護実践能力の向上をめざし、探究的姿勢および態度を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健医療チームおよび看護チームの組織・機能・管理の実際を学び、チームの一員としての役割を理解する。 2. 保健医療チーム並びに看護チーム、他機関、他職種等との連携・協働の実際を学び、統合的・継続的な看護実践について理解する。 3. 看護実践に必要な知識・技術を統合し、より実践的な状況・場面における看護を展開することができる。 4. 看護職に求められる専門性とその責任を理解し、より質の高い看護実践をめざし自己研鑽を継続する必要性を理解する。 				
授 業 の 概 要	基礎、成人、老年、小児、母性、精神、在宅ならびに公衆衛生看護学の各領域または領域間の連携により実習する。各領域の専門性を反映した実習内容により実習目的・目標の到達をめざす。学生は、選択した領域の実習計画に基づき、配置された実習施設での実習を行う。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 別途配布する「統合実習要項」に基づき、学内でのオリエンテーションを行う。 2 オリエンテーションでは、各領域等の実習計画（実習方法、内容、実習施設等）について説明し、領域等の配置について希望調査を行う。 3 それぞれの希望に応じて、領域等ならびに実習施設の配置を調整する。各実習施設への学生配置数は2～4名を予定している。各グループには、担当の教員と臨地実習指導者を配置し、指導を行う。 4 実習内容は、より実践的な看護活動として看護管理、複数患者受持ち、夜間帯勤務の見学等、継続看護は退院支援や地域生活活動支援等他、他機関・他職種との連携、家庭訪問、地区組織活動等領域の専門性を反映している。 5 実習施設での実習中は、教員と臨地実習指導者が連携して指導にあたる。また実習終了後は、主に教員の指導に基づき、学内演習等により学びを深めその統合を行う。 				
授 業 の 留 意 点	4年間の学びの集大成の実習であり、主体的に学び、自己を研鑽する姿勢をもって実習に臨むこと、看護学生として責任ある行動をとることが期待される。				
学 生 対 する 評 価	実習目標に対する到達度、実習内容、実習記録類・レポート等により、総合的に評価する。（実習要項を参照）				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	特に指定しない				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）					

科 目 名	看護統合演習				
担 当 教 員 名	看護学科教員				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	看護師としての臨床経験を持つ教員が、看護師としての役割、患者に対する療養上の世話や診療の補助行為など相対的医行為の実践について指導する科目				
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の身体への侵襲が強く実習や学内演習では体験することができなかった診療補助技術や、実際臨床で行われている実践に近い看護技術のスキルを習得することができる。 2. 卒業生の講演や懇談から臨床現場の実際を知り、看護専門職として・社会人としての心構えができる。 				
授 業 の 概 要	<p>臨床に即した看護技術実践力の向上、専門的看護技術の向上、看護専門職者としての心構えの育成をめざし</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 優先度や判断力を育成する多重課題を有する患者のロールプレイを行う。 2. 卒業生を含む臨床現場の看護師の指導を受けながら、実習や学内演習では体験できない診療補助技術の演習を行う。 3. 卒業生から「看護専門職者として求められていること」や「社会人としての心構え・新人としての臨床の体験」などの講演を聞く。 				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 看護統合演習 オリエンテーション スケジュール説明など 2 講演会 新人看護師に期待すること、社会から見た看護職者に求められること 3 講演会 新人看護師に期待すること、社会から見た看護職者に求められること 4 講義 点滴静脈内注射・筋肉注射、輸液ポンプ・シリンジポンプ、採血、胃管カテーテル挿入他 5 講義 点滴静脈内注射・筋肉注射、輸液ポンプ・シリンジポンプ、採血、胃管カテーテル挿入他 6 多重課題 ロールプレイ 7 多重課題 ロールプレイ 8 講演会（卒業生：看護師） 看護師として社会人として 9 講演会（卒業生：新人看護師） 卒業1年を経過して 10 技術演習（卒業生） 点滴静脈内注射、輸液ポンプ、採血他 11 技術演習（卒業生） 点滴静脈内注射、輸液ポンプ、採血他 12 技術演習（卒業生） 点滴静脈内注射、輸液ポンプ、採血他 13 技術演習（卒業生） 点滴静脈内注射、輸液ポンプ、採血他 14 卒業生や臨床NSとの交流会 15 卒業生や臨床NSとの交流会 				
授 業 の 留 意 点	卒業直前の演習であり、看護師として働いている卒業生の指導も受けられるので、実習では体験できなかった現場のスキルを積極的に学ぶこと。先輩看護師に心配や不安なことを聞いて心の準備をする。				
学 生 対 対 する 評 価	レポート100点				
教 科 書 (購 入 必 須)	なし				
参 考 書 (購 入 任 意)	必要時紹介する				

科 目 名	看護研究の基礎				
担 当 教 員 名	長谷部佳子・南山祥子				
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容	看護師資格を有し、病院での看護研究指導や講演、大学院での研究方法の教授および修士論文指導実績がある教員が研究・基礎について教授する。				
学習到達目標	看護における様々な事象について、専門的知識・技術の向上や開発につながる信頼性・妥当性の高い知見を導き出すために必要な看護研究の知識や研究方法への理解を深め、実践の場における研究活動を自立して行うための知識的基盤を習得することを目標とする。				
授業の概要	新しい知見を導き出すために必要な看護研究の方法論について、先行研究論文のクリティークや具体的な研究例等を通して学び、研究に重要な科学的かつ論理的な思考方法や研究者としての倫理について理解を深める。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 看護研究とは、看護における研究の必要性和意義 2 看護研究の方法 3 看護研究における倫理 4 文献検索と検討①クリティークの視点 5 文献検索と検討②自己の研究テーマへの活用 6 研究計画の立て方①研究方法の決定方法 7 研究計画の立て方②評価項目の決定方法 8 調査研究①量的研究と質的研究 9 調査研究②データ収集の方法と注意点 10 実験研究 11 調査研究③調査の実施 12 調査研究④質的データの整理 13 研究発表の仕方 14 看護研究の実際①研究計画書の作成 15 看護研究の実際②データ処理 				
授業の留意点	卒業研究での学習を進めるために必須な学習内容となっているので、必ず全講義に出席すること。積極的に講義に参加することを期待する。				
学生に対する評価	レポート100点で評価する。				
教科書 (購入必須)	岡本和土、長谷部佳子：看護研究はじめの一步、第1版、医学書院、2006				
参考書 (購入任意)	下記の他、必要時指示する。 黒田裕子：看護研究 step by step、第5版、医学書院、2017				

科 目 名	権利擁護と成年後見				
担 当 教 員 名	佐藤 みゆき				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	社会福祉士・精神保健福祉士：必修
実務経験及び授業内容	権利擁護(苦情解決第三者機関)の相談員の臨床経験を持つ教員が、社会福祉士として必要な権利擁護に関する法制度の知識、支援の実際について指導する科目				
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 法に共通する基礎的な知識を身につけるとともに、権利擁護を支える憲法、民法、行政法の基礎を理解する。 2. 権利擁護の意義と支える仕組みについて理解する。 3. 権利が侵害されている者や日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について理解する。 4. 権利擁護活動を実践する過程で直面する問題を、法的観点から理解する。 5. ソーシャルワークにおいて必要となる成年後見制度について理解する。 				
授業の概要	本授業は、権利擁護の意義とそれを支える法制度への理解を深め、ソーシャルワーカーが関わる成年後見制度の概要を学び、その実際を知ることを目的とする。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーションと法の基礎 2 ソーシャルワークと法の関わり(1)-憲法 3 ソーシャルワークと法の関わり(2)-行政法 4 ソーシャルワークと法の関わり(3)-民法①民法総則 5 ソーシャルワークと法の関わり(4)-民法②契約 6 ソーシャルワークと法の関わり(5)-民法③不法行為 7 ソーシャルワークと法の関わり(6)-民法④親族 8 ソーシャルワークと法の関わり(7)-民法⑤相続 9 権利擁護の意義と支える仕組み(1)-権利擁護の意義、福祉サービスの適切な利用、苦情解決の仕組み 10 権利擁護の意義と支える仕組み(2)-虐待防止法の概要、差別禁止法の概要、意思決定支援ガイドライン 11 権利擁護活動で直面しうる法的諸問題 12 権利擁護に関わる組織、団体、専門職 13 成年後見制度(1)-成年後見の概要、後見の概要、保佐の概要、補助の概要 14 成年後見制度(2)-任意後見の概要、成年後見制度の最近の動向、成年後見制度利用支援事業 15 成年後見制度(3)-日常生活自立支援事業 				
授業の留意点	ソーシャルワーク、日常生活と法との関連について、常に考察しながら主体的に学びを深めてほしい。 六法を活用し、条文をこまめに引くこと。				
学生に対する評価	試験 50点 レポート 45点 授業への積極的参加状況 5点 の合計点で評価する。				
教科書(購入必須)	ミネルヴァ社会福祉六法 2021 ミネルヴァ書房				
参考書(購入任意)	講義の中で適宜指示する。				

科 目 名	精神保健福祉の原理 I				
担 当 教 員 名	松浦 智和・浦田 泰成				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	精神保健福祉士：必修
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	精神科病院で精神保健福祉士としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容				
学 習 到 達 目 標	<p>①「障害者」に対する思想や障害者の社会的立場の変遷から、障害者福祉の基本的枠組み（理念・視点・関係性）について理解する。</p> <p>②精神保健福祉士が対象とする「精神障害者」の定義とその障害特性を構造的に理解するとともに、精神障害者の生活実態について学ぶ。</p> <p>③精神疾患や精神障害をもつ当事者の社会的立場や処遇内容の変遷をふまえ、それに対する問題意識をもつ価値観を体得する。</p> <p>④精神障害者へのかかわりについて、精神医学ソーシャルワーカーが構築してきた固有の価値を学び、精神保健福祉士の存在意義を理解して職業的アイデンティティの基礎を築く。</p>				
授 業 の 概 要	<p>本科目は精神保健福祉士国家試験受験資格取得に関わる指定科目である。</p> <p>「障害者」に対する思想や障害者の社会的立場の変遷や障害者福祉の基本的枠組み、精神保健福祉士が対象とする「精神障害者」の定義やその障害特性を構造的に理解するとともに、精神障害者の生活実態について理解し、幅広い視野から精神保健福祉の原理について学修する。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 障害者福祉の思想と原理 2 障害者福祉の理念・リハビリテーション① 3 障害者福祉の理念・リハビリテーション② 4 障害者福祉の歴史的展開① 5 障害者福祉の歴史的展開② 6 国際生活機能分類（ICF） 7 制度における「精神障害者」の定義 8 精神障害の障害特性 9 社会的排除と社会的障壁①：諸外国の動向 10 社会的排除と社会的障壁②：日本の精神保健福祉施策に影響を与えた出来事 11 社会的排除と社会的障壁③：日本の社会的障壁 12 精神障害者の生活実態①：精神保健医療福祉と精神障害者 13 精神障害者の生活実態②：精神科医療の特性 14 精神障害者の生活実態③：精神障害者と家族 15 精神障害者の生活実態④：精神障害者と社会生活 				
授 業 の 留 意 点	本科目は講義形式により開講する。				
学 生 に 対 す る 評 価	定期試験(100点)				
教 科 書 (購 入 必 須)	別途周知する。				
参 考 書 (購 入 任 意)	別途周知する。				

科 目 名	精神保健福祉の原理Ⅱ				
担 当 教 員 名	松浦 智和・浦田 泰成				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	精神保健福祉士 必修
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	精神科病院で精神保健福祉士としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容				
学 習 到 達 目 標	<p>①「障害者」に対する思想や障害者の社会的立場の変遷から、障害者福祉の基本的枠組み（理念・視点・関係性）について理解する。</p> <p>②精神保健福祉士が対象とする「精神障害者」の定義とその障害特性を構造的に理解するとともに、精神障害者の生活実態について学ぶ。</p> <p>③精神疾患や精神障害をもつ当事者の社会的立場や処遇内容の変遷をふまえ、それに対する問題意識をもつ価値観を体得する。</p> <p>④精神障害者へのかかわりについて、精神医学ソーシャルワーカーが構築してきた固有の価値を学び、精神保健福祉士の存在意義を理解して職業的アイデンティティの基礎を築く。</p> <p>⑤現在の精神保健福祉士の基本的枠組み（理念・視点・関係性）と倫理綱領に基づく職責について理解する。</p> <p>⑥精神保健福祉士を規定する法律と倫理綱領を把握し、求められる機能や役割を理解する。</p> <p>⑦近年の精神保健福祉の動向を踏まえ、精神保健福祉士の職域と業務特性を理解する。</p>				
授 業 の 概 要	<p>本科目は精神保健福祉士国家試験受験資格取得に関わる指定科目である。</p> <p>史的に精神医学ソーシャルワーカーが構築してきた固有の価値を学び、精神保健福祉士の存在意義を理解して職業的アイデンティティを理解するとともに、精神保健福祉士の基本的枠組みと倫理綱領に基づく職責について理解することをめざす。さらに、近年の精神保健福祉の動向を踏まえ、精神保健福祉士の職域と業務特性について理解し、幅広い視野から精神保健福祉の原理について学修する。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 「精神保健福祉士」の資格化に至る経緯① 2 「精神保健福祉士」の資格化に至る経緯② 3 精神保健福祉の原理・価値① 4 精神保健福祉の原理・価値② 5 精神保健福祉の観点・視点① 6 精神保健福祉の観点・視点② 7 精神保健福祉における“関係性” 8 精神保健福祉士法 9 精神保健福祉士の職業倫理 10 精神保健福祉士の業務特性① 11 精神保健福祉士の業務特性② 12 精神保健福祉士の職場・職域 13 精神保健福祉士の業務内容と業務指針① 14 精神保健福祉士の業務内容と業務指針② 15 まとめ 				
授 業 の 留 意 点	本科目は講義形式により開講する。				
学 生 に 対 す る 評 価	定期試験(100点)				
教 科 書 (購 入 必 須)	別途周知する。				
参 考 書 (購 入 任 意)	別途周知する。				

科 目 名	ソーシャルワーク論Ⅶ				
担当教員名	松浦 智和 浦田 泰成				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	精神保健福祉士：必修
実務経験及び授業内容	精神科病院で精神保健福祉士としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容				
学習到達目標	<p>①精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークの過程を理解する。</p> <p>②精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人と家族の関係を理解し、家族への支援方法を理解する。</p> <p>③精神医療、精神障害者福祉における多職種連携・多機関連携の方法と精神保健福祉士の役割について理解する。</p> <p>④個別支援からソーシャルアクションへの実践展開をマイクロ・メゾ・マクロの連続性・重層性を踏まえて理解する。</p>				
授業の概要	<p>本科目は精神保健福祉士国家試験受験資格取得に関わる指定科目である。</p> <p>精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークの過程を学ぶとともに、当事者の家族やその関係性にも着目し、家族も対象たることを視野に入れた支援のありようについて学修する。さらには、多職種連携・多機関連携の方法について学び、精神保健福祉士の役割についても学修する。一連の学習過程では、ソーシャルワークが、個別支援からソーシャルアクションへの実践展開をマイクロ・メゾ・マクロの連続性・重層性があることを踏まえていく。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ソーシャルワークの構成要素 2 ソーシャルワークの展開過程①：ケースの発見、インテーク、アセスメント 3 ソーシャルワークの展開過程②：プランニング、支援の実施、モニタリング 4 ソーシャルワークの展開過程③：支援の終結と事後評価、アフターケア 5 ソーシャルワークの展開過程④：マイクロ・メゾ・マクロレベルにおける展開 6 精神保健福祉分野のソーシャルワークの基本的視点①：人と環境の相互作用 7 精神保健福祉分野のソーシャルワークの基本的視点②：精神障害及び精神保健の課題を有する人とその家族の置かれている状況 8 精神保健福祉分野のソーシャルワークの基本的視点③：精神疾患・精神障害の特性を踏まえたソーシャルワークの留意点 9 精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程①アウトリーチ 10 精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程②インテーク 11 精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程③アセスメント 12 精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程④援助関係の形成技法 13 精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程⑤面接技術とその応用 14 精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程⑥支援の展開(人、環境へのアプローチ) 15 精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程⑦支援の展開(ケアマネジメント) 				
授業の留意点	本科目は講義形式により開講する。				
学生に対する評価	定期試験(100点)				
教科書(購入必須)	別途周知する。				
参考書(購入任意)	別途周知する。				

科 目 名	ソーシャルワーク論Ⅷ				
担当教員名	松浦 智和 浦田 泰成				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択	資 格 要 件	精神保健福祉士：必修
実務経験及び授業内容	精神科病院で精神保健福祉士としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容				
学習到達目標	<p>①精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人と家族の関係を理解し、家族への支援方法を理解する。</p> <p>②精神医療、精神障害者福祉における多職種連携・多機関連携の方法と精神保健福祉士の役割について理解する。</p> <p>③精神保健福祉士と所属機関の関係を踏まえ、組織運営管理、組織介入・組織活動の展開に関する概念と方法について理解する。</p> <p>④個別支援からソーシャルアクションへの実践展開をマイクロ・メゾ・マクロの連続性・重層性を踏まえて理解する。</p> <p>⑤精神保健福祉分野以外における精神保健福祉士の実践展開を理解する。</p>				
授業の概要	<p>本科目は精神保健福祉士国家試験受験資格取得に関わる指定科目である。</p> <p>精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人と家族の関係を理解し、家族への支援方法を学修するとともに、精神医療、精神障害者福祉における多職種連携・多機関連携の方法や精神保健福祉士の役割について学ぶ。また、組織運営管理、組織介入・組織活動の展開に関する概念と方法や個別支援からソーシャルアクションへの実践展開をマイクロ・メゾ・マクロの連続性・重層性を踏まえて理解することをめざす。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 精神障害者家族の課題①：精神保健福祉法と家族、介護家族という社会的役割 2 精神障害者家族の課題②：精神障害に関連したケアラーのニーズケアラー・ヤングケアラー支援 3 家族理解の変遷①：家族病因論、家族ストレス対処理論 4 家族理解の変遷②：家族システム論、家族の感情表出（EE）研究 5 家族支援の方法①：家族療法的アプローチ、家族相談面接 6 家族支援の方法②：家族関係における暴力への介入（DV 被害者支援、DV 加害者プログラム） 7 家族支援の方法③：家族のリカバリー、家族のセルフヘルプグループ 8 多職種連携・多機関連携の意義と目的 9 多職種連携・多機関連携の留意点、連携における精神保健福祉士の役割 10 多職種連携・多機関連携（チームアプローチ）の実際（事例分析） 11 ソーシャルアドミニストレーションの展開方法① 12 ソーシャルアドミニストレーションの展開方法② 13 コミュニティワーク 14 個別支援からソーシャルアクションへの展開 15 個別支援からソーシャルアクションへの展開 				
授業の留意点	本科目は講義形式により開講する。				
学生に対する評価	定期試験(100点)				
教科書（購入必須）	別途周知する。				
参考書（購入任意）	別途周知する。				

科 目 名	精神保健の課題と支援 I			
担 当 教 員 名	松浦 智和			
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件 精神保健福祉士：必修
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	精神科病院で精神保健福祉士としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容			
学 習 到 達 目 標	精神の健康について基本的考え方と精神保健学の役割について理解する。 現代社会における精神保健の諸課題と、精神保健の実際及び精神保健福祉士の役割について理解する。			
授 業 の 概 要	保健・医療・福祉・労働・司法・教育等における精神保健施策を総合的に概観し、メンタルヘルスに関する最新の動向も取り入れながら、精神保健福祉士の役割やアプローチについておさえる。			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会構造の変化と新しい健康感 2 精神の健康、精神疾患、身体疾患・精神疾患に由来する障害 3 ライフサイクル、生活習慣と精神の健康 4 ストレスと精神の健康 5 精神の健康に関する心的態度、予防の考え方、精神保健活動 6 現代日本の家族の形態と機能、結婚生活と精神保健 7 育児・教育をめぐる精神保健 8 病気療養や介護をめぐる精神保健 9 社会的ひきこもり、家庭内の問題を相談する機関、精神保健福祉士の役割 10 学校教育における精神保健、生徒児童の特徴と教員の精神保健 11 労働環境と勤労者の精神保健、うつ病・過労自殺、飲酒・ギャンブル、生活習慣病 12 災害被災者、犯罪被害者の精神保健 13 ニートや貧困問題、ホームレスと精神保健 14 性同一性障害、他文化間で生じる精神保健上の問題とアプローチ 15 総括 			
授 業 の 留 意 点	生活体験や見学実習等の現場経験を通して、精神保健の実際について各分野の状況を結びつけることが出来るよう問題意識をもって授業に臨むことが望ましい。			
学 生 に 対 する 評 価	課題等（10点）の提出、定期試験（90点）により総合的に評価する。			
教 科 書 （購入必須）	別途指定する。			
参 考 書 （購入任意）				

科 目 名	精神保健の課題と支援Ⅱ				
担当教員名	浦田 泰成				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	精神保健福祉士：必修
実務経験及び授業内容	精神科病院で精神保健福祉士としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容				
学習到達目標	精神保健を維持、増進するために機能している、専門機関や関係職種の役割と連携について理解する。国際連合の精神保健活動や諸外国における精神保健の現状と対策について理解する。				
授業の概要	精神保健対策として世界的に課題となっている依存性薬物等の乱用やうつ病と自殺防止について、精神保健推進に関する障壁と支援や連携の活動について、諸外国・諸地域の事例を通して考察を深める。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 精神保健に関する対策①、アルコール問題、薬物依存対策 2 精神保健に関する対策②、うつ病と自殺防止対策 3 精神保健に関する対策③、認知症高齢者、社会的ひきこもり、災害時の精神保健 4 地域精神保健活動、関係法規とネットワークづくり 5 精神保健に関する調査・人材育成、資源開発 6 国民の精神障害観、精神保健に関する偏見・差別と施設コンフリクト 7 地域精神保健に関する行政機関の役割と連携、国、都道府県、市町村 8 精神保健に関する専門職種（保健師等）の役割と連携 9 精神保健に関する法規 10 精神保健に関連する学会・啓発団体、自助団体等 11 諸外国の精神保健活動の現状と対策 12 WHO などの国際機関の活動 13 世界の精神保健医療の状況、疫学 14 精神保健福祉士の役割と予防・啓発活動 15 総括 				
授業の留意点	生活体験や見学実習等の現場経験を通して、精神保健の実際について各分野の状況を結びつけることが出来るよう問題意識をもって授業に臨むことが望ましい。				
学生に対する評価	課題等（10点）の提出、定期試験（90点）により総合的に評価する。				
教科書（購入必須）	別途指定する。				
参考書（購入任意）					

科 目 名	ソーシャルワーク演習VI				
担当教員名	松浦智和・浦田泰成				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	精神保健福祉士：必修
実務経験及び授業内容	精神科病院で精神保健福祉士としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容				
学習到達目標	<p>①精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎を獲得する。</p> <p>②精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようになる。</p>				
授業の概要	個別指導・集団指導を通して、精神保健ソーシャルワークの事例（集団に対する事例を含む。）をソーシャルワーク実習Ⅲの事前学習として深める。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、ソーシャルワーク演習の意義と構成 2 精神保健ソーシャルワークの領域① 3 精神保健ソーシャルワークの領域② 4 精神保健ソーシャルワークの領域③ 5 精神保健ソーシャルワークが対象とする諸課題① 6 精神保健ソーシャルワークが対象とする諸課題② 7 精神保健ソーシャルワークが対象とする諸課題③ 8 精神保健ソーシャルワークに関わる制度とサービス① 9 精神保健ソーシャルワークに関わる制度とサービス② 10 精神保健ソーシャルワークに関わる制度とサービス③ 11 精神保健ソーシャルワークに関わる援助技術① 12 精神保健ソーシャルワークに関わる援助技術② 13 精神保健ソーシャルワークに関わる援助技術③ 14 事例検討の意義と方法① 15 事例検討の意義と方法② 				
授業の留意点	ソーシャルワーク演習VIは、ソーシャルワーク実習指導Ⅲ及びソーシャルワーク実習指導IV、ソーシャルワーク実習Ⅲと深く関連することに留意する。				
学生に対する評価	課題の提出（70点）、実践的課題への主体的能動的取組姿勢（30点）を総合的に評価する。				
教科書（購入必須）	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編．最新 精神保健福祉士養成講座 7 ソーシャルワーク演習[精神専門]．中央法規				
参考書（購入任意）					

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅶ				
担当教員名	松浦 智和 浦田 泰成				
学年配当	3年	単位数	2単位	開講形態	演習
開講時期	後期	必修選択	選択	資格要件	精神保健福祉士：必修
実務経験及び授業内容	精神科病院で精神保健福祉士としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容				
学習到達目標	<p>①精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎を獲得する。</p> <p>②精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようになる。 ③精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種</p> <p>の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えるようになる。</p> <p>④精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるようになる。 ⑤精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義を理解できる。</p>				
授業の概要	<p>本科目は精神保健福祉士国家試験受験資格取得に関わる指定科目である。本科目はソーシャルワーク実習Ⅲを行う前に学習を開始し、十分な学習を進める。なお、本科目はソーシャルワーク演習Ⅵと一体的に学修することが必要となる。以下に示す①領域、②課題、③法制度・サービス、④援助技術について、ソーシャルワーク演習Ⅵでの学びをベースに、精神保健福祉援助の事例（集団に対する事例を含む）を活用し、精神保健福祉士としての実際の思考と援助の過程における行為を想定し、精神保健福祉の課題を捉え、その解決に向けた総合的かつ包括的な援助について実践的に習得することを意図し演習を展開する。取り上げるすべての事例において、精神保健福祉士に共通する原理として「社会的復権と権利擁護」「自己決定」「当事者主体」「社会正義」「ごく当たり前の生活」を実践的に考察する。</p> <p>①領域：医療機関、障害福祉サービス事業所、行政機関・社会福祉協議会等 ②課題：社会的排除、社会的孤立、受診・受療、課題発見、退院支援、地域移行支援、地域生活支援、自殺対策等 ③法制度・サービス：精神保健及び精神障害者福祉に関する法律、障害者総合支援法、医療観察法、生活保護制度、介護保険法、児童福祉法等 ④援助技術：ソーシャルワークの過程を通じた援助（ケースの発見、インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、支援の終結と事後評価、アフターケア）、個別面接、グループワーク等</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 事例検討；医療機関における精神保健ソーシャルワークの課題、法制度、支援の実際①：入院病棟における事例 事例検討；医療機関における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際②：外来における事例 事例検討；医療機関における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際③：訪問、デイ・ケアにおける事例 事例検討；医療機関における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際④：精神科以外の医療機関における事例 事例検討；障害福祉サービス事業所における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際①：相談支援における事例 事例検討；障害福祉サービス事業所における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際②：就労支援における事例 事例検討；障害福祉サービス事業所における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際③：生活訓練における事例 事例検討；障害福祉サービス事業所における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際④：地域移行支援、地域定着支援、自立生活援助、地域生活支援等における事例 事例検討；行政機関における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際①：精神保健福祉センター、保健所 事例検討；行政機関における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際②：市町村 事例検討；行政機関における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際③：ハローワーク、その他 事例検討；社会福祉協議会における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際①：生活困窮における事例 事例検討；社会福祉協議会における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際②：地域づくりにおける事例 事例検討；社会福祉協議会における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際③：権利擁護における事例 まとめ、事例検討の意義 				
授業の留意点	本科目は演習形式で開講する。				
学生に対する評価	<p>①講義内で作成するレポート等の成果物：50点</p> <p>②講義内でのプレゼンテーション等の状況：50点</p>				
教科書（購入必須）	テキストについては別途周知する。				
参考書（購入任意）	参考書については別途周知する。				

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅷ		
担当教員名	松浦 智和 浦田 泰成		
学年配当	4年	単位数	2単位
開講時期	前期	必修選択	選択
開講形態	演習		
資格要件	精神保健福祉士：必修		
実務経験及び授業内容	精神科病院で精神保健福祉士としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容		
学習到達目標	<p>①精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎を獲得する。②精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようになる。③精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネーター役を担えるようになる。④精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるようになる。⑤精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義を理解できる。</p>		
授業の概要	<p>本科目は精神保健福祉士国家試験受験資格取得に関わる指定科目である。本科目はソーシャルワーク実習Ⅲを行う前に学習を開始し、十分な学習を進める。なお、本科目はソーシャルワーク演習Ⅵ・Ⅶと一体的に学修することが必要となる。以下に示す①領域、②課題、③法制度・サービス、④援助技術について、ソーシャルワーク演習Ⅵでの学びをベースに、精神保健福祉援助の事例（集団に対する事例を含む）を活用し、精神保健福祉士としての実際の思考と援助の過程における行為を想定し、精神保健福祉の課題を捉え、その解決に向けた総合的かつ包括的な援助について実践的に習得することを意図し演習を展開する。取り上げるすべての事例において、精神保健福祉士に共通する原理として「社会的復権と権利擁護」「自己決定」「当事者主体」「社会正義」「ごく当たり前の生活」を実践的に考察する。</p> <p>①領域：高齢者福祉施設、教育機関（学校、教育委員会）、司法、産業・労働、児童等 ②課題：社会的排除、社会的孤立、受診・受療、課題発見、退院支援、地域移行支援、地域生活支援、自殺対策等 ③法制度・サービス：精神保健及び精神障害者福祉に関する法律、障害者総合支援法、医療観察法、生活保護制度、介護保険法、児童福祉法等 ④援助技術：ソーシャルワークの過程を通じた援助（ケースの発見、インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、支援の終結と事後評価、アフターケア）、個別面接、グループワーク等</p>		
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 事例検討：高齢者福祉施設における精神保健ソーシャルワークの課題、法制度、支援の実際①地域包括支援センターにおける事例 事例検討：高齢者福祉施設における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際②；介護療養型施設における事例 事例検討：高齢者福祉施設における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際③；生活施設における事例 事例検討：教育機関における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際①；小学校・中学校、教育委員会における事例 事例検討：教育機関における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際②；高校、大学等における事例 事例検討：司法における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際①刑務所における事例 事例検討：司法における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際②矯正施設、保護観察所における事例 事例検討：産業・労働領域における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際①；企業における事例 事例検討：産業・労働領域における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際②；EAP 事例検討：児童領域における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際①；児童相談所における事例 事例検討：児童領域における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際②；児童養護施設等における事例 事例検討：合議体と精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際①；退院支援委員会、精神医療審査会 事例検討：合議体と精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際②；障害支援区分認定審査会、自立支援協議会、契約締結審査会、医療観察法審判期日等 事例検討：独立型による精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際 まとめ、事例検討の意義 		
授業の留意点	本科目は演習形式で開講する。		
学生に対する評価	<ol style="list-style-type: none"> 講義内で作成するレポート等の成果物：50点 講義内でのプレゼンテーション等の状況：50点 		
教科書（購入必須）	テキストについては別途周知する。		
参考書（購入任意）	参考書については別途周知する。		

科 目 名	ソーシャルワーク実習 I				
担 当 教 員 名	社会福祉学科教員				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	社会福祉士・教職（高福）：必修
実務経験及び授業内容	社会福祉領域の実践現場において実践経験を有する実習指導者（社会福祉士）がソーシャルワーク実践について指導を行う。また、社会福祉領域の実践現場における実践経験を有する教員が、週 1 回巡回指導もしくは帰校日指導を行う。				
学習到達目標	<p>①ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための基本的な実践能力を養う。</p> <p>②支援を必要とする人や地域の状況を理解するための具体的な関わり技法を習得する。</p> <p>③施設・機関等が地域社会の中で果たす役割を実践的に理解する。</p> <p>④施設・機関等の管理運営の実際を理解する。</p>				
授業の概要	ソーシャルワーカーとしての基本的な実践能力を養うため、これまで学んできたソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を、実習現場を通して行います。実習時間は 60 時間以上(8 日程度)を基本として実施します。ソーシャルワーク実習 I での学びや課題を踏まえ、次年度以降のソーシャルワーク実習 II に臨んでいきます。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション(実習目的と今後の予定について) 2 社会福祉機関・施設実習(60 時間以上・8 日間程度)において、主に以下のことを習得していきます。 <ul style="list-style-type: none"> ・利用者やその関係者（家族・親族、友人等）、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成 ・利用者やその関係者（家族・親族、友人等）との援助関係の形成 ・当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけ ・施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際 				
授業の留意点	<p>これまで学んだ専門的知識や技術等を実際に活用・実践し、ソーシャルワーク実践に必要な基本的な資質や能力を習得します。これまでの理論を体系化していくための実習体験や、実習担当教員や実習指導者とのスーパービジョンでは、積極的な参加が求められます。</p> <p>なお、ソーシャルワーク実習 II およびソーシャルワーク実習指導 II を履修するためには、ソーシャルワーク実習 I およびソーシャルワーク実習指導 I の前年度までの単位修得が必要となります。ソーシャルワーク実習 I の履修要件は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原則として 2 年次の前期終了時点において、当該年度の進級判定時における進級の要件を満たす可能性が十分に見込まれること。 				
学生に対する評価	実習指導者の評価を参考に、実習担当教員が総合的に判断し評価します。詳細はソーシャルワーク実習指導 I 内で提示します。				
教科書（購入必須）	「ソーシャルワーク実習ハンドブック」（本学科実習委員会作成）を中心に使用します。その他、必要に応じて資料を配布します。				
参考書（購入任意）	なし				

科 目 名	ソーシャルワーク実習Ⅱ				
担 当 教 員 名	佐藤(み)・高阪・永嶋・堀・江連・小泉・嘉村				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	4 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	社会福祉士：必修
実務経験及び授業内容	社会福祉領域の実践現場において実践経験を有する実習指導者(社会福祉士)がソーシャルワーク実践について指導を行う。また、社会福祉領域の実践現場における実践経験を有する教員が、週1回巡回指導もしくは帰校日指導を行う。				
学習到達目標	<p>①ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養う。</p> <p>②支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題(ニーズ)について把握する。</p> <p>③生活上の課題(ニーズ)に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成、実施及びその評価を行う。</p> <p>④総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。</p>				
授業の概要	ソーシャルワーカーとしての高い実践能力を養うため、これまで学んできたソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を、実習現場を通してさらに深めていきます。実習時間は180時間以上(23日以上)を基本として実施します。				
授業の計画	<p>これまで培ったソーシャルワークの知識、技術、倫理等を、社会福祉現場で実践的、総合的に活用し、自らの到達度を分析するとともに、今後の課題を明確にしていきます。</p> <p>指定された社会福祉施設及び機関において、以下のことを習得していきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題(ニーズ)の把握、支援計画の作成と実施及び評価 ・多職種連携及びチームアプローチの実践的理解 ・利用者やその関係者(家族・親族、友人等)への権利擁護活動とその評価 ・地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解 ・社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任の理解 ・ソーシャルワーク実践に求められる以下の技術の実践的理解 アウトリーチ・ネットワークキング・コーディネート・ネゴシエーション・ファシリテーション・プレゼンテーション・ソーシャルアクション 				
授業の留意点	<p>これまで学んだ専門的知識や技術等を実際に活用・実践し、ソーシャルワーク実践に必要な資質や能力を習得します。これまでの理論を体系化していくための実習体験や、実習担当教員や実習指導者とのスーパービジョンでは、積極的な参加が求められます。なお、実習期間中は実習先の実習指導者からの指導を主に受けるほか、ソーシャルワーク実習指導Ⅱと連動して、実習担当教員からの訪問指導または帰校日を概ね週1回受けることとなります。</p> <p>ソーシャルワーク実習Ⅱの履修要件は以下の通りとなる。</p> <p>①社会福祉原論Ⅰ・Ⅱ、地域福祉論Ⅰ・Ⅱの単位を修得していること。</p> <p>②ソーシャルワーク実習Ⅰの単位を修得していること。</p> <p>③ソーシャルワーク演習Ⅰ～Ⅳまでの単位をすべて修得していること。</p> <p>※ただし、編入生は①～③の条件は適用されない。</p>				
学生に対する評価	実習指導者の評価を参考に、実習担当教員が総合的に判断し評価します。詳細はソーシャルワーク実習指導Ⅱ内で提示します。				
教科書(購入必須)	「ソーシャルワーク実習ハンドブック」(本学科実習委員会作成)を中心に使用します。その他、必要に応じて資料を配布します。				
参考書(購入任意)	なし				

科 目 名	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ				
担 当 教 員 名	松浦智和・浦田泰成				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	精神保健福祉士：必修
実務経験及び授業内容	精神科病院で精神保健福祉士としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容				
学習到達目標	<p>①ソーシャルワーク実習の意義について理解する。</p> <p>②精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。</p> <p>③ソーシャルワーク（精神保健福祉士）実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得する。</p> <p>④精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。</p>				
授業の概要	個別指導、集団指導を通してソーシャルワーク実習Ⅲの事前学習を行う。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ソーシャルワーク実習とソーシャルワーク実習指導における個別指導及び集団指導の意義① 2 ソーシャルワーク実習とソーシャルワーク実習指導における個別指導及び集団指導の意義② 3 精神保健医療福祉の現状① 4 精神保健医療福祉の現状② 5 実習施設の理解①；施設見学(医療機関) 6 実習施設の理解②；施設見学(医療機関) 7 実習施設の理解③；施設見学(障害福祉サービス事業所) 8 実習施設の理解④；施設見学(障害福祉サービス事業所) 9 当事者による講話① 10 当事者による講話② 11 精神保健福祉士としてのソーシャルワークに係る専門的知識・技術① 12 精神保健福祉士としてのソーシャルワークに係る専門的知識・技術② 13 精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解① 14 精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責任に関する理解② 15 まとめ 				
授業の留意点	「本学社会福祉学科実習指導要項」「実習日誌」を活用する。				
学生に対する評価	課題の提出・主体的な実習計画の準備と連絡・報告・相談の姿勢を総合的に評価する。				
教科書 (購入必須)	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編. 最新 精神保健福祉士養成講座 8 ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習[精神専門]. 中央法規				
参考書 (購入任意)					

科 目 名	ソーシャルワーク実習指導Ⅳ				
担 当 教 員 名	松浦智和・浦田泰成				
学 年 配 当	4年	単 位 数	4単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	精神保健福祉士：必修
実務経験及び授業内容	精神科病院で精神保健福祉士としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容				
学習到達目標	①ソーシャルワーク実習の意義について理解する。 ②精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。 ③ソーシャルワーク（精神保健福祉士）実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。 ④精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ⑤具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。				
授業の概要	個別指導、集団指導を通してソーシャルワーク実習Ⅲの事前・事後学習を行う。				
授業の計画	1 オリエンテーション 2 事前学習の概要 3 実習計画書の概要① 4 実習計画書の概要② 5 実習におけるジレンマ事例 6 実習におけるスーパービジョン事例 7 職業倫理と法的責任(実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解等) 8 面接技術、アセスメント 9 個別支援計画 10 精神保健福祉士の業務と役割①；外部講師 11 精神保健福祉士の業務と役割②；外部講師 12 実習指導者との面談(実習打ち合わせ会における学生・実習指導者・教員の三者による実習計画作成・見直し) 13 事前学習報告会 14 確認学修、実習記録の内容・作成方法 15 まとめ、必要書類の作成	16 オリエンテーション 17 実習の振り返り 18 ジレンマ体験 19 スーパービジョン体験 20 実習報告会準備 21 実習報告会資料作成と発表会① 22 実習報告会資料作成と発表会② 23 実習報告会① 24 実習報告会② 25 実習報告書の作成① 26 実習報告書の作成② 27 ケース研究レポートの作成① 28 ケース研究レポートの作成② 29 実習報告書・ケース研究レポート報告会① 30 実習報告書・ケース研究レポート報告会②、まとめ			
授業の留意点	「本学社会福祉学科実習指導要項」「実習日誌」「実習評価」等の実習記録を活用する。				
学生に対する評価	実習報告書の内容及び実習報告会におけるプレゼンテーション、その他の提出物等、実習前後の授業を通して総合的に評価する。				
教科書（購入必須）	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編. 最新 精神保健福祉士養成講座 8 ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習[精神専門]. 中央法規				
参考書（購入任意）					

科 目 名	ソーシャルワーク実習Ⅲ				
担 当 教 員 名	松浦智和・浦田泰成				
学 年 配 当	4年	単 位 数	5単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	精神保健福祉士：必修
実務経験及び授業内容	精神科病院で精神保健福祉士としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容				
学 習 到 達 目 標	<p>①ソーシャルワーク実習を通して、精神保健福祉士としてのソーシャルに係る専門的知識と技術の理解に基づき精神保健福祉現場での試行と省察の反復により実践的な技術等を体得する。</p> <p>②精神疾患や精神障害、メンタルヘルスの課題をもつ人びとのおかれている現状に関する知識をもとに、その生活実態や生活上の課題についてソーシャルワーク実習を行う実習先において調査し具体的に把握する。</p> <p>③実習指導者からのスーパービジョンを受け、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。</p> <p>④総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。</p>				
授 業 の 概 要	実習体験と考察を記録し、実習指導者によるスーパービジョンと、ソーシャルワーク実習指導担当教員による巡回指導及び帰校日指導等を通して、実習事項について個別指導や集団指導を受ける。				
授 業 の 計 画	<p>① 精神科医療機関や精神科診療所等における配属実習(105時間以上)</p> <p>② 障害福祉サービス事業所等における配属実習(105時間以上)</p> <p>③ 上記両実習に共通の事項</p>				
授 業 の 留 意 点	精神保健福祉士の倫理綱領を実習の基本姿勢においたうえで、実習生として現場に臨む。				
学 生 に 対 す る 評 価	実習指導者の評価及び実習日誌、その他の課題等を総合的に評価する。				
教 科 書 (購入必須)					
参 考 書 (購入任意)					

科 目 名	障害児の病理と心理 I				
担 当 教 員 名	玉重 詠子				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	教職(特支)：必修
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	言語聴覚士として病院での臨床を経験し、児童相談所・特別支援教育センター・特別支援学校との連携を経験した教員が、様々な障害種別に共通して現れる言語障害を中心に言語病理学的視点から障害のアセスメントについて移動する科目である。				
学 習 到 達 目 標	<p>障害児に共通して現れる言語に関わる障害に関連して、本講義の学習到達目標を以下の3点とする。</p> <p>(1)言語発達の阻害要因を説明できる。</p> <p>(2)言語障害に関わる代表的な検査について説明できる。</p> <p>(3)障害種別による言語発達の支援目標の違いを説明できる。</p>				
授 業 の 概 要	特別支援教育の対象には、ことばの遅れや発音の不明瞭さのある児童・生徒が多くみられる。本講義では、構音障害と言語発達遅滞の評価と支援の基礎について学ぶ。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 言語にかかわる障害の種類 2 音韻の産生 3 構音の発達と構音障害 4 構音検査1 検査の概要 5 構音検査2 結果のまとめと解釈 6 構音指導(事例) 7 言語の発達 語彙・文法の獲得 8 言語の発達 コミュニケーションの発達 9 言語発達の阻害要因 言語発達評価の基本的な流れ 10 語彙発達の評価 絵画語い発達検査(PVT-R)の概要 11 語彙発達の評価 絵画語い発達検査(PVT-R)の結果の集計 12 言語発達の評価 国リハ式<S-S法>言語発達遅滞検査の概要 13 言語発達の評価 国リハ式<S-S法>言語発達遅滞検査の発達段階(段階1～2) 14 言語発達の評価 国リハ式<S-S法>言語発達遅滞検査の発達段階(段階3～5) 15 言語発達遅滞児の支援 国リハ式<S-S法>言語発達遅滞検査の結果の読み取りと支援計画の作成 				
授 業 の 留 意 点	<p>自らの構音の仕方を内省し、児童への構音指導をイメージすることが望ましい。また、語彙の獲得についての経験を思い出し、効率的な語彙獲得を考察してほしい。自分の考えを根拠をもって他者へ伝えられるように努力してほしい。</p> <p>本科目では、3つの検査法を提示しながら進めていく。それぞれの検査法について復習し、まとめておくことが望ましい。</p> <p>受講者の関心や理解のようす、状況等の変化によって順番を変更することがある。</p> <p>遠隔授業での実施を予定しているが、状況によっては変更する可能性がある。</p>				
学 生 対 する 評 価	授業内課題40点、定期試験60点により評価する。 ※状況により、定期試験を成績評価レポートに変更する可能性がある。				
教 科 書 (購 入 必 須)	テキストは使用せず、プリントを参考資料として配布する。				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	障害児の病理と心理Ⅱ				
担 当 教 員 名	玉重詠子・糸田尚史				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	教職(特支)：必修
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	言語聴覚士として病院での臨床を経験し、児童相談所・特別支援教育センター・特別支援学校との連携を経験した教員が、障害児の支援法について指導する科目かつ、心理測定の活用は、児童相談所・更生相談所にて判定員として経験のある教員が担当する。				
学 習 到 達 目 標	<p>障害児に共通して現れる言語に関わる課題への支援について、以下の3点を学習する。</p> <p>(1)言語発達の阻害要因を理解し、支援に応用できる。</p> <p>(2)障害の特性(知的障害・自閉症スペクトラム)を理解し、説明できる。</p> <p>(3)知的障害の評価方法を説明できる。</p> <p>(4)言語発達検査の結果を解釈し、言語発達段階に応じた支援計画を作成できる。</p>				
授 業 の 概 要	特別支援教育の対象には、ことばの遅れや発音の不明瞭さのある児童・生徒が多くみられる。本講義では、個々の障害特性を理解した上での言語発達障害への具体的な支援方法について学ぶ。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 言語発達の阻害要因 2 自閉症1 自閉症児の言語行動 3 自閉症2 自閉症児の言語指導 4 知能研究の歴史 5 知的障害の評価1 京都式知能(発達)検査(新版K式発達検査2001 新版K式発達検査2020) 6 知的障害の評価2 ビネー式知能検査(田中ビネー知能検査V 改訂版鈴木ビネー検査) 7 知的障害の評価3 ウェクスラー式知能検査(WPPSI WPPSI-III WISC-III) 8 知的障害の評価4 ウェクスラー式知能検査(WISC-IV WAIS-III WAIS-IV) 9 知的障害の評価5 知能検査のまとめ 10 国リハ式<S-S法>言語発達遅滞検査の復習 11 言語発達遅滞児の支援1 指導事例を考える 12 言語発達遅滞児の支援2 指導事例について検討する 13 言語発達遅滞児の支援3 指導内容を考える 14 言語発達遅滞児の支援4 文字の指導 語彙の拡大 15 まとめ 				
授 業 の 留 意 点	<p>特別支援学校教諭免許に関わる講義であるため、障害児教育実習を念頭において理解を深めることが望ましい。「障害児の病理と心理Ⅰ」で学習した国リハ式<S-S法>言語発達遅滞検査を復習し、本講義で学習する認知機能検査の内容と関連付けた論理的な支援内容・方法を積極的に考えてほしい。</p> <p>受講者の関心や理解のようす、状況等の変化により順番を変更することがある。</p> <p>遠隔授業での実施を予定しているが、状況によっては変更する可能性がある。</p>				
学 生 対 する 評 価	講義内課題40点、定期試験60点 ※状況により、定期試験を成績評価レポートに変更する可能性がある。				
教 科 書 (購 入 必 須)	テキストは使用せず、プリントを参考資料として配付する。				
参 考 書 (購 入 任 意)	東田直樹(著) 『自閉症の僕が跳びはねる理由』 角川文庫 小山充道(編)・糸田尚史ほか(著) 『必携 臨床心理アセスメント』 金剛出版				

科 目 名	教育実習				
担 当 教 員 名	石川 貴彦・大坂 祐二・小西 二郎				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	実 習
開 講 時 期	前 期	必 修 選 択	教 職 (高 公 ・ 高 福) : 必 修	資 格 要 件	教 職 (高 公 ・ 高 福) : 必 修
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	各学校での教育実習を通じて、現場の実習指導者の指導のもと、教育の実際を学び、確実な学級経営や授業などの教育実践ができる力を身につける。特に、観察実習を中心に、教科指導力の向上を図る。				
学 習 到 達 目 標	高等学校において、①大学で学んだ知識や理論、技術を具体的に展開できる、②授業や生徒指導の中に知識等を結びつけて、生き生きとした教育を展開できる、③教育実習を通じて、自己の教員としての適性や能力を発見したり、判断したりできることを、実習の到達目標とする。				
授 業 の 概 要	教育実習（高等学校） 高等学校の教員免許を取得する者は、高等学校において 2 週間の教育実習が必要である。教育実習事前指導を受けた後、教育現場での実習に臨む。また、研究授業については、道内の実習校に限り、教職担当教員が訪問し直接指導を行う。				
授 業 の 計 画	1 教育実習（第 1 週） 実習校のプログラムによるが、概ね以下のような内容になる。 着任式、講話、学級経営、教材研究、授業観察 等 2 教育実習（第 2 週） 学級経営、教材研究、授業実習、研究授業、離任式 等				
授 業 の 留 意 点	教育実習途中での履修放棄は絶対にしないこと。あらゆる場面に直面しても、最後まで責任を持って実習をやり通すこと。				
学 生 に 対 す る 評 価	各実習校において取組を総合的に評価し、その結果を踏まえて教職担当教員が最終的に評価する。				
教 科 書 (購 入 必 須)	使用する教科書等については、実習校および実習教科により異なるので、事前訪問や連絡を通じて、各自準備しておくこと。				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科目名	知的障害心理・生理・病理				
担当教員名	玉重 詠子 ・ 糸田 尚史				
学年配当	3年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	後期	必修選択	教職(特支)：必修	資格要件	教職(特支)：必修
実務経験及び授業内容	言語聴覚士として病院での臨床を経験し、児童相談所・特別支援教育センター・特別支援学校との連携を経験した教員が、知的障害の病理と心理アセスメントについて指導する科目かつ、心理検査の実際について、更生相談所および児童相談所にて知的障害児者の心理判定に携わった教員が担当する。				
学習到達目標	<p>本講義の学習到達目標を以下の3点とする。</p> <p>(1) 知的障害の目安の基準を説明できる。</p> <p>(2) 知的障害のアセスメントの方法を説明できる。</p> <p>(3) アセスメントに基づいた知的障害の特徴を理解し、知的障害教育の意義を考え、説明できる。</p>				
授業の概要	特別支援教育の対象である知的障害について学習する。知的障害教育の意義を考察した上で、知的障害の診断基準とアセスメント方法について学習する。特別支援学校での指導実践例に触れ、知的障害教育の意義を再考する。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 知的障害とは 2 知的障害の目安の基準 知的障害の原因 3 発達の生理的基礎 (中枢神経系の構造と機能) 4 ダウン症候群 知的障害教育の意義 5 知的障害のアセスメント1 ビネー式知能検査 (田中ビネーV 改訂版鈴木ビネー) の復習 6 知的障害のアセスメント2 ウェクスラー式知能検査 (WPPSI-III WISC-IV WAIS-IV) の復習 7 知的障害のアセスメント3 カウフマン式認知検査 (K-ABC 心理・教育アセスメントバッテリー KABC-II) 8 知的障害のアセスメント4 DN-CAS 認知評価システム 9 知的障害のアセスメント5 改訂版 I T P A 言語学習能力診断検査 10 知的障害のアセスメント6 発達検査 (遠城寺式乳幼児分析的発達診断検査) 11 知的障害のアセスメント7 発達検査 (新版 K 式発達検査 2001 新版 K 式発達検査 2020) 12 知的障害のアセスメント8 適応能力の検査 (S-M 社会生活能力検査第3版) 13 知的障害のアセスメント9 認知機能評価のまとめ 14 知的障害児の言語発達と支援 特別支援学校での実践例 15 まとめ 				
授業の留意点	<p>特別支援学校教諭免許に関わる講義であるため、知的障害教育を念頭に置いて理解を深めることが望ましい。教育実習の準備として、学習する検査法それぞれについてまとめておくことが望ましい。</p> <p>受講者の関心や理解のようす、状況等の変化によって順番を変更することがある。</p> <p>遠隔授業での実施を予定しているが、状況によっては変更する可能性がある。</p>				
学生に対する評価	講義内課題 (30 点)、定期試験 (70 点) により評価する。 ※状況により、定期試験を成績評価レポートに変更する可能性がある。				
教科書 (購入必須)	テキストは使用せず、プリントを参考資料として配布する。				
参考書 (購入任意)	向後利明 (監修) 『知的障害の子どものできることを伸ばそう!』 日東書院 小山充道 (編)・糸田尚史ほか (著) 『必携 臨床心理アセスメント』 金剛出版				

科 目 名	肢体不自由心理・生理・病理				
担 当 教 員 名	中澤 幸子				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	教職(特支)：必修	資 格 要 件	教職(特支)：必修
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	特別支援学校での教諭としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容				
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 肢体不自由による発達への影響について理解を図る。 ・ 肢体不自由者の心理・生理・病理に関連する障害特性を理解し、当事者や家族への支援方法について考えることができる。 				
授 業 の 概 要	人間の身体の仕組み、運動発達を理解したうえで、肢体不自由が発達に与える影響について学びます。また、肢体不自由教育で会うことの多い疾患の特性について、解剖学的、生理学的、心理学的観点から学び、当事者及び家族への支援について学習します。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション / 肢体不自由とは 2 人間の身体の仕組み 3 運動の発達 4 肢体不自由が発達に与える影響 5 肢体不自由者の障害特性 6 脳性まひの理解 7 二分脊椎の理解 8 筋ジストロフィーの理解 9 ペルテス病・骨系統疾患の理解 10 手足の先天奇形・関節拘縮症の理解 11 ダウン症整形外科的合併症・先天性股関節脱臼の理解 12 肢体不自由者のリハビリテーション 13 肢体不自由者のスポーツ 14 肢体不自由者と家族の支援 15 まとめ / 肢体不自由者を支援する際に大切なこととは 				
授 業 の 留 意 点	特別支援学校教員免許にかかわる講義であり、免許取得希望者は履修すること。				
学 生 対 する 評 価	授業の振り返りシート及び課題の取組状況（50点）、レポート（50点）等で総合的に評価します。				
教 科 書 (購 入 必 須)	肢体不自由児の医療・療育・教育 金芳堂 ISBN 978-4-7653-1628-6 その他、適宜、資料・視聴覚教材を使用します。				
参 考 書 (購 入 任 意)	講義内で紹介します。				

科 目 名	病弱心理・生理・病理				
担 当 教 員 名	中澤 幸子・下村 遼太郎				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	教職(特支)：必修	資 格 要 件	教職(特支)：必修
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	特別支援学校での教諭としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容				
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・病気の子どもの心理・生理・病理について理解する。 ・具体的な事象や事例から病弱者・障害者の心理特性・行動背景を理解し、当事者や家族への支援方法について考えることができる。 				
授 業 の 概 要	病弱教育が対象とする子どもに多くみられる疾患の生理・病理、病気の子どもや家族の心理的特性と求められる心理的支援・配慮等について学び、考察します。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション / 授業の進め方等 2 健康、病気、障害の概念 3 小児期の慢性疾患Ⅰ（ぜんそく・アレルギー等） 4 小児期の慢性疾患Ⅱ（腎臓病・心臓病等） 5 小児期の慢性疾患Ⅲ（糖尿病等） 6 悪性腫瘍（小児ガン、脳腫瘍等） 7 進行性筋ジストロフィー 8 てんかん、血友病、その他の疾患 9 心身症・精神疾患 10 病気・障害の受容とセルフケア 11 病弱者・障害者の心理的特性 12 病弱者・障害者と家族の支援 13 教育・医療・保健・福祉等多職種による連携 14 病弱者の支援における今日的課題 15 まとめ / 病弱者の支援で大切なこと 				
授 業 の 留 意 点	特別支援学校教員免許取得に関わる講義であることから、他の障害（知的障害、肢体不自由、視覚障害、聴覚障害、発達障害、等）についても理解を深めるておくことが望ましい。 3～9 下村遼太郎 担当授業 / 1～2, 10～15 中澤幸子 担当授業				
学 生 に 対 す る 価 値	授業振り返りシート及び課題への取り組み状況（50点）、レポート（50点）。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	適宜、資料を配布、もしくは視聴覚教材を使用する予定です。				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	講義で紹介します。				

科 目 名	肢体不自由者教育課程論				
担当教員名	中澤 幸子				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	教職(特支)：必修	資 格 要 件	教職(特支)：必修
実務経験及び授業内容	特別支援学校での教諭としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容				
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 肢体不自由児教育の歴史の変遷を知る。 ・ 肢体不自由児教育の主な対象児の障害特性や配慮事項等を理解する。 ・ 肢体不自由教育の教育内容・方法を学び、教育課程の基本について理解する。 ・ 肢体不自由教育の授業づくりの基本的視点を理解する。 ・ 肢体不自由教育に必要な専門性について、自分なりの考えをまとめ、説明することができる 				
授業の概要	肢体不自由教育の歴史、肢体不自由教育の制度、教育的意義について理解を図ります。また、肢体不自由児教育の対象である障害の基礎的特性について学ぶとともに、肢体不自由教育の教育課程、指導方法、配慮事項等についても、実践例等を通して学びます。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション / 肢体不自由の定義 2 肢体不自由教育の歴史と現状 3 肢体不自由教育の制度と肢体不自由教育 4 肢体不自由教育の教育課程（教育課程編成の特徴） 5 肢体不自由教育におけるアセスメントと個別教育計画の作成 6 肢体不自由教育の内容と指導法① 自立活動 7 肢体不自由教育の内容と指導法② 身体の動き 8 肢体不自由教育の内容と指導法③ コミュニケーションの指導 9 肢体不自由教育の内容と指導法④ 各教科の指導 10 肢体不自由教育の内容と指導法⑤ 体育等の指導 11 肢体不自由教育の内容と指導法⑥ キャリア教育 12 重度・重複障害児の理解と指導法① 特性と配慮 13 重度・重複障害児の理解と指導法② 指導計画と実際の指導 14 肢体不自由教育における今後の課題 15 まとめ / 肢体不自由教育における専門性 				
授業の留意点	特別支援学校教員免許取得に関わる講義です。他の障害（知的障害、病弱、視覚障害、聴覚障害、軽度発達障害等）の教育課程、指導法等についても理解を深めておいてください。				
学生に対する評価	振り返りレポート及び課題の取組状況（50点）、レポート（50点）等で総合的に評価します。				
教科書（購入必須）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別支援学校幼稚部教育要領小学部・中学部学習指導要領 ・ 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編（幼稚部・小学部・中学部） ・ 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部） ・ 特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部） ・ 特別支援学校高等部学習指導要領 ・ 特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（高等部） その他：適宜、資料及び視聴覚教材を提示します。				
参考書（購入任意）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 杉野学 特別支援教育概論 大学図書出版 9784909655080（ISBN） その他、講義内で適宜紹介します。				

科 目 名	肢体不自由教育演習				
担 当 教 員 名	中澤 幸子				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	教職(特支)：必修	資 格 要 件	教職(特支)：必修
実務経験及び授業内容	特別支援学校での教諭としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容				
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 肢体不自由教育の現状の課題について問題意識をもつことができる。 ・ 特別支援学校（肢体不自由）の学習指導要領や個別の教育支援計画・個別の指導計画について理解し、幼児児童生徒の実態に合わせた授業づくりができる。 ・ 肢体不自由の幼児児童生徒を想定し、学習指導案を作成し、模擬授業を実施することができる。 				
授業の概要	<p>肢体不自由教育の現状について文献研究を行い、問題意識を高めます。そのうえで、学習指導要領とともに特別支援学校の授業づくりの根拠となる「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」について、さらに特別支援学校（肢体不自由）の教育課程の中核にある「自立活動」との関係を学びます。そして、学習指導案の作成方法を学び、模擬授業と授業研究について体験的に学びます。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション / 授業の進め方 2 肢体不自由教育に関する文献検索の方法と実際 3 肢体不自由教育に関する文献検索の報告 4 肢体不自由教育に関する文献研究レポートのまとめ方及び課題設定 5 肢体不自由教育に関する文献研究の実際① 文献検索及び文献研究課題レポートの作成 6 肢体不自由教育に関する文献研究の実際② 発表資料の作成 7 肢体不自由教育に関する文献研究の実際③ 文献研究課題レポートの報告 8 学習指導要領の理解① 肢体不自由の教育課程について 9 学習指導要領の理解② 自立活動の目標及び内容について 10 学習指導要領の理解③ 個別の教育支援計画、個別の指導計画との関係 11 学習指導案の作成方法 12 学習指導案の作成と模擬授業の準備 13 模擬授業演習①（振り返り、評価） 14 模擬授業演習②（振り返り、評価） 15 まとめ 				
授業の留意点	特別支援学校教員免許に関わる講義です。他の障害（知的障害、病弱、聴覚障害、視覚障害、発達障害等）の教育課程・指導法についても理解を深めることが望ましい。				
学生に対する評価	課題への取り組み状況（40点）、課題発表・模擬授業（40点）、レポート（20点）等で、総合的に評価します。				
教科書（購入必須）	適宜、資料を配布、もしくは視聴覚教材を使用する予定です。				
参考書（購入任意）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 杉野学 特別支援教育概論 大学図書出版 9784909655080 (ISBN) ・ 特別支援学校幼稚部教育要領小学部・中学部学習指導要領 ・ 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編（幼稚部・小学部・中学部） ・ 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部） ・ 特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部） ・ 特別支援学校高等部学習指導要領 ・ 特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（高等部） <p>その他、講義内で紹介します。</p>				

科目名	病弱教育学				
担当教員名	中澤 幸子				
学年配当	3年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	前期	必修選択	教職(特支)：必修	資格要件	教職(特支)：必修
実務経験及び授業内容	特別支援学校での教諭としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容				
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・病弱教育の概要が説明できる。 ・病弱児の教育的ニーズを知る。 ・病弱教育対象児を指導する際に必要な配慮事項を理解する。 ・病弱児の指導・支援方法の基本的な考え方がわかる。 ・病弱教育に求められる専門性について、自分なりの考えをまとめ、説明することができる。 				
授業の概要	病弱教育の歴史から病弱教育が果たしてきた役割、病弱教育の意義と課題について学びます。さらに病弱教育の対象となっている主な疾患とその特徴について理解を図るとともに、教育における実際の支援内容や指導方法、配慮事項等についても学びます。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション / 病気とは 2 病気の子どもの教育 3 病気の子どもの多様な学び場と支援 4 学習指導要領を踏まえた指導① 特別支援学校学習指導要領の概要 5 学習指導要領を踏まえた指導② 病気の状態に応じた指導の工夫と合理的配慮 6 各校における指導事例① 特別支援学校 7 各校における指導事例② 小・中学校等 8 各校における指導事例③ 特別支援学校等におけるセンター的機能 9 病気等の必要に応じた配慮事項① ～悪性新生物、神経筋疾患、呼吸器疾患～ 10 病気等の必要に応じた配慮事項② ～骨・関節系疾患、内分泌疾患、アレルギー疾患～ 11 病気等の必要に応じた配慮事項③ ～腎疾患、循環器系疾患、てんかん～ 12 病気等の必要に応じた配慮事項④ ～心身症及び精神疾患～ 13 病気等の必要に応じた配慮事項⑤ ～重症心身障害、医療的ケアが必要な子ども～ 14 病気等の必要に応じた配慮事項⑥ ～ターミナル期にある子ども～ 15 まとめ / 病弱教育における専門性 				
授業の留意点	特別支援学校教員免許に関わる講義でもあり、他の障害（知的障害、肢体不自由、病弱、聴覚障害、軽度発達障害、等）の教育課程・指導法についても理解を深めることが望ましい。				
学生に対する評価	授業振り返りレポート及び課題への取り組み状況（50点）、レポート（50点）等で総合的に評価します。				
教科書（購入必須）	特別支援学校の学習指導要領を踏まえた病気の子どものための教育必携 ジアース教育新社 ISBN 978-4-86371-520-2 その他適宜、資料・視聴覚教材を使用します				
参考書（購入任意）	<ul style="list-style-type: none"> ・杉野学 特別支援教育概論 大学図書出版 9784909655080 (ISBN) ・特別支援学校幼稚園教育要領小学部・中学部学習指導要領 ・特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編（幼稚園・小学部・中学部） ・特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（幼稚園・小学部・中学部） ・特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部） ・特別支援学校高等部学習指導要領 ・特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（高等部） 				

科 目 名	聴覚障害教育総論				
担当教員名	玉重 詠子				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	教職(特支)：必修	資 格 要 件	教職(特支)：必修
実務経験及び授業内容	聴覚領域担当の言語聴覚士として病院・更生相談所で20年以上臨床経験を持つ教員が、聴覚の病理・補聴・言語指導・福祉制度について指導する科目である。				
学習到達目標	<p>聴覚障害児教育について、以下の3点を学習到達目標とする。</p> <p>(1)聴覚の評価方法を説明できる。</p> <p>(2)補聴について説明できる。</p> <p>(3)聴覚障害領域における福祉制度を説明できる。</p>				
授業の概要	<p>特別支援教育の対象である聴覚障害に関連して学習する。聴覚の評価方法について学習し、障害程度と福祉制度について理解する。さらに補聴について理解し、聴覚障害児への支援について独自の工夫を考えられるようになる。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス きこえのしくみ 2 聴覚障害の評価1 純音聴力検査 3 聴覚障害の評価2 語音聴力検査 4 難聴の種類 福祉制度 5 補聴1 補聴器の種類 補聴器のしくみ 6 補聴2 補聴器の調整 7 補聴3 人工内耳のしくみ 8 聴覚障害教育の歴史と指導法 聴覚障害児の言語指導 				
授業の留意点	<p>耳の聴こえづらさが発達や日常生活に及ぼす影響について考えながら受講してほしい。純音聴力検査、語音聴力検査の復習をした上で、福祉制度や補聴の授業を受けてほしい。</p> <p>遠隔授業での実施を予定しているが、状況によっては変更する可能性がある。</p>				
学生に対する評価	<p>講義内課題30点、定期試験70点</p> <p>※状況により、定期試験を成績評価レポートに変更する可能性がある。</p>				
教科書(購入必須)	テキストは使用せず、プリントを参考資料として配布する。				
参考書(購入任意)					

科 目 名	障害児教育実習				
担 当 教 員 名	矢口 明				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	実 習
開 講 時 期	後 期	必 修 選 択	教 職 (特 支) : 必 修	資 格 要 件	教 職 (特 支) : 必 修
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	障がいをもつ子どもたちが在籍している特別支援学校において実習を行う。現場の実習指導者の指導のもと、特別支援学校の現状にふれることにより、特別支援学校教諭にとって必要不可欠な「子どもたちの障がい（特性）理解」「障がいに応じた適切な関わり」について学ぶ。				
学 習 到 達 目 標	教育においては、高い実践的指導力が求められている。教育実習では、幅広い知識と大学における経験とを十分に発揮し、具体的な経験を積む。職業としての魅力を十分に理解し、自らの課題を真摯に受け止めることを通じて、内省的実践者としての態度を育成することを目指す。				
授 業 の 概 要	教育実習は、北海道内の特別支援学校で行うこととし、教員として必要な知識・技能・態度に関する実践的能力を培う。 実習の成果を内省的にとらえることを通じて、自己の適性や職業に対する意欲を改めて把握し、進路選択や進路決定にいかす有用な機会ともなる。				
授 業 の 計 画	<p>各実習先の指導教員の監督・指導に基づいて、以下の内容を中心に実習する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育講話の聴講 2. 学習場面・生活場面の観察 3. 学習場面・生活場面の部分的指導 4. 授業計画の作成 5. 教材研究 6. 授業の実施 7. 研究授業（指導案作成・教材研究・授業・反省会） 				
授 業 の 留 意 点	基礎免許の教育実習の成果と反省を十分に活用して、障害のある児童生徒への教育に関する専門的な知識を生かして、授業を計画・実践・評価を行うことが望ましい。				
学 生 対 する 評 価	実習先の特別支援学校の評価及び研究授業の評価を総合的に判断して評価する。				
教 科 書 (購 入 必 須)	教育実習日誌（第3版）、学術図書出版社、2011年				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	食生活論				
担 当 教 員 名	黒河 あおい				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	保育士：選択
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	栄養教諭として食に関する指導・給食管理の経験を持つ教員が、幼児・児童・生徒の生活環境に適した食教育実践および学習の効果を引き出すため、食生活の変遷や現状について理解を深め、食文化に関する知識を修得させる科目				
学 習 到 達 目 標	幼児・児童・生徒の生活環境に適した食教育実践および学習の効果を引き出すため、食生活の変遷や現状について理解を深め、食文化に関する知識を修得する。				
授 業 の 概 要	前半は既存資料をもとに食生活の変遷現状および 幼児・児童・生徒の栄養・食活状況を把握し、家庭の食事や学校給食変遷を確認する。後半は日本における食文化を概観し、地域家庭の食事や学校給食の変遷を確認する。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 日本における食生活の変遷 2 日本における食生活の現状 3 全国調査にみる幼児児童生徒の栄養・食活状況 4 地域における幼児児童生徒の栄養・食活状況 5 家庭食の変遷 6 学校給食の変遷 7 日本の食文化・地域の食文化 8 幼児・児童生徒の食物アレルギー 9 「食事バランスガイド」について 10 地場産物と給食① 11 地場産物と給食② 12 演習①関心のある地域の地場産物を食べる 13 演習②給食における地場産物の活用を考える 14 演習③食に関する指導における地場産物の活用を考える 15 演習④地場産物についての発表、レポート提出 				
授 業 の 留 意 点	食および地域について広く関心をもって授業に臨んでほしい。				
学 生 に 対 す る 評 価	小テスト 20 点・発表レポート 20 点・毎回授業の振り返りレポート 60 点により総合的評価する。				
教 科 書 (購 入 必 須)	適宜、資料等を配布する。				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	社会保育論演習				
担 当 教 員 名	宮内俊一・長津詩織				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	学校現場で社会福祉士（SSW）として従事した教員及び児童相談所及び児童養護施設等で臨床経験を持つ教員が、体験的・能動的学びから子育て環境について理解し、社会的な保育とは何かを考え、実践レベルで社会的な保育をソーシャルスキル・トレーニングであるセカンドステップを通してどう実現するのかを指導する科目				
学 習 到 達 目 標	体験的・能動的な学びにより、子育て環境の整備、保護者支援、保育に関する社会の責任等「社会的な保育」に関する課題を明らかにすることができる。				
授 業 の 概 要	「社会保育論」での学修を踏まえ、実践レベルで「社会的な保育」をどう実現していくのかを学ぶ。教員が指定する各種ボランティア等保育に関わる社会的な取組を体験するフィールドワークをもとに、「社会的な保育」という観点からの課題を明らかにし、その解決に向けた方策を検討する。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 演習計画作成 3 ボランティア①実施 4 ボランティア②実施 5 ボランティア③まとめ 6 イベント①企画 7 イベント②実施 8 イベント③実施 9 イベント④まとめ 10 調査①（当事者インタビュー及びフィールド）①計画 11 調査②実施 12 調査③実施 13 調査④まとめ 14 演習全体の振り返り 15 報告会とまとめ 				
授 業 の 留 意 点	ボランティアやイベント、調査は教員が指定したものの中から選択することになり、具体的な回数は提示した授業計画から変更になる場合もある。 対面、場合によっては遠隔。				
学 生 対 する 評 価	提出物 40 点、講義における取組 60 点				
教 科 書 （購入必須）	特になし。				
参 考 書 （購入任意）					

科 目 名	教職概論（幼稚園）				
担 当 教 員 名	棚橋裕子・高島裕美				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	幼稚園：必修
実務経験及び授業内容	幼稚園教諭としての実務経験を有する教員が、幼児理解を基盤とし、幼稚園教諭としての専門性や役割について、保育実践に則した指導を行う科目				
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教員・保育者に求められる仕事と役割の歴史の変遷について理解する。 ・現代の教員・保育者に求められる資質・能力、期待される役割について理解したうえで、教員・保育者の専門性について自分なりに考察する。 ・学校・保育施設の役割の多様化を理解し、教職の意義や多職種との連携・協働の在り方について考察する。 				
授業の概要	<p>時代の移り変わりとともに、教員・保育者に期待される役割や、実際の職務内容・範囲は大きく変化してきた。一方で、教職には、いつの時代も変わらない（不易の）役割が存在する。この両面について、具体的な事例を用い学習する。</p> <p>また、学校・保育施設が担う役割や社会的要請の多様化について理解し、上記をふまえたうえで、教員・保育者の専門性、多職種との連携・協働の在り方について考察する。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 インTRODクシヨN 2 教員・保育者への道：教員・保育者養成カリキュラム、教員免許・保育士資格の意義 3 現代の子どもの生活と学校・保育施設①：子どもの生活と幼稚園・保育施設 4 現代の子どもの生活と学校・保育施設②：幼児教育・保育と学校教育との接続 5 教員・保育者の仕事と役割①：教育・保育実践の内容と方法 6 教員・保育者の仕事と役割②：子どもの遊びから 7 教員・保育者の仕事と役割③：幼稚園教諭の仕事と役割の実際（1） 8 教員・保育者の仕事と役割④：幼稚園教諭の仕事と役割の実際（2） 9 教員・保育者にかかわる制度・法律①：教員・保育者の身分保障と服務義務 10 教員・保育者にかかわる制度・法律②：労働者としての教員・保育者 11 教員・保育者をめぐる諸問題①：教育・保育に求められる役割の変化、教職における「不易と流行」 12 教員・保育者をめぐる諸問題②：教職員集団の変化（多職種との連携・協働等）、子ども集団の変化 13 教員・保育者をめぐる諸問題③：教員・保育者をめぐる労働問題 14 教員・保育者の専門性とは①：グループワーク 15 教員・保育者の専門性とは②：まとめ 				
授業の留意点	出席は前提となる。やむを得ない事情を除き欠席はしないこと。				
学生に対する評価	授業への関心・意欲・態度（20点）、提出課題（80点）により評価する。				
教科書（購入必須）	特に指定しない。適宜プリント等を配布する。				
参考書（購入任意）	授業のなかで適宜紹介する。				

科 目 名	子ども家庭福祉 I				
担 当 教 員 名	宮内俊一・長津詩織				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	保育士：必修
実務経験及び授業内容	児童相談所及び児童養護施設等で臨床経験を持つ教員が、子ども家庭福祉の現状と課題について指導する科目				
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 子ども家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権について理解する。 3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 4. 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。 5. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。 				
授業の概要	<p>「子ども家庭福祉」という考え方、理念、歴史の変遷、法律、制度や実施体系等の基本的な知識を理解し保育との関連性及び子どもの権利について学ぶ。また、子ども虐待等における事例研究・分析を通して実際の具体的な支援方法及び子ども家庭福祉の現状や動向を学び、今後の課題や展望についても考える。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 子ども家庭福祉の理念と概念 2 子ども家庭福祉の歴史の変遷 3 子どもの人権擁護 4 子ども家庭福祉の制度と実施体系 5 母子保健と子どもの健全育成 6 多様な保育ニーズへの対応 7 子ども虐待・DV（ドメスティックバイオレンス）とその防止 8 貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応 9 障害のある子どもへの対応 10 少年非行等への対応 11 少子化と地域子育て支援 12 子育て世代の親たちの就労環境と子育て困難 13 次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進 14 子ども家庭福祉の施設と専門性 15 地域における連携・協働とネットワーク 				
授業の留意点	前半は基本的な理念や理論を踏まえることを重点に上げるため、教科書を用いて授業を進める。後半は子ども虐待等様々な問題を抱える家族を考え、具体的な実践事例を取り上げて、その意義を一緒に考える機会を作る。また、新聞記事などのプリントも配布して使用する。対面、場合によっては遠隔。				
学生に対する評価	提出物 70 点、講義における取組 30 点				
教科書（購入必須）	山縣文治編「よくわかる子ども家庭福祉」ミネルヴァ書房				
参考書（購入任意）	ミネルヴァ書房編集部編「社会福祉用語辞典」ミネルヴァ書房 山縣文治編「社会福祉小六法」ミネルヴァ書房				

科 目 名	社会的養護 I				
担 当 教 員 名	宮内 俊一				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	児童相談所及び児童養護施設等で臨床経験を持つ教員が、社会的養護の意義、現状及び課題について指導する科目				
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 4. 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。 5. 社会的養護の現状と課題について理解する。 				
授 業 の 概 要	社会的養護の歴史の変遷、現在の社会的養護の理念、基本的原理について学ぶ。次に、現在の児童相談所を中心とした児童養護の仕組みや制度、実施体系等について学びさらに、実際の家庭的養護、施設養護の人権擁護及び自立支援等について理解を深め、今後の社会的養護のあり方について考える。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会的養護の理念と概念 2 社会的養護の歴史の変遷 3 子どもの人権擁護と社会的養護 4 社会的養護の基本原則 5 社会的養護における保育士等の倫理と責務 6 社会的養護の制度と法体系 7 社会的養護の仕組みと実施体系 8 社会的養護とファミリーソーシャルワーク 9 社会的養護の対象 10 家庭養護と施設養護 11 社会的養護に関わる専門職 12 社会的養護に関する社会的状況 13 施設等の運営管理 14 被措置児童等の虐待防止 15 社会的養護と地域福祉 				
授 業 の 留 意 点	<p>基本的な概念や理論について、教科書を中心に授業を進める。必要に応じて、具体的な実践事例を取り上げて、その意義を一緒に考える機会を作る。また、新聞記事などのプリントも配布して使用する。</p> <p>対面、場合によっては遠隔。</p>				
学 生 に 対 す る 評 価	提出物 70 点、講義における取組 30 点				
教 科 書 (購 入 必 須)	中山正雄 監修 浦田雅夫 編著「よりそい支える社会的養護 I 第 2 版」教育情報出版				
参 考 書 (購 入 任 意)	<p>ミネルヴァ書房編集部編「社会福祉用語辞典」ミネルヴァ書房</p> <p>山縣文治編「社会福祉小六法」ミネルヴァ書房</p>				

科 目 名	保育者論				
担 当 教 員 名	傳馬淳一郎・長津詩織				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修
実務経験及び授業内容	保育士の経験を持つ教員が、子どもの育ちを支える保育者としての知識や方法について学び、保育における保育者の役割について指導する科目				
学習到達目標	(1) 保育者の役割と倫理について理解する (2) 保育士の制度的な位置づけを理解する (3) 保育士の専門性について考察し、理解する (4) 保育者の協働について理解する (5) 保育者の専門職的成長について理解する				
授業の概要	保育者の社会的役割や倫理、職務内容について理解を深めるとともに、保育士の制度的位置づけや専門性、保育者に求められる連携や協働について学ぶ。また、保育実践から専門職者としての成長について考え、自らの目指すべき保育者像を追求する。 現代社会における保育者の役割について、制度や他の専門機関、家庭との関わりなどを踏まえながら学修する。また、保育者として必要とされる知識・技術や保育者の専門職としての成長について、事例等を通じながら学ぶことによって、社会的役割を果たすための保育者像について考える。				
授業の計画	1 保育者の役割と倫理 (担当 傳馬) 2 保育士の制度的位置づけ (担当 傳馬) 3 保育士の専門性 養護と教育 (担当 傳馬) 4 保育士の専門性 保育士の資質・能力 (担当 傳馬) 5 保育と保護者支援にかかわる協働 (担当 傳馬) 6 保育者の協働 専門職観及び専門機関との連携 (担当 傳馬) 7 保育者の協働 保護者及び地域社会との連携 (担当 傳馬) 8 保育者の協働 家庭的保育者等との連携 (担当 傳馬) 9 保育士の専門性 知識・技術及び判断 (担当 長津) 10 保育士の専門性 保育の省察 (担当 長津) 11 保育者の専門職的成長 専門性の発達 (担当 長津) 12 保育者の専門職的成長 生涯発達とキャリア形成 (担当 長津) 13 保育職場の諸課題：保育者集団とリーダーシップ (担当 長津) 14 保育職場の諸課題：保育者集団と労働条件 (担当 長津) 15 まとめ より良い保育者を目指して (担当 傳馬)				
授業の留意点	講義形式ではありますが、演習や討議を含め主体的に参加することを求めます。				
学生に対する評価	期末レポート（70点）を主な評価の対象とするが、授業への出席・参加状況（15点）と小レポート（15点）により総合的に評価する。				
教科書（購入必須）	講義時に資料を配布する。				
参考書（購入任意）	岸井・無藤・柴崎監修『保育者論—共生へのまなざし—』同文書院 中島常安・清水玲子編著『事例から見える 子どもの育ちと保育』同文書院				

科 目 名	子ども教育心理学				
担当教員名	糸田 尚史				
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	幼稚園：選択
実務経験及び授業内容	児童相談所と児童家庭支援センターにおいて心理臨床の実務経験を有する教員が、子どもの「教育」という営為に有効とされる心理学的な知見について指導する科目				
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの教育・保育にかかわる心理学の理論と実践を学ぶ。 ・子どもに関する教育心理学の理論と知識を修得する。 ・子どもに関する教育心理学の理論や知識を現場に応用できる力を身につける。 ・教師としての自覚と責任を持つ。 				
授業の概要	本講義は教育心理学の理論を子どもにかかわる援助において統合的に活かすことを目指して行われる。子どもの教育は単なる経験からだけでは行えず、机上の理論だけでも役には立たない。子どもの心身の発達や学びに関する心理学的理解をしっかりと身につけ、それを教育・保育の現場での実践に活かせるようにする。子どもの発達、学習、動機づけ、記憶、知能、パーソナリティ、神経発達症群（発達障害）のなどに関する理解と援助について、多様な映像を視聴したり、実際に体験してみたりすることにより、アクティブに学ぶ。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 履修上の注意事項、成績評価の方法、教育心理学実験 2 子どもの学習心理学：子どもの学びへの理解 3 子どもの教育心理学：養護及び教育の一体的展開 4 子どものモチベーション心理学：人的環境としての保育者と主体的・対話的な深い学び 5 子どもの記憶心理学：子どもは生活や遊びから覚えていく 6 子どもの知能心理学：知力への理解と知的能力発達の過程 7 子どもの認知心理学：認知・学習の能力を理解・援助するための心理学的道具と資源 8 子どものパーソナリティ心理学：子どもの気質・性格への理解と援助 9 子どもの発達心理学：発達の課題に応じた援助と関わり 10 子どもの社会心理学：集団における他者との経験と社会性（社会情動）の育ち 11 子どものアフォーダンス心理学：保育における生活空間（環境）の理解と構成 12 子ども教育心理学における個人的ドキュメントの使用法：観察、記録、省察・評価、対話、情報共有 13 子どもの臨床心理学：子どもの心身の課題に対する理解と援助 14 子どもの発達障害心理学：特別な配慮を要する子どもへの理解と援助 15 発達の連続性と就学への支援：心理アセスメントと教育支援（就学相談） 				
授業の留意点	視覚にうったえる図や写真をなど多く盛り込んだカラー印刷による資料を配布する。既に配布済みのものを遡って使用することがあるため、配布資料は遺漏なく綴り、持参していただきたい。				
学生に対する評価	試験（60点）・提出物（20点）・受講態度（20点）の合計点で評価する。提出物（20点）は毎時の「気づき・学び」ペーパーの作成と提出である。				
教科書（購入必須）	『最新保育士養成講座』総括編纂委員会 編 2020 『最新保育士養成講座 第6巻 子どもの発達理解と援助』 全国社会福祉協議会出版部 陳省仁・古塚孝・中島常安 編 2003 『子育ての発達心理学』 同文書院				
参考書（購入任意）	鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃 編 2020 『心理学：第5版補訂版』 東京大学出版会 高嶋景子・砂上史子 編 2019 『新しい保育講座③ 子ども理解と援助』 ミネルヴァ書房 清水益治・森俊之 編集 2019 『子どもの理解と援助』 中央法規 子安増生・名和政子ほか 著 2018 『発達と学習（教職教養講座）』 共同出版 下山晴彦・遠藤利彦・齋木潤 編 2014 『誠信 心理学辞典（新版）』 誠信書房 ナイジェル・C.ベンソン 著（清水佳苗・大前泰彦 訳） 2001 『マンガ 心理学入門：現代心理学の全体				

科 目 名	子ども家庭支援の社会・心理学				
担 当 教 員 名	糸田尚史				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修
実務経験及び授業内容	児童相談所と児童家庭支援センターにおいて家族療法など心理臨床の実務経験を有する教員が、子ども家庭の生涯発達・社会的状況・精神保健に関して心理学的な見地からの理解を促し、支援の方法などについて指導する科目				
学習到達目標	<p>(1)生涯に互る発達に関する心理学的な知見、各期における発達課題、乳・幼児期の重要性等について理解し、保育することができる。</p> <p>(2)家庭・家族の意義や構造-機能、親子関係や家族関係等を発達論的・システム論的に理解し、子どもと家庭を社会的・文化的・歴史的に捉え、支援することができる。</p> <p>(3)現代の家庭生活に関わる問題の現状を知り、それらの問題と経済的・社会的背景とを関連づけて理解することができる。</p> <p>(4)子どものメンタル・ヘルスと精神保健福祉的な課題について理解・考察し、適切に家族心理学的援助やリファーマ（ラル）することができる。</p>				
授業の概要	乳児期・幼児期・学童期・青年期・成人期・老年期などの各段階における子どもと養育者の発達課題や精神保健（心の健康）について学修する。また、家族の中で生まれ育ち、就労し、子どもを生き育てるとい生活の営みが「今日なぜ大変と感じられるのか」についても幅広い視点から考える。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス：履修上の注意事項、成績評価の方法、イントロダクション 2 生涯発達①：乳児期における社会・心理学的発達 3 生涯発達②：幼児期における社会・心理学的発達 4 生涯発達③：学童期における社会・心理学的発達 5 生涯発達④：思春期・青年期における社会・心理学的発達 6 生涯発達⑤：成人期・老年期における社会・心理学的発達 7 家族の社会・文化・歴史的理解①：ホームやファミリーの意義及び構造-機能 8 家族の社会・文化・歴史的理解②：親子関係・家族関係 9 家族の社会・文化・歴史的理解③：養育経験と母性・父性・親性の発達 10 子育てを取り巻く社会的状況 11 ライフコースと仕事・子育て 12 多様な家族とその支援：特別な配慮を要する子ども家庭の理解と支援 13 発達支援が必要な子ども家庭の理解と援助 14 子どもの心の健康と精神保健福祉的課題①：子どもの生活・育成環境とその影響 15 子どもの心の健康と精神保健福祉的課題②：子どもの心の健康にかかわる諸問題と家族療法 				
授業の留意点	現代社会における人間の生涯にわたる心理学的発達とそれにかかわる家族（家庭）の機能との力動的な関係について学ぶ。また、現代の日本で家庭生活を営む中で直面する問題について、経済や産業のあり方との関係を踏まえ、社会保育学的視点から検討する。				
学生に対する評価	<ol style="list-style-type: none"> (1) 期末試験 70 点 (2) 講義時におけるリアクションペーパー 30 点 				
教科書（購入必須）	大倉得史・新川泰弘 編 2020 『子ども家庭支援の心理学入門』 ミネルヴァ書房				
参考書（購入任意）	<ol style="list-style-type: none"> (1) 高橋恵子・波多野諠余夫 著 1990 『生涯発達の心理学』 岩波書店 (2) 我部山キヨ子・菅原ますみ 編 2016 『(助産学講座) 基礎助産学(4) 母子の心理・社会学 第5版』 医学書院 (3) 柏木恵子 著 2013 『おとなが育つ条件：発達心理学から考える』 岩波書店 (4) 小田切紀子・野口康彦・青木聡 編/内田伸子他 著 2017 『家族の心理』 金剛出版 (5) 団士郎 著 2013 『対人援助職のための家族理解入門：家族の構造理論を活かす』 中央法規出版 (6) 滝川一廣 著 2017 『子どものための精神医学』 医学書院 (7) 小出まみ 著 1999 『地域から生まれる支えあいの子育て：ふらっと子連れで Drop - in!』 ひとなる書房 				

科 目 名	保育指導論				
担 当 教 員 名	棚橋 裕子				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修 幼稚園：必修
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	幼稚園教諭としての実務経験を有する教員が、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示されている「ねらい」「内容」を基に、具体的な保育計画作成についての方法や作成における留意点、また、実践の系統性や計画と実践の往還性についてカリキュラムマネジメントの観点から指導を行う科目				
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育方法の基礎理論の理解を基底に、カリキュラムの意義や内容についての理解を深める。 ・ 発達理解を踏まえ、教育方法の理論に基づいた指導・援助、技術について理解する。 				
授 業 の 概 要	幼稚園教育要領の理解を基に、教育方法の基礎理論について具体的な事例を取り上げながら、指導・援助のあり方など保育技術について理解する。また、教育課程・指導計画と保育の関連性についての理解とともに、実践に根ざした指導のあり方を学ぶ。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 保育とは 2 幼稚園、保育園、認定こども園における保育の内容 3 教育課程、保育課程の意義と理解 4 幼児期の遊びと発達の意義 5 環境を通して行う保育の意義と保育者の役割① 6 環境を通して行う保育の意義と保育者の役割② 7 子ども理解に基づいた保育のあり方① 8 子ども理解に基づいた保育のあり方② 9 子どもの遊びの多様性と経験の捉え 10 子どもの育ちに即した環境の作り方、捉え方① 11 子どもの育ちに即した環境の作り方、捉え方② 12 保育における ICT の活用 13 子どもの育ちが見える保育記録 14 指導計画の作成と保育の展開① 15 指導計画の作成と保育の展開② 				
授 業 の 留 意 点	講義形式の授業ではあるが、演習やディスカッションも含めるため、授業を通して能動的に考えたり発言したりすること。				
学 生 に 対 す る 評 価	授業内レポート（20点）期末試験（70点）授業態度（10点）により評価する。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	授業において資料を配付				

科 目 名	保育内容・人間関係 I				
担 当 教 員 名	糸田 尚史				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修・幼稚園：必修
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	児童相談所と児童家庭支援センターにおいて「遊び方教室」の開催などの実務経験を有する教員が、子どもの社会性や対人技能の発達を支援する方法などについて指導する科目				
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの自立心を育て、子どもの対人関係力を涵養できる保育者をめざす。 ・領域「人間関係」のねらいと内容を理解する。 ・幼児期の人間関係の発達を理解する。 ・教育実践における保育内容「人間関係」の支援法（指導法）について修得する。 				
授 業 の 概 要	子どもが人と親しみ、支えあって生活するための領域「人間関係」について、幼児期の人間関係の発達の特徴を学ぶ。子どもが自立心を持ち、人とかかわる力を涵養するために保育者が幼児期の教育において構成すべき保育内容の支援法（指導法）を種々の演習により実践的に理解する。具体的にはテキスト、映像、スライド、ホワイト・ボード、紐、紙、テープ、情報機器などのツールも活用して、模擬保育、集団遊び、集団ゲーム、ロールプレイ、即興劇（サイコドラマ）、集団討論、グループワークなどの方法も取り入れながら、演習する。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 領域「人間関係」の内容とねらい（なんでもバスケット、自己開示） 2 幼児期の人間関係の発達（1）子どもと養育者とのアタッチメントや信頼関係の発達（寄り道散歩①） 3 幼児期の人間関係の発達（2）子どもどうしの仲間関係における情緒・社会性の発達（花一匁、王様・大臣・門番、じゃんけん） 4 幼児期の人間関係の発達（3）子どもの人間関係をめぐる現代的課題（心理ゲーム①） 5 学童期以降の人間関係の発達（心理ゲーム②） 6 子どもと保育者とのアタッチメントや信頼関係の形成（手遊び歌①） 7 子どもの社会的自我の発達と社会情動の自己コントロール（人間関係の絵本） 8 子ども集団のなかでのトラブルへの介入・支援（即興劇） 9 遊びにおける人間関係（1）遊びをとおして対人関係性の発達を促す支援（遊び方教室①） 10 遊びにおける人間関係（2）周辺環境のアフォーダンスを活用した遊び（寄り道散歩②） 11 遊びにおける人間関係（3）ICT（情報通信技術）を活用した遊び（手作りゲーム） 12 遊びにおける人間関係（4）脳（前頭葉）の発達を促す社会情動的スキル遊び（手遊び歌②） 13 幼児期の人間関係におけるつまずき（1）神経発達症（気になる子）への支援（遊び方教室②） 14 幼児期の人間関係におけるつまずき（2）家庭との連携、専門職連携（遊び方教室③） 15 子どもたちの社会的環境と領域「人間関係」（人間関係を語る） 				
授 業 の 留 意 点	動きやすい服装での出席を指示することがある。 表現演習室での実践的な演習が基本となるが、ときに音楽室・児童文化演習室・屋外（大学周辺）などで行うこともある。 グループに分かれての討論や実技には積極的に参加していただきたい。				
学 生 対 する 評 価	中間レポート（20点）・試験（60点）・提出物（20点）の合計点で評価する。提出物は毎時の「気づきと学び」にかかわるリアクション・ペーパーの作成・提出である。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	陳省仁・古塚孝・中島常安 編 『子育ての発達心理学』 同文書院 2003年 幼少年教育研究所 編 『遊びの指導：乳・幼児編』 同文書院 2009年				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	森口佑介 著 『自分をコントロールする力：非認知スキルの心理学』 講談社 2019年 文部科学省 著 『平成29年告示・幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（原本）』 チャイルド本社 2017年 無藤隆・古賀松香 編 『社会情動的スキルを育む「保育内容 人間関係」：乳幼児期から小学校へつながる非認知的能力とは』 北大路書房 2016年 無藤隆 監修・指導 『スキルあそび45：人とかかわり方を育てる』 日本標準 2010年				

科 目 名	保育内容・表現Ⅱ（造形）				
担 当 教 員 名	堀川 真				
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	保育士：選択 幼稚園：選択
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	絵本作家として活動中であり、言葉や造形あそびを研究している教員が、保育の現場における創作活動や造形あそびの事例等を通して、内面世界の発達と心の理解を指導する科目				
学 習 到 達 目 標	「保育内容・表現Ⅰ」での学修を踏まえ、造形活動の実際を体験し、月齢に応じた指導上での留意点や工夫について考えながら、より高度な知識・技能を身につける。				
授 業 の 概 要	<ul style="list-style-type: none"> 前半の「多様な素材」は、材料や環境に向き合いながら、子どもの反応を想定した活動ができるよう制作に取り組む。 後半の「絵本づくり」は、着想から製本までの総合的な制作を通して、こどもの発達に対応した絵本づくりや絵本理解を身につける。絵本の内容については個別に対応し、個々の発想を重視した活動とする。 				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 風とあそぶ 2 多様な素材 (1) 厚紙：ハンペルマン 3 多様な素材 (2) 箱：カメラ 4 多様な素材 (3) 土：石膏型取り 5 多様な素材 (4) 水：染めあそび 6 多様な素材 (5) 古紙：新聞紙であそぶ 7 多様な素材 (6) 廃材：街をつくる 8 様々な造形パフォーマンス 9 絵本づくり (1) 構想 10 絵本づくり (2) 下絵～彩色 11 絵本づくり (3) 彩色～仕上げ 12 絵本づくり (4) 製本の技法 13 絵本づくり (5) 糊付け 14 絵本づくり (6) 製本 15 まとめ 				
授 業 の 留 意 点	必要に応じて道具・材料を提示するので準備すること。				
学 生 に 対 する 評 価	授業における取り組みと提出物(70点)、内容(30点)。				
教 科 書 (購 入 必 須)	必要に応じてその都度プリントを配布する。				
参 考 書 (購 入 任 意)	特になし				

科 目 名	就学児保育 A (思春期の支援)				
担 当 教 員 名	宮内俊一・佐々木彰				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単 位	開 講 形 態	演 習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	保育士：選択
実務経験及び授業内容	児童相談所及び児童養護施設等で臨床経験を持つ教員が、思春期の子どもたちが抱える様々な課題への支援を指導する科目				
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における就学児保育の意義と歴史的変遷について理解する。 2. 就学児保育と児童福祉の関連性及び児童の権利擁護について理解する。 3. 就学児保育の制度や実施体系等について理解する。 4. 就学児保育における児童の人権擁護及び自立支援等について理解する。 5. 就学児保育の現状と課題について理解する。 6. 就学期の子どもたちの心の問題をよく理解した上での支援が行える。 				
授業の概要	思春期は、心身ともに大きな成長を遂げる時期であるが、それ故にまた、それまでの心と育ちの課題がいじめや、非行、不登校などのいわゆる「問題行動」として現れやすい時期でもある。それら「問題行動」への対応は、その後の子どもの成長に大きな影響を与える。この授業では、この時期の子どもたちをどのように理解し、支援していくかを学ぶ。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 就学児を取り巻く状況 (担当宮内俊一) 2 神経発達症(発達障害) (担当佐々木彰) 3 愛着障害 (担当佐々木彰) 4 ストレス因関連障害(適応障害、PTSD等) (担当佐々木彰) 5 心身症、身体症状症(身体表現性障害) (担当佐々木彰) 6 反抗挑発症、素行症、窃盗症 (担当佐々木彰) 7 うつ、情緒障害、不安症 (担当佐々木彰) 8 嗜癖性障害(インターネットゲーム障害、電子メディア依存症等) (担当佐々木彰) 9 摂食障害、緘黙、チック症/トゥレット症など (担当佐々木彰) 10 虐待を受ける子どもたち (担当宮内俊一) 11 児童養護施設等の子どもたち (担当宮内俊一) 12 非行少年 (担当宮内俊一) 13 ひきこもり・不登校児童 (担当宮内俊一) 14 情緒障害児 (担当宮内俊一) 15 スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカー (担当宮内俊一) 				
授業の留意点	具体的な事例を取り上げて、一緒に考える機会を作る。また、関連するプリントも配布して使用する。事前学習を必須とする。 対面、場合によっては遠隔。				
学生に対する評価	提出物 70 点、講義における取組 30 点				
教科書(購入必須)	山縣文治編「よくわかる子ども家庭福祉」ミネルヴァ書房(宮内：1年次子ども家庭福祉 I で購入したものを使用するため再購入は必要なし)				
参考書(購入任意)	ミネルヴァ書房編集部編「社会福祉用語辞典」ミネルヴァ書房 山縣文治編「社会福祉小六法」ミネルヴァ書房				

科 目 名	子ども理解と教育相談				
担 当 教 員 名	糸田 尚史				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	幼稚園：必修
実務経験及び授業内容	児童相談所と児童家庭支援センターにおいて心理検査や家族療法など心理臨床の実務経験を有する教員が、子どもの発達及びその障害に関して心理学的な見地からの理解を促し、相談援助の方法などについて指導する科目				
学習到達目標	<p>テーマ：子どもの心や行動への理解と教育相談にかかわる心理学的理論及び実践方法を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児期の子ども理解にかかわる基礎的理論と幼児期の子どもの教育との関連を理解する。 ・ カウンセリングの基礎理論を理解し、カウンセリングに必要な諸技能を修得する。 ・ 教育相談の意義を理解し、教育支援の諸技法を実践できる。 ・ 幼児期の子ども発達と家庭や社会における現代的な諸問題について学び、それに対する実際的な支援方法（心理的支援やソーシャルワーク的支援）を状況即応的に応用できる。 				
授業の概要	心理学領域で発展してきた子ども理解のための基礎理論と方法、保健医療福祉分野で実践されてきた相談（ソーシャルワーク）やカウンセリングの基礎理論と方法を学び、教師が行う子ども理解と教育相談での活用について修得する。近年、注目されている神経発達症（発達障害）への理解とその教育相談も取り扱う。DSM-5やICD-11により名称や概念が変化しつつある発達症や情緒・社会性の発達にかかわる教育相談、支援の実際、教育支援（就学相談）、関係機関との連携等について解説する。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 子どもの発達理解と教育相談の意義：定型発達（認知発達・人格発達）、発達の遅れと偏り、神経発達症群（発達障害）、心身の障害、非社会的行動、反社会的行動 2 子ども理解の理論①：愛着（アタッチメント）理論、認知発達理論、社会的認知理論、正統的周辺参加理論 学び合う共同体 3 子ども理解の理論②：幼児期の教育理論、社会・文化的アプローチ、社会構成主義的アプローチ、臨床発達心理学理論 4 子ども理解の理論③：フロイト理論（第一の勢力）と精神分析、スキナー理論（第二の勢力）と応用行動分析、ロジャース理論（第三の勢力）とカウンセリング 5 子ども理解の方法：行動観察法、面接法、社会診断、心理アセスメント法（新版K式発達検査2020、WPPSI-III、WISC-IV、KABC-II、DN-CAS、改訂版ITPA、各種投影法検査） 6 子ども・保護者への心理・教育的支援：カウンセリングマインドによるカウンセリング、遊戯治療、ナラティブ・セラピー、家族療法、長所活用型指導 2E/二重の特別支援教育 7 子どもの心理臨床①：現代における子どもの多様な臨床症状、神経発達症群（発達障害・気になる子）、心身の障害の理解と教育相談 8 子どもの心理臨床②：言語発達遅滞、コミュニケーション症、知的発達症（知的能力障害）等の教育相談 9 子どもの心理臨床③ 自閉スペクトラム症（ASD）、注意欠如・多動症（ADHD）、限局性学習症（SLD）、運動症（MD）等の教育相談 10 子ども・養育者の心理臨床：子ども・養育者における精神の障害への理解と支援 11 子どもの情緒・社会性の問題①：非社会的行動への理解と支援 12 子どもの情緒・社会性の問題②：反社会的行動への理解と支援 13 子どもの情緒・社会性の問題③：臨床社会心理学的な行動への理解と支援 14 子どもの教育支援：教育委員会の活動と教育支援（就学相談） 15 子ども相談と連携：地域での専門職連携（IPW）とソーシャルワーク、関係機関（児童相談所・児童家庭支援センター・教育委員会・児童発達支援事業所等）との連携、幼小の円滑な接続 				
授業の留意点	ケース・スタディやグループ・ワークでは積極的に参加し、活発に意見を述べ合うことを期待する。				
学生に対する評価	試験（60点）・提出物（20点）・受講態度（20点）の合計点で評価する。提出物は毎時の「気づきと学び」ペーパーの作成・提出である。				
教科書（購入必須）	陳省仁・古塚孝・中島常安 編 2003 『子育ての発達心理学』 同文書院 吉田武男監修 高柳真人・前田基成・服部環・吉田武男 編 2019 『MINERVA はじめて学ぶ教職16 教育相談』 ミネルヴァ書房				
参考書（購入任意）	<ol style="list-style-type: none"> (1) 藤田和弘 著 2019 『「継次処理」と「同時処理」 学び方の2つのタイプ：認知処理スタイルを生かして得意な学び方を身につける』 図書文化社 (2) 菊野春雄 編 2016 『乳幼児の発達臨床心理学：理論と現場をつなぐ』 北大路書房 (3) 佐伯胖 著 2014 『幼児教育へのいざない：改訂増補版』 東京大学出版会 (4) 佐伯胖・大豆生田啓友・汐見幸恵ほか 著 2013 『子どもを「人間としてみる」ということ』 ミネルヴァ書房 (5) 小山充道 編・糸田尚史 分担執筆 2008 『必携 臨床心理アセスメント』 金剛出版 (6) マクナミー&ガーゲンほか 著（野村・野口 訳） 2014 『ナラティブ・セラピー』 遠見書房 				

科 目 名	児童文化演習				
担当教員名	堀川 真・石本 啓一郎				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択	資 格 要 件	保育士：選択・幼稚園：選択
実務経験及び授業内容	児童文化を研究している教員が、保育の現場における読み聞かせ等の読書活動やことばあそびの事例等を通して、児童文化の発達と表現力の向上を指導する科目				
学習到達目標	演習を通して児童文化への理解を深め、遊びの指導者としての技術・技能を身につけるとともに、創造することの喜びと感動を体験し、保育場面での活用意欲を高める。 絵本作家との対話を通し、絵本の魅力と表現への理解を深める。				
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本読み聞かせの実演を全員に課す。 ・展開可能な工作を多く身につけ、子どものうちにある同時代的文化に速やかに対応できるようにする。 ・パネルシアターの制作と上演を通して、保育士としての表現力の向上をめざす。 ・動物園に行き、動物の特性を理解し、描く際のポイントを知る。 ・絵本作家による講義を通して絵本の魅力を理解するとともに、着想の背景や完成までの過程を知る。 				
授業の計画	1 オリエンテーション (担当:堀川) 2 お店屋さんごっこ(1) お弁当、たべもの (担当:堀川) 3 お店屋さんごっこ(2) ケーキ (担当:堀川) 4 お店屋さんごっこ(3) アクセサリー (担当:堀川) 5 お店屋さんごっこ(4) 各グループ任意制作 (担当:堀川) 6 お店屋さんごっこ(5) 発表会準備 (担当:堀川) 7 お店屋さんごっこ(6) 発表会 (担当:堀川) 8 紙芝居大会(1) 前半3グループ、3会場にて実演 (担当:堀川) 9 紙芝居大会(2) 後半3グループ、3会場にて実演 (担当:堀川) 10 パネルシアター(1) しかけの理解 (担当:堀川) 11 パネルシアター(2) 制作の実践・内容の検討 (担当:堀川) 12 パネルシアター(3) 制作の実践・材料の選択 (担当:堀川) 13 パネルシアター(4) 制作の実践・効果の確認 (担当:堀川) 14 パネルシアター(5) 発表会準備 (担当:堀川) 15 パネルシアター(6) 発表会 (担当:堀川)	16 あそびを組織する(1) 「あそびの大会」計画づくり (担当:堀川) 17 あそびを組織する(2) 「あそびの大会」ゲームづくり (担当:堀川) 18 あそびを組織する(3) 「あそびの大会」景品づくり (担当:堀川) 19 あそびを組織する(4) 「あそびの大会」準備 (担当:堀川) 20 あそびを組織する(5) 「あそびの大会」発表会 (担当:堀川) 21 動物を見つめる(1) 鳥類 (担当:石本) 22 動物を見つめる(2) 類人猿 (担当:石本) 23 動物を見つめる(3) 哺乳類 (担当:石本) 24 動物を見つめる(4) 爬虫類 (担当:石本) 25 動物を見つめる(5) 北海道産動物 (担当:石本) 26 動物絵本を知る(1) 構想 (担当:石本) 27 動物絵本を知る(2) 各場面を考える (担当:石本) 28 動物絵本を知る(3) 完成に至るまで (担当:石本) 29 動物絵本を知る(4) 動物学と民俗学 (担当:石本) 30 動物絵本を知る(5) まとめ (担当:石本)			
授業の留意点	必要に応じて道具・材料を提示するので準備すること。				
学生に対する評価	授業における取り組みと提出物(70点)、内容(30点)。				
教科書(購入必須)	必要に応じてその都度をプリントを配布する。				
参考書(購入任意)	特になし				

科 目 名	図画工作 I				
担 当 教 員 名	堀川 真				
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修・幼稚園：必修
実務経験及び授業内容	絵本作家として活動中であり、言葉や造形あそびを研究している教員が、保育の現場における創作活動や造形あそびの事例等を通して、内面世界の発達と心の理解を指導する科目				
学習到達目標	造形あそびと絵画制作における基礎的な技法を身につけ、豊かな感性を持ち、多様な表現に共感し楽しむことができる。				
授業の概要	造形あそびと絵画指導上の留意点について実作を通して学ぶ。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 保育における造形分野の役割とかんたん工作 2 絵画制作 (1) 描画の発達と軟筆画 (フロッタージュ) 3 絵画制作 (2) 描画の発達と水彩画 (デカルコマニー) 4 工作 (1) お面、かぶりもの 5 工作 (2) 子どもの日、ハロウィンの仮装 6 工作 (3) ストロー人形 7 工作 (4) 凧、飛行機凧、くるくるヘビ 8 工作 (5) 折紙飛行機、折紙ロケット 9 工作 (6) けん玉、わりばし鉄砲、びゅんびゅんゴマ 10 工作 (7) 紙版画、ステンシル 11 工作 (8) とびだすカード 12 工作 (9) 折紙 13 工作 (10) 音を出してみる 14 工作 (11) 壁面構成 15 まとめ 				
授業の留意点	必要に応じて道具・材料を指示するので準備すること。				
学生に対する評価	授業における取り組みと提出物(70点)、内容(30点)。				
教科書 (購入必須)	特になし				
参考書 (購入任意)	『3・4・5 歳児の保育に 作ってあそべる製作ずかん』(学研 今野道裕：著)				

科 目 名	図画工作Ⅱ				
担当教員名	堀川 真				
学 年 配 当	4年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	保育士：選択 幼稚園：選択
実務経験及び授業内容	児童相談所と児童家庭支援センターにおいて児童文化の実務経験を有する教員が、子どもの「造形想像」発展に有効とされる技能・知見について指導する科目				
学習到達目標	絵本作家として活動中であり、言葉や造形あそびを研究している教員が、保育の現場における創作活動や造形あそびの事例等を通して、内面世界の発達と心の理解を指導する科目				
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・「図画工作Ⅰ」での学修を基礎とし、一般的な幼児のための造形技法のみならず、より高度な技法な制作活動を行う。 ・日本の昔話を題材にした人形劇、影絵劇の制作と上演を行い、舞台上における表現力、演出力の向上を目指す。 				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション（木工・箸をつくる） 2 窯芸（1） 成形 3 窯芸（2） 焼成 4 仮装（1） 構想と制作 5 仮装（2） 制作と発表会 6 紙版画（1） カレンダー制作・製版 7 紙版画（2） カレンダー制作・印刷 8 人形劇・影絵劇をつくる（1） 構想・脚本の制作 9 人形劇・影絵劇をつくる（2） 役割の分担 10 人形劇・影絵劇をつくる（3） 人形をつくる 11 人形劇・影絵劇をつくる（4） 背景をつくる 12 人形劇・影絵劇をつくる（5） 発表準備・人形操作および光の理解と工夫 13 人形劇・影絵劇をつくる（6） 発表準備・人形操作および光の工夫と修正 14 人形劇・影絵劇をつくる（7） 発表会 15 まとめ 				
授業の留意点	必要に応じて道具・材料を指示するので準備すること。				
学生に対する評価	授業における取り組みと提出物(70点)、内容(30点)。				
教科書（購入必須）	必要に応じてその都度、プリントを配付する。				
参考書（購入任意）	特になし。				

科 目 名	児童文化				
担 当 教 員 名	堀川 真				
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	幼稚園：選択
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	児童文化を研究している教員が、保育の現場における読み聞かせ等の読書活動やことばあそびの事例等を通して、児童文化の発達と心の理解を指導する科目				
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主な「児童文化」に関する知識と実際を知り、その特性や実践上の留意点について理解する。 ・ 「児童文化」が保育分野に果たす役割を考える中で日本の子ども文化の特性を知る。 ・ 幼稚園・保育所・学校・地域における文化活動の発展の方向を考える。 				
授 業 の 概 要	伝承あそびからおもちゃ・絵本・人形劇・紙芝居・テレビ等まで、児童文化が果たす役割をできるだけ実例提示、実演する中で紹介し、その特性と課題について学ぶ。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 子どもを取り巻く文化状況 2 あそびについて 「あそび」の持つ意味 と集団づくりに役立つ遊び 3 伝承あそびについて 伝承遊びの紹介と実演 4 おもちゃについて おもちゃの役割と特性、手づくりおもちゃ 5 おもちゃについて 郷土玩具、グッドトイの紹介 6 ゲームについて ビデオゲームのはじまりと今日のあり様 7 紙芝居について 発達史と上演の留意点 8 演じるあそびについて ごっこあそび、劇遊び、劇、人形劇 9 昔話について 昔話とは何か、昔話の魅力 10 絵本小史 絵本の歴史と20世紀初頭海外の展開 11 絵本小史 絵本の歴史と日本戦後の展開 12 絵本創作の背景 実作を通してみる課程と配慮 13 読書推進活動を考える 公共図書館と地域家庭文庫 14 テレビ論 児童向けテレビ番組に見る社会との同期性について 15 まとめ 授業の感想と児童文化についての考察・発表 				
授 業 の 留 意 点	講義科目ではあるが、科目の性格上、多少の演習を含む。				
学 生 に 対 す る 価 値	授業における取り組みと提出物(70点)、内容(30点)。				
教 科 書 (購 入 必 須)	その都度必要に応じてプリントを配布する。				
参 考 書 (購 入 任 意)	特になし。				

科 目 名	特別な教育的ニーズの理解とその支援				
担 当 教 員 名	安永 啓司				
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修・幼稚園：必修
実務経験及び授業内容	特別支援学校幼稚部教員や保育所等へのコーディネーターの経験を話題に討論し指導する科目				
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. インクルーシブ保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害等のある子ども及びその保育について理解する。 2. 様々な障害について理解し、子どもの理解や援助の方法、環境構成等について学ぶ。 3. 障害等のある子どもの保育の計画を作成し、個別支援及び他の子どもとのかかわりのなかで育ち合う保育実践について理解を深める。 4. 障害等のある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解する。 5. 障害等のある子どもの保育にかかわる保健・医療・福祉・教育等の現状と課題について理解する。 				
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> (1) インクルーシブ保育を支える理念、 (2) 障害等の理解と保育における発達の援助、 (3) インクルーシブ保育の実際、 (4) 家庭及び関係機関との連携、 (5) 障害等のある子どもの保育にかかわる現状と課題 などについて学び、演習を行う。 				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 障害等の理解と援助①（障害とは何か？） 2 障害等の理解と援助②（特別のニーズと支援） 3 障害等の理解と援助③（特別支援教育の理念、歴史、法制度） 4 障害等の理解と援助④（討論：障害と個性） 5 障害等のある子どもの保育の実際①（療育機関・特別支援学校の現状） 6 障害等のある子どもの保育の実際②（小学校・中学校等の現状） 7 障害等のある子どもの保育の実際③（保育園・幼稚園の現状） 8 障害等のある子どもの保育の実際④（討論：差別について） 9 連携の仕組みと支援計画①（関係機関との連携） 10 連携の仕組みと支援計画②（保護者の支援、保護者との連携） 11 連携の仕組みと支援計画③（個別の支援計画等の作成） 12 連携の仕組みと支援計画④（討論：支援を繋げるために） 13 これからのインクルーシブ保育①（特別支援教育から権利条約まで） 14 これからのインクルーシブ保育②（インクルーシブ保育への可能性） 15 これからのインクルーシブ保育③（討論：インクルージョンの展望と課題） 				
授業の留意点	演習科目であり、積極的な発言等を求めます。				
学生に対する評価	リアクションペーパー30点、レポート70点で評価する。				
教科書（購入必須）	橋本創一・渡邊貴裕・林安紀子・久見瀬明日香・工藤傑史・大伴潔・安永啓司・田口悦津子編 『知的・発達障害のある子のための「インクルーシブ保育」実践プログラム』 福村出版 2012年				
参考書（購入任意）	梅永雄二、島田博祐、森下由規子編著『みんなで考える特別支援教育』北樹出版 2019 橋本創一、三浦巧也、渡邊貴裕、尾高邦生、堂山亜希、熊谷 亮、田口禎子、大伴 潔編著『キーワードで読み解く特別支援教育・障害児保育&教育相談・生徒指導・キャリア教育』福村出版 2020年				

科 目 名	知的障害者教育課程論				
担 当 教 員 名	安永 啓司				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	特別支援：必修
実務経験及び授業内容	特別支援学校 3 校で 33 年間教員を務めて得た教育内容や仕組みを体系的に指導する科目				
学習到達目標	「特殊教育」から現在の「特別支援教育」に至る過程を理解しながら、今後の展望を見通すことを目的とする。特別支援教育の理念を十分に理解しながら、障害特性に応じた教育の計画と評価を可能とするために、国によって定められる「学習指導要領」に基づいて、各学校で編成される教育課程の意義と立案の際の留意点等について理解をしていく。				
授業の概要	知的障害を中心とする教育について、教育史、教育の目的及び教育形態の概要と、学校が教育的活動を計画し、実践する際のよりどころとなる教育課程の概要を理解する。 あわせて、近年のノーマライゼーションやインクルージョンの潮流に基づいた、制度・教育的変遷の意義と課題を概観する。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 知的障害とは（イントロダクション） 認知、学習、生活、自立 2 障害児教育の概要(1) 東京学芸大学附属特別支援学校の教育の実際 3 障害児教育の概要(2) 特別支援学級の教育の実際 4 障害児教育の対象の拡大と教育の本質的課題 「生きる力」を中心に 5 障害児教育の教育形態（特別支援学校、特別支援学級、通級学級、特別支援教室） 6 教育課程の概念と原理 国による法令と基準 7 学習指導要領改訂の変遷と意義 社会背景と教育内容の整備 8 教育課程の開発と編成 個別的教育支援計画、個別の指導計画 9 各教科の指導 生活科、かず・ことば 10 領域の指導 自立活動 11 各教科等を合わせた指導 生活単元学習、総合的な学習 12 学習指導案の作成の視点 授業改善、授業評価 13 チームティーチングの方法 授業計画、授業反省と教材開発 14 教育制度と法令 学校制度、教科書、学級編制 15 障害児教育の専門性と教師キャリア 地方公務員法、教育公務員特例法、服務、研修 				
授業の留意点	ディスカッションを多数行うため、積極的に参加すること。				
学生に対する評価	講義における小レポート（30 点）、最終試験結果（70 点）により評価する。				
教科書（購入必須）	橋本創一他編著『特別支援教育の新しいステージ：5つの I（アイ）で始まる知的障害児教育の実践・研究』福村出版 2019				
参考書（購入任意）	橋本創一、三浦巧也、渡邊貴裕、尾高邦生、堂山亞希、熊谷 亮、田口禎子、大伴 潔編著『キーワードで読み解く特別支援教育・障害児保育&教育相談・生徒指導・キャリア教育』福村出版 2020 年 特別支援学校教育要領・学習指導要領 特別支援学校学習指導要領解説（総則等編） 特別支援学校学習指導要領解説（自立活動編）				

科 目 名	知的障害者教育方法論				
担 当 教 員 名	安永 啓司				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	特別支援：必修
実務経験及び授業内容	特別支援学校3校で33年間教員を務めて得た教育内容や仕組みを体系的に指導する科目				
学習到達目標	知的障害を中心とする教育において、発達の諸相と障害特性についての理解を深め、効果的な指導方法を導き、その効果を評価－改善していくプロセス（Plan-Do-See）の意義と具体的な指導について理解を深める。				
授業の概要	知的障害のある子どもの生活や学習における困難さやニーズを理解し、適切に支援するための方法論として応用行動分析学の基本的理論や原理を中心に、それらを活用するための個別の指導計画の仕組みや授業や教材の工夫について学修する。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 知的障害のある子どもの理解と教育 2 行動観察とアセスメント 3 応用行動分析学に基づく支援（1）行動分析の理論 4 応用行動分析学に基づく支援（2）行動の形成と強化 5 応用行動分析学に基づく支援（3）課題分析と連鎖化 6 応用行動分析学に基づく支援（4）問題行動と機能分析 7 応用行動分析学に基づく支援（5）社会的強化と言語行動 8 応用行動分析学に基づく支援（6）積極的行動支援 9 自立活動と個別の指導計画の作成（1） 10 自立活動と個別の指導計画の作成（2） 11 授業の工夫と改善（1）各教科の指導 12 授業の工夫と改善（2）各教科等を合わせた指導 13 自閉症のある人の事例で学ぶ 14 ダウン症のある人の事例で学ぶ 15 知的障害のある人の自立と社会参加とは（まとめ） 				
授業の留意点	ディスカッションを多数行うため、積極的に参加すること。				
学生に対する評価	毎回の講義における小レポート（30点）と期末レポート課題の結果（70点）により評価する。				
教科書（購入必須）	橋本創一他編著『特別支援教育の新しいステージ：5つのI（アイ）で始まる知的障害児教育の実践・研究』福村出版 2019				
参考書（購入任意）	特別支援学校教育要領・学習指導要領 特別支援学校学習指導要領解説（総則等編） 特別支援学校学習指導要領解説（自立活動編）				

科 目 名	肢体不自由者教育課程論				
担 当 教 員 名	藤川 雅人				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	特別支援：必修
実務経験及び授業内容	特別支援学校（肢体不自由）教諭の経験を有する教員が、肢体不自由教育の教育内容や方法、教育課程の基本について指導する科目				
学習到達目標	肢体不自由児の障害特性を理解し、肢体不自由教育の教育内容・方法を学び、教育課程の基本について理解する。肢体不自由教育の授業づくりの基本的視点を理解し、教育実践の基盤を形成することを目標とする。				
授業の概要	肢体不自由児の障害の基礎的な特徴を概説し、肢体不自由教育の教育課程、指導方法について実践例を交えた教育を行う。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 肢体不自由の定義 障害認定と教育 2 肢体不自由教育の現状 特別支援学校、特別支援学級、通常の学級 3 肢体不自由教育のあゆみ 肢体不自由教育の歴史 4 発達と障害の基礎理解 乳児期の反射、学習、経験 5 脳性まひの発達と障害の基礎的理解 障害特性と支援 6 肢体不自由の教育課程(1) 特別支援学校における教育課程 7 肢体不自由の教育課程(2) 自立活動① 8 肢体不自由の教育課程(3) 自立活動② 9 肢体不自由の教育課程(4) 小・中学校における教育課程 10 重度・重複障害の教育実践(1) 授業の実際① 11 重度・重複障害の教育実践(2) 授業の実際② 12 重度・重複障害の教育実践(3) 医療的ケア 13 肢体不自由児と家族の生活実態と支援 障害に基づく困難 14 肢体不自由教育の今日的課題 障害の重度・重複化、多様化 15 学習指導案と授業 授業研究の視点、改善のプロセス 				
授業の留意点	ディスカッションを多数行うため、積極的に参加すること。				
学生に対する評価	リアクションペーパー（30点）、期末レポート（70点）により評価する。				
教科書（購入必須）	特別支援学校幼稚部教育要領小学部・中学部学習指導要領 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編（幼稚部・小学部・中学部） 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部） 特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）				
参考書（購入任意）	新訂肢体不自由児の教育：放送大学教育振興会				

科 目 名	肢体不自由者教育方法論				
担 当 教 員 名	藤川 雅人				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	特別支援：必修
実務経験及び授業内容	特別支援学校（肢体不自由）教諭の経験を有する教員が、肢体不自由児の実態把握、指導や支援、授業実践について指導する科目				
学習到達目標	肢体不自由教育は、一人一人の子どもの運動障害の程度や知的発達に応じて、複数の教育課程が用意されている。本講義では、肢体不自由児の事例を通して、指導内容・指導方法及び授業実践の理解を深めることを目標とする。				
授業の概要	肢体不自由の単一障害や、二分脊椎、脊椎損傷等の知的障害を伴わない教育から、知的障害を伴う重複障害の子どもを対象とした教育まで含めて、肢体不自由児の実態把握や指導内容・方法を考える。実際の授業を行う上で必要とされる基礎的な理解を形成する。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 インTRODクシヨN 授業の進め方、学習マップ 2 肢体不自由教育の概要(1) 特別支援学校の教育の実際 3 肢体不自由教育の概要(2) 特別支援学級の教育の実際 4 肢体不自由児の実態把握 身体面、心理面、学習面 5 教育課程の開発と編成(1) 個別の教育支援計画 6 教育課程の開発と編成(2) 個別の指導計画 7 各教科の指導(1) 学習支援の方法、ICT機器の活用 8 各教科の指導(2) 指導の工夫と留意点 9 自立活動の指導 6区分27項目 10 各教科等を合わせた指導(1) 日常生活の指導、遊びの指導 11 各教科等を合わせた指導(2) 生活単元学習、作業学習 12 学習指導案の作成の視点(1) 授業評価 13 学習指導案の作成の視点(2) 授業改善 14 授業研究 反省協議、学習指導案への反映 15 肢体不自由教育のまとめ 				
授業の留意点	ディスカッションを多数行うため、積極的に参加すること。				
学生に対する評価	リアクションペーパー（30点）、期末レポート（70点）により評価する。				
教科書（購入必須）	特別支援学校幼稚部教育要領小学部・中学部学習指導要領 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編（幼稚部・小学部・中学部） 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部） 特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）				
参考書（購入任意）	新訂肢体不自由児の教育：放送大学教育振興会				

科 目 名	障害児教育実習事前事後指導				
担 当 教 員 名	安永啓司・奥村香澄・藤川雅人				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	特別支援：必修
実務経験及び授業内容	国立大学附属特別支援学校 3 校での教育実習生への指導経験を有する教員が、その知識と経験を生かした演習を主とし展開する科目				
学習到達目標	実習の意義と目的、実際の幼児・児童・生徒の実態把握の方法、指導計画の作成と指導案作成及び模擬授業を行い、それぞれの実習時期に合わせながら、全体及び個別指導を行う。事後指導においては、再度、教職の意義、教育公務員特例法の意義と教員の義務、キャリア形成等について復習し教職に対する心構えを確認する。				
授業の概要	特別支援教育に特有のアセスメントなどを再度確認の上、指導計画の作成を通じて障害児教育実習への準備を行う。実習後は授業研究などを通じて、実際の実習の振り返りと教職の意義の確認を行う。				
授業の計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別支援と集団による授業における指導計画のたてかた ・ 実態把握のための観察法 ・ 個別のアセスメント ・ 個別指導の方法と集団のダイナミズムの活用方法 ・ 年間指導計画の策定 ・ 個別の指導計画の作成 ・ 教科・領域の指導計画 ・ 学習指導案の作成 ・ 指導意図に基づいた教材の意義の確認と準備 ・ 模擬授業 ・ 授業研究会 ・ 計画の修正と確認 				
授業の留意点	相互模擬授業などを行うため、原則として欠席は認めない。				
学生に対する評価	模擬授業・指導計画作成・実習報告などを総合的に評価する。				
教科書 (購入必須)					
参考書 (購入任意)					

科 目 名	障害児教育実習				
担 当 教 員 名	安永啓司・藤川雅人・奥村香澄				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	実 習
開 講 時 期	通 年	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	特 別 支 援 : 必 修
実務経験及び授業内容	国立大学附属特別支援学校 3 校での教育実習生への指導経験を生かした指導による科目				
学習到達目標	特別支援学校における実習を通じて、それぞれの障害領域に対応した指導力及び、校内・校外におけるコーディネート能力など教員としてふさわしい能力を身につける。				
授業の概要	各支援学校において、指導案の作成、研究授業などを行う。				
授業の計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当該障害種における教育の概要（講義及び見学、活動参加実習）と教員の専門性及び服務 ・ 幼稚部から高等部及び専攻科を通した、教育の一貫性と自立支援の実際（講義及び見学） ・ 各教科・領域の授業参観 ・ 配属学級における学級経営の視点と方法 ・ 幼児、児童、生徒の実態の把握 ・ 個別の指導計画と学級経営を元にした指導計画の作成 ・ 各教科・領域の指導計画の作成 ・ 実習授業 ・ 研究授業 ・ 実習のまとめ 				
授業の留意点	実習の所定時間はすべて出席が求められるため、実習中の欠席は認められないので注意すること。				
学生に対する評価	学習指導、生活指導、実習態度について、実習校担当者が評価し、事前・事後指導の評価と総合して評価する。				
教科書 （購入必須）					
参考書 （購入任意）					

科 目 名	保育指導論演習				
担当教員名	棚橋 裕子				
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	選択	資 格 要 件	保育士：必修・幼稚園：選択
実務経験及び授業内容	幼稚園教諭としての実務経験を有する教員が、保育指導論での学びを基底に実際の保育記録（映像、画像、保育記録等）の検討を行い、幼児理解と実践的なスキルの向上をねらう。また、アクティブラーニング型の授業展開から協同的な作業と理解を通して課題解決に向かう過程について学ぶとともに、チームとしての動きについての意識を育てる科目				
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「保育指導論」での学修を踏まえ、子どもの発達を促す教育方法について実践的な力量を身につける。 2. 子どもの実態に即した適切な指導・援助のあるべき方法について、事例を通して自ら考えられる力量を身につける。 				
授業の概要	<p>保育指導論で学んだ知識をさらに深めるための講義を受けた上で、いくつかの事例について、グループワークやディスカッションを通して、その理解を確かなものにする。討議にあたっては、根拠・基準が何であるかを明確にしてその実践が優れた指導方法であるかどうかを判断する。これを踏まえた集団的討議は、反省的保育者あるいは実践的研究者となる礎を築くものであり、保育者に求められる協働性を培うことにもつながる。</p> <p>また、幼児教育のカリキュラムデザインについて、討議や演習を通し実践的な理解を深める。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション：授業概要と授業の受け方 2 発達観と教育方法の理論について（1）：講義 3 発達観と教育方法の理論について（2）：グループ討論 4 発達観と教育方法の理論について（3）：全体討論 5 環境を通しての教育について（1）：事例についてのグループ討論 6 環境を通しての教育について（2）：事例についての全体討論 7 領域「表現」と「言葉」を中心にした教育の方法について（1）：事例についてのグループ討論 8 領域「人間関係」を中心にした教育の方法について（1）：事例についてのグループ討論 9 領域「人間関係」を中心にした教育の方法について（2）：事例についての全体討論 10 行事の考え方と教育の方法について（1）：講義 11 行事の考え方と教育の方法について（2）：事例についてのグループ討論 12 行事の考え方と教育の方法について（3）：事例についての全体討論 13 当番活動の指導について（1）：事例についてのグループ討論 14 当番活動の指導について（2）：事例についての全体討論 15 まとめ 				
授業の留意点	<p>保育指導論の内容の振り返りを行うため、あらかじめ復習を行うこと。</p> <p>グループ討論について積極的な発言が求められる。</p>				
学生に対する評価	授業内レポート20点、期末レポート60点、授業態度（20点）により評価する。				
教科書（購入必須）	<p>文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーバル館</p> <p>厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーバル館</p>				
参考書（購入任意）	授業において資料を配付				

科 目 名	家庭支援実践演習				
担当教員名	傳馬 淳一郎				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択	資 格 要 件	保育士：選択
実務経験及び授業内容	保育士や学童保育での保育経験を持つ教員が、家庭支援について指導し、実際に子育て支援センターでの演習を通して、子育て支援の役割、方法について学ぶ科目				
学習到達目標	(1) 子育て家庭を取り巻く社会的状況を理解する。 (2) 子育ての実際に触れながら、保育士による子育て支援を理解する。 (3) 地域のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携の実際を学ぶ。 (4) 地域子育て支援センターなど家庭支援の実際に触れながら、保育士の役割と専門性について学ぶ。				
授業の概要	家庭支援は保育所のみが行うものではなく、地域には様々な取り組みがある。保育士は、時にそれらをコーディネートする役割をもつ。この講義では、フィールドワークを行い、名寄地域での取り組みから家庭支援のあり方を実践的に学ぶ。				
授業の計画	1 オリエンテーション 2 名寄市における子育て支援の実際 3 家庭支援の実際と保育士の役割 4 演習：フィールドワーク (1) 子育て支援センターの実際、保育士の役割を知る 5 演習：フィールドワーク (2) 親子の実際を知る～振り返り 6 演習の振り返り～子育て家庭の実際と子育て支援センターの実際～ 7 演習に向けての事前指導 8 演習に向けての準備①フィールドワークの振り返りと課題整理 9 演習に向けての準備②計画の立案と準備 10 演習：フィールドワーク (3) 環境設定 11 演習：フィールドワーク (4) 保護者とのコミュニケーションを目指して～振り返り 12 演習：フィールドワーク (5) 保護者との関係づくり 13 演習：フィールドワーク (6) 子育て支援をイメージしたかかわり～振り返り 14 演習の振り返り～家庭支援における保育士の役割と専門性～ 15 まとめ				
授業の留意点	講義、演習、実習を含め主体的に参加することを求めます。現場（主に地域子育て支援センター）での演習を行うため、日程の調整があります。				
学生に対する評価	演習後の日誌（振り返り）提出（20点×3回）を主な評価として、期末レポート（40点）と共に総合的に評価する。				
教科書（購入必須）	井村圭壯・相澤譲治編著『保育と家庭支援論』学文社 ※子ども家庭支援論と共通				
参考書（購入任意）	中島常安・清水玲子編著『事例から見える 子どもの育ちと保育』同文書院				

科 目 名	教育実習				
担 当 教 員 名	棚橋裕子・高島裕美				
学 年 配 当	3年	単 位 数	4単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	幼稚園：必修
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	幼稚園における4週間の実習を通して、現場の幼稚園教諭の指導の下、幼児理解を基底とし、実践力の育成や保育現場での具体的な仕事の内容や保育者の役割について学ぶ。				
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼稚園、認定こども園の役割や機能を具体的に理解する。 2. 観察や子どもとのかかわりを通して、子どもへの理解を深める。 3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。 4. 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5. 幼稚園教諭、保育教諭の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。 				
授 業 の 概 要	実習を通して幼稚園、認定こども園の役割や機能を理解し、直接対象にかかわりながら保育について総合的に学ぶ。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 幼稚園、認定こども園の役割と機能 (1)幼稚園、認定こども園の生活と一日の流れ (2)幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の理解と保育の展開 2 子ども理解 (1)子どもの観察とその記録による理解 (2)子どもの発達過程の理解 (3)子どもへの援助やかかわり 3 保育内容・保育環境 (1)保育の計画に基づく保育内容 (2)子どもの発達過程に応じた保育内容 (3)子どもの生活や遊びと保育内容 (4)子どもの健康と安全 4 保育の計画、観察、記録 (1)指導計画の理解と活用 (2)記録に基づく省察・自己評価 5 専門職としての保育者の役割と職業倫理 (1)幼稚園教諭、保育教諭の業務内容 (2)職員間の役割分担や連携 (3)幼稚園教諭、保育教諭の役割と職業倫理 				
授 業 の 留 意 点	<p>実習は、社会人としての一歩であり、社会で求められる姿が必要である。したがって、欠席・遅刻に関しては十分に留意すること。</p> <p>実習実施に関しては別途「教育実習および保育実習の実施要件」を定めている（実習指導、初回オリエンテーションにて説明）。要件に満たない場合は、実習を実施できない場合があるので注意すること。</p>				
学 生 に 対 す る 評 価	実習先での評価表を中心に、実習指導の受講状況、提出物等を加味して総合的に評価する。				
教 科 書 (購入必須)	テキスト・参考文献は、実習指導を参照				
参 考 書 (購入任意)					

科 目 名	教育実習指導				
担 当 教 員 名	棚橋裕子・高島裕美				
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	幼稚園：必修
実務経験及び授業内容	幼稚園教諭としての実務経験を有する教員が、幼稚園教育の目的や内容、保育者の援助等についての学びを基に、幼児理解、指導計画立案、教材研究等現場において必要な知識と技能を身につける。				
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解しし、自らの課題を明確にする。 3. 実習園における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の計画、実践、観察、記録、評価、の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。 				
授業の概要	実習先の決定にいたるまでの手続とその指導、幼稚園の理解、幼稚園教育要領の理解、学外実習の目的および内容の理解、必要な保育技術の習得、学外実習終了後の事後指導をその内容とする。実習終了後に、2・3年合同で実習報告会を行う。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育実習の意義と目的 2 教育実習の流れと内容 必要な書類や手続き等のおさえ 3 幼稚園、認定こども園における保育の理解と各要領の関連性 4 様々な事例に基づいた援助の多様性と役割 5 教育実習記録と日誌の書き方 6 保育における指導計画、指導案の位置づけ 7 指導計画、指導案の作成と保育の展開① 8 指導計画、指導案の作成と保育の展開② 9 実習に関する諸手続き 10 直前指導 実習前の確認事項等 11 教育実習後の振り返りと学びのおさえ まとめに向けて 12 教育実習の振り返り① 13 教育実習の振り返り② 14 教育実習報告会① 15 教育実習報告会② 				
授業の留意点	実習指導は、実習と同等に位置付けているため、欠席・遅刻をしないようにする。 なお、実習実施に関しては別途「教育実習および保育実習の実施要件」を定めている（初回オリエンテーションにて説明）。要件に満たない場合は、実習を実施できない場合があるので注意すること。				
学生に対する評価	受講態度、実習への姿勢、提出物等、総合的に判断する。				
教科書 (購入必須)	(保育実習指導・教育実習指導と共通) 『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 (原本)』チャイルド社 大豆生田啓友・三谷大紀・松山洋平編著『新しい講座 12 保育・教育実習』ミネルヴァ書房 小櫃 智子編著・田中 君枝他『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』わかば社				
参考書 (購入任意)					

科 目 名	保育実習 I				
担 当 教 員 名	傳馬淳一郎・宮内俊一				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	4 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	保育士：必修
実務経験及び授業内容	〔施設実習〕学校現場で社会福祉士（SSW）として従事した教員ならびに児童相談所及び児童養護施設等で臨床経験を持つ教員が、児童福祉施設等の役割や機能を理解し、実践的な学びについて指導する科目〔保育所実習〕保育所での保育経験を持つ教員が指導を行い、保育士としての役割、保育の方法など、実習を通して学ぶ科目				
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童福祉施設等（保育所および保育所以外）の役割や機能について実践を通して理解する。 2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもの理解を深める。 3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について学ぶ。 4. 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。 				
授業の概要	児童福祉施設等（保育所、居住型児童福祉施設等または障がい児通所施設等）で所定の期間実習を行う。児童福祉施設等の役割や機能、子どもの理解、保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。職員間の役割と連携について学ぶ。記録を通じて省察し、自己評価する。子ども家庭福祉や社会的養護の理解を深める。				
授業の計画	<p><保育所実習></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保育所の役割と機能（保育所保育士指針の理解と保育の展開） 2 子ども理解（1）子どもの観察とその記録による理解（2）子どもの発達の理解と援助 3 保育内容・保育環境（1）保育の計画に基づく保育内容（2）子どもの発達過程に応じた保育内容（3）子どもの生活や遊びと保育内容（4）子どもの健康と安全 4 保育の計画、観察、記録（1）保育課程と指導計画の理解と活用（2）記録に基づく省察・自己評価 5 専門職としての保育士の役割と職業倫理（1）保育士の業務内容（2）職員間の役割分担や連携（3）保育士の役割と職業倫理 <p><居住型児童福祉施設等及び障がい児通所施設等における実習></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 児童福祉施設等（保育所以外）の役割と機能 2 子どもの理解（1）子どもの観察とその記録（2）個々の状態に応じた対応 3 養護内容・生活環境（1）計画に基づく活動や援助（2）子どもの心身の状態に応じた対応（3）子どもの活動と生活環境（4）健康管理、安全対策の理解 4 計画と記録（1）支援計画の理解と活用（2）記録に基づく省察・自己評価 5 専門職としての保育士の役割と倫理（1）保育士の業務内容（2）職員間の役割分担や連携（3）保育士の役割と職業倫理 				
授業の留意点	実習は、社会人としての一歩であり、社会で求められる姿が必要である。したがって、欠席・遅刻に関しては十分に留意すること。各実習先の留意事項を順守すること。				
学生に対する評価	実習先での評価 50 点、受講状況 20 点、提出物等 30 点。				
教科書（購入必須）	大豆生田啓友・三谷大紀・松山洋平編著『保育・教育実習』ミネルヴァ書房※ 小櫃智子編著『実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド』わかば社※ 全国保育士養成協議会北海道ブロック編著『保育実習ガイドライン（福祉施設実習編）』 中島常安・清水玲子編『事例で学ぶ保育実践』同文書院 蒲田雅夫編著『考え、実践する施設実習』保育出版社 （※幼稚園教育実習指導と共通）				
参考書（購入任意）	全国保育士養成協議会編者『保育実習指導のミニマムスタンダード』北大路書房 小野澤昇・田中利則編者『福祉施設実習ハンドブック』ミネルヴァ書房				

科目名	保育実習指導 I				
担当教員名	傳馬淳一郎・宮内俊一・長津詩織・義基祐正				
学年配当	3年	単位数	2単位	開講形態	実習
開講時期	前期	必修選択	選択	資格要件	保育士（必修）
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習（保育所および保育所以外の児童福祉施設等）の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。 3. 児童福祉施設等における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通じて実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習を明確にする。 				
授業の概要	<p>保育実習の目的および内容の理解、保育所・児童福祉施設等の理解、保育所保育指針の理解、必要な保育技術の習得をその内容とする。実習先の決定にいたるまでの手続とその指導も行う。また、事後指導では、実習の総括や評価をもとに、課題を明確にし、学内での学修との統合を図る。</p>				
授業の計画	<p>保育実習指導 I 保育所</p> <p>第1回：保育実習の概要 第2回：保育実習 I 保育所の目的と概要 第3回：保育実習の意義・目的・内容の理解 第4回：保育所・認定こども園の理解と実習内容（実習の段階、子ども理解など） 第5回：プライバシーの保護と守秘義務 第6回：実習に向けての心構え（服装、挨拶、ネット利用など） 第7回：実習記録の意義・方法の理解（日誌の記入など） 第8回：保育計画、保育指導の理解（園の保育計画、カリキュラムなど） 第9回：実習施設（保育所・認定こども園）の理解 第10回：実習に関する諸手続き（個人票の作成・検便・健診などの確認） 第11回：実習課題の明確化・直前指導（欠席等の連絡方法、訪問指導などについて） 第12回：事後指導 実習内容の振り返り 第13回：事後指導 評価の確認（自己評価と園評価） 第14回：事後指導 課題の整理 第15回：実習総括</p>	<p>保育実習指導 I 施設</p> <p>第1回：施設実習 I の目的と概要 第2回：児童福祉施設等（保育園以外）の予備知識 希望調査 第3回：児童福祉施設等（保育園以外）の理解（児童養護施設、乳児院） 第4回：児童福祉施設等（保育園以外）の理解（障害児者関係等） 第5回：児童福祉施設等（保育園以外）での実習内容と課題 第6回：児童福祉施設等（保育園以外）の記録と心構え 第7回：子どもの人権と子どもの最善の利益の考慮 第8回：プライバシーの保護と守秘義務 第9回：実習計画作成 実習配属先決定回答書の指示事項確認 第10回：事後指導 個人の振り返り 第11回：事後指導 グループでの振り返り 第12回：事後指導 礼状 日誌 レポート 自己評価 アンケート等 第13回：事後指導 評価の確認 第14回：事後指導 課題の整理 第15回：実習総括</p>			
授業の留意点	<p>実習指導は、実習と同等に位置付けているので、欠席・遅刻は十分に留意すること。</p>				
学生に対する評価	<p>受講態度 20 点、実習への姿勢・意欲 50 点、提出物等 30 点。</p>				
教科書（購入必須）	<p>河邊貴子・鈴木隆編著『保育・教育実習―フィールドで学ぼう―』同文書院※ 小櫃智子編著『実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド』わかば社※ 全国保育士養成協議会北海道ブロック編著『保育実習ガイドライン（福祉施設実習編）』 中島常安・清水玲子編『事例で学ぶ保育実践』同文書院 蒲田雅夫編著『考え、実践する施設実習』保育出版社 （※幼稚園教育実習指導と共通）</p>				
参考書（購入任意）	<p>全国保育士養成協議会編者『保育実習指導のミニマムスタンダード』北大路書房 小野澤昇・田中利則編者『福祉施設実習ハンドブック』ミネルヴァ書房</p>				

科 目 名	保育実習Ⅱ				
担 当 教 員 名	傳馬淳一郎・及川智博				
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	保育士：選択必修
実務経験及び授業内容	保育実習Ⅰでの経験を踏まえ、保育所において保育経験を持つ教員が指導を行い、保育士としての役割、保育の方法など、実習を通して学ぶ科目				
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割や機能について実践を通して理解を深める。 2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもの理解を深める。 3. 既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援や地域への子育て支援について総合的に学ぶ。 4. 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 6. 保育士としての自己課題を明確にする。 				
授業の概要	保育所で所定の期間実習を行う。保育所の役割や機能、子どもの理解、保育士の業務内容や職業倫理について理解を深める。保育実習Ⅰでの課題を踏まえながら、指導計画の作成、実践、評価を通して保育士としての実践力を養う。実習のまとめ、評価を通して、保育士としての自己課題を明確にする。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 保育所の役割や機能の具体的展開 2 観察に基づく保育理解 (1) 子どもの心身の状態や活動の観察 (2) 生活の流れや展開の把握と保育士等の支援 3 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 (1) 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解 (2) 入所している子どもの保護者及び地域の子育て家庭への支援 4 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価 (1) 保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解 (2) 作成した指導計画に基づく保育実践と評価 5 専門職としての保育士の役割と職業倫理 (1) 多様な保育の展開と保育士の業務 (2) 多様な保育の展開と保育士の職業倫理 6 自己課題の明確化 				
授業の留意点	実習は、社会人としての一歩であり、社会で求められる姿が必要である。したがって、欠席・遅刻に関しては十分に留意すること。各実習先の留意事項を順守すること。				
学生に対する評価	実習先での評価 50 点、受講状況 20 点、提出物等 30 点。				
教科書 (購入必須)	大豆生田啓友・三谷大紀・松山洋平編著『保育・教育実習』ミネルヴァ書房※ 小櫃智子編著『実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド』わかば社※ 中島常安・清水玲子編『事例で学ぶ保育実践』同文書院※ (※保育実習指導Ⅰと共通)				
参考書 (購入任意)	全国保育士養成協議会編者『保育実習指導のミニマムスタンダード』北大路書房				

科 目 名	保育実習Ⅱ				
担 当 教 員 名	傳馬淳一郎・及川智博				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	保育士：選択必修
実務経験及び授業内容	保育実習Ⅰでの経験を踏まえ、保育所において保育経験を持つ教員が指導を行い、保育士としての役割、保育の方法など、実習を通して学ぶ科目				
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割や機能について実践を通して理解を深める。 2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもの理解を深める。 3. 既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援や地域への子育て支援について総合的に学ぶ。 4. 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 6. 保育士としての自己課題を明確にする。 				
授業の概要	保育所で所定の期間実習を行う。保育所の役割や機能、子どもの理解、保育士の業務内容や職業倫理について理解を深める。保育実習Ⅰでの課題を踏まえながら、指導計画の作成、実践、評価を通して保育士としての実践力を養う。実習のまとめ、評価を通して、保育士としての自己課題を明確にする。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 保育所の役割や機能の具体的展開 2 観察に基づく保育理解 (1) 子どもの心身の状態や活動の観察 (2) 生活の流れや展開の把握と保育士等の支援 3 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 (1) 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解 (2) 入所している子どもの保護者及び地域の子育て家庭への支援 4 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価 (1) 保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解 (2) 作成した指導計画に基づく保育実践と評価 5 専門職としての保育士の役割と職業倫理 (1) 多様な保育の展開と保育士の業務 (2) 多様な保育の展開と保育士の職業倫理 6 自己課題の明確化 				
授業の留意点	実習は、社会人としての一歩であり、社会で求められる姿が必要である。したがって、欠席・遅刻に関しては十分に留意すること。各実習先の留意事項を順守すること。				
学生に対する評価	実習先での評価 50 点、受講状況 20 点、提出物等 30 点。				
教科書 (購入必須)	大豆生田啓友・三谷大紀・松山洋平編著『保育・教育実習』ミネルヴァ書房※ 小櫃智子編著『実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド』わかば社※ 中島常安・清水玲子編『事例で学ぶ保育実践』同文書院※ (※保育実習指導Ⅰと共通)				
参考書 (購入任意)	全国保育士養成協議会編者『保育実習指導のミニマムスタンダード』北大路書房				

科 目 名	保育実習指導Ⅱ				
担 当 教 員 名	傳馬淳一郎・及川智博				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単 位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	保育士：選択必修
実務経験及び授業内容	保育実習Ⅰでの学びを踏まえ、保育所での保育経験を持つ教員が指導を行い、実習に伴う事前指導、訪問指導、事後指導を通して、保育士としての学びを深めるよう指導する科目				
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。 2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。 				
授業の概要	保育実習の目的・目標および内容の理解、必要な保育技術の習得等、総合的に学ぶ。保育実習Ⅰでの課題を踏まえながら、子ども理解、子育て支援など、保育士の専門性と職業倫理について理解し保育実践力を養う。事後指導では、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 保育実習Ⅱの目的と概要 2 保育所・認定こども園での実習内容（実習の段階、子ども理解、保護者支援など） 3 子どもの最善の利益と保育 4 地域社会との連携・子育て支援の事例検討 5 実習に向けての心構え（プライバシーの保護、守秘義務、服装、挨拶など） 6 実習記録の意義・方法（日誌の記入など） 7 保育計画、保育指導の理解 その1（園の保育計画、カリキュラムなど） 8 保育計画、保育指導の理解 その2（指導案の作成） 9 保育計画、保育指導の理解 その3（模擬保育） 10 保育計画、保育指導の理解 その4（指導案の作成と模擬保育の振り返り） 11 実習課題の明確化（欠席等の連絡方法、訪問指導などについて） 12 事後指導 礼状、日誌、レポート、自己評価（事務確認を含む実習内容の振り返りなど） 13 事後指導 評価の確認（自己評価と園評価との検討から今後の実習課題の検討） 14 事後指導 課題の整理 15 実習総括 				
授業の留意点	実習指導は、実習と同等に位置付けているので、欠席・遅刻は十分に留意すること。				
学生に対する評価	受講態度 20 点、実習への姿勢・意欲 50 点、提出物等 30 点。				
教科書（購入必須）	大豆生田啓友・三谷大紀・松山洋平編著『保育・教育実習』ミネルヴァ書房※ 小櫃智子編著『実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド』わかば社※ 中島常安・清水玲子編『事例で学ぶ保育実践』同文書院※ （※保育実習指導Ⅰと共通）				
参考書（購入任意）	全国保育士養成協議会編者『保育実習指導のミニマムスタンダード』北大路書房				

科 目 名	保育実習Ⅲ				
担 当 教 員 名	宮内俊一・長津詩織				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	保育士：選択必修
実務経験及び授業内容	学校現場で社会福祉士（SSW）として従事した教員ならびに児童相談所及び児童養護施設等で臨床経験を持つ教員が、児童福祉施設等の役割や機能を理解し、実践的な学びについて指導する科目				
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して、理解を深める。 2. 子どもの施設利用に至る経過について、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、子ども支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。 3. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 4. 保育士としての自己の課題を明確化する。 				
授業の概要	児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能、保育士の業務内容や職業倫理について実践を通して学び、保育士としての専門性、自己の課題を明確化する。また、子どもの日常生活やケースファイル等を通して施設入所に至る背景や生育史及び現状を理解し、子ども支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。保育実習Ⅰ（施設実習）を踏まえてさらに深める。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 児童福祉施設等(保育所以外)の役割と機能 2 施設における支援の実際 <ol style="list-style-type: none"> (1) 受容し、共感する態度 (2) 個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子ども理解 (3) 個別支援計画の作成と実践 (4) 子どもの家族への支援と対応 (5) 多様な専門職との連携 (6) 地域社会との連携 3 保育士の多様な業務と職業倫理 4 保育士としての自己課題の明確化 				
授業の留意点	実習は、社会人としての一歩であり、社会で求められる姿が必要である。したがって、欠席・遅刻に関しては十分に留意すること。各施設の留意事項を順守すること。				
学生に対する評価	実習先での評価 50 点、受講状況 20 点、提出物等 30 点。				
教科書 (購入必須)	河邊貴子・鈴木隆編著『保育・教育実習－フィールドで学ぼう－』同文書院 小林育子他編著『幼稚園・保育所・施設 実習ワーク』萌文書林 相馬和子・中田カヨ子編著『実習日誌の書き方』萌文書林 蒲田雅夫編著『考え、実践する施設実習』保育出版社 全国保育士養成協議会北海道ブロック編著『保育実習ガイドライン（福祉施設実習編）』				
参考書 (購入任意)					

科 目 名	保育実習指導Ⅲ				
担 当 教 員 名	宮内俊一・長津詩織				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	保育士：選択必修
実務経験及び授業内容	学校現場で社会福祉士（SSW）として従事した教員ならびに児童相談所及び児童養護施設等で臨床経験を持つ教員が、子どもの人権や守秘義務、実習の計画、実践、観察などの方法を具体的に理解するための科目				
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。 2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。 				
授業の概要	児童福祉施設等(保育所以外)の基本的な理解、実習の目的・目標および内容の理解、必要な保育技術の習得等、総合的に学ぶ。実際に居住型児童福祉施設等の生活に参加し、子どもへの理解、施設機能と保育士の専門性と職業倫理について理解し保育実践力を養う。実習の事後指導には、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 施設実習Ⅲのあり方 2 児童福祉施設（保育園以外）の予備知識 希望調査 3 児童福祉施設（保育園以外）の概要（児童養護施設、乳児院）について事例等を通して学ぶ 4 児童福祉施設（保育園以外）の概要（障害児者関係等）について事例等で学ぶ 5 児童福祉施設（保育園以外）での実習内容 6 児童福祉施設（保育園以外）の記録と心構え 7 保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践 8 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解 9 子どもの状態に応じた適切ななかかわり 10 保育士の専門性と職業倫理 11 実習前最終確認 12 事後指導 礼状 日誌 レポート 自己評価 アンケート等の確認 13 事後指導 評価の確認 14 事後指導 課題の明確化 15 実習総括 				
授業の留意点	実習指導は、実習と同等に位置付けているので、欠席・遅刻は十分に留意すること。 対面、場合によっては遠隔。				
学生に対する評価	受講態度 20 点、実習への姿勢・意欲 50 点、提出物等 30 点。				
教科書 (購入必須)	河邊貴子・鈴木隆編著『保育・教育実習－フィールドで学ぼう－』同文書院 小林育子他編著『幼稚園・保育所・施設 実習ワーク』萌文書林 相馬和子・中田カヨ子編著『実習日誌の書き方』萌文書林 全国保育士養成協議会北海道ブロック編著『保育実習ガイドライン（福祉施設実習編）』 蒲田雅夫編著『考え、実践する施設実習』保育出版社				
参考書 (購入任意)					